

令和5年度昭島市立学校学校経営重点計画（教育推進計画）年度末評価の結果について

1 目的

- ・各学校が、自らの教育活動その他の学校運営について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価することにより、学校として組織的・継続的に改善を図ること。
- ・各学校が、自己評価及び学校関係者評価の実施とその結果の説明・公表により、保護者、地域住民から自らの教育活動その他の学校運営に対する理解と参画を得て、信頼される開かれた学校づくりを進めること。
- ・教育委員会が、学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備等の必要な措置を講じることにより、教育の質を保証し、その向上を図ること。

2 スケジュール

- 4月 学校経営重点計画（教育推進計画）の作成・公表
- 7月～9月 自己評価（中間）の実施、学校評議員への報告
- 11月 児童・生徒、保護者アンケートの実施
- 12月～1月 自己評価（年度末）の実施
- 2月～3月 学校関係者評価の実施
- 3月 指導課への評価結果の提出

3 各学校の評価結果

別紙による

4 評価結果を受けて

- ・取組指標と成果指標は同じ評価であった学校が全体の55%であった。取組指標が成果指標より上回る学校が17%であり、取組指標が成果指標より下回る学校が28%であった。
- ・コロナ禍前の教育活動に戻り、食育に関する取組や話し合い活動、異学年交流や小中連携などにおいて、各校工夫しながらの取組がみられた。
- ・学校関係者評価では概ね肯定的な評価をいただいているが、各学校で取り組むべき課題について貴重なご意見をいただいた。
- ・年度末評価の結果を今年度の教育課程に活かすとともに学校経営重点計画（教育推進計画）の立案を行う。

令和5年度

昭島市立東小学校

学校経営重点計画(教育推進計画)年度末評価【総括表】

学校教育目標	◎よく考える子 ◎思いやりのある子 ◎健康で明るい子	ビジョン	【目指す学校像】	○子供たちが、安全・安心に楽しく過ごせる学校 ○家庭・地域と共にある学校 ○子供たちが、学ぶ喜びを実感できる学校
			【目指す児童・生徒像】	○自ら考え、主体的に学ぶ子供 ○互いを尊重し、思いやりのある言動をとることができる子供 ○心身ともに健康で、活力のある子供
			【目指す教師像】	○人権感覚を磨き、子供を大切にする教師 ○常に向上心を持ち、指導力向上に努める教師 ○公務員としての自覚を持ち、信頼される教師

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策							
確かな学力	学ぶ楽しさを実感できる授業改善の推進 日常の指導の充実	基礎的・基本的な学習内容の確実な定着	○指導と評価の一体化した授業 ○タブレット端末を活用した授業実践 ○学力調査の結果の分析及び授業改善推進プランの作成・実行 ○朝学習、家庭学習の充実	4 4項目全て取り組むことができた 3 3項目は取り組むことができた 2 2項目は取り組むことができた 1 1項目は取り組むことができた	3.5	4 90%以上の児童が授業が分かると回答 3 80%～90%未満の児童が授業が分かると回答 2 70%～80%未満の児童が授業が分かると回答 1 70%未満の児童が授業が分かると回答	4	○指導と評価の一体化を意識した指導を行った。 ○タブレット端末を活用して学習の振り返りやまとめを行った。 ○「分かる・できる」を実感できるように導入・振り返りの充実を図った。	○先生方の指導が意識化され充実している。 ○昨年度よりもタブレット端末を利用した授業が多く見られた。	A	○学校全体での計画的な朝学習の実施 ○家庭学習の充実に向けての児童・保護者への啓発方法の工夫 ○タブレット端末の更なる活用に向けて今年度の実践の伝達 ○個に応じた学習支援の工夫							
			読書に関する指導や読書の習慣化への取組を日常化した読書活動の充実	○朝読書の質の向上 ○読書月間の取組の充実 ○図書支援員の有効活用 ○定期的な意識調査の実施		4 4項目全て取り組むことができた 3 3項目は取り組むことができた 2 2項目は取り組むことができた 1 1項目は取り組むことができた		2.8	4 95%以上の児童が1～2時間以上の読書をしていると回答 3 85%～90%未満の児童が1～2時間以上の読書をしていると回答 2 80%～85%未満の児童が1～2時間以上の読書をしていると回答 1 80%未満の児童が1～2時間以上の読書をしていると回答		1	○朝読書や図書の時間を使って読書に取り組んだ。 ○定期的な意識調査ができなかった。	○読書へ主体的に取り組むには、習慣化が大切なので頑張してほしい。 ○環境整備(廊下等への一覧の掲示等)がもつとあるように。 ○読書活動に対して積極的な努力が見られる。	C	○本の紹介や読み聞かせの時間の確保 ○授業と関連のある本の教室への配置や並行読書の実施 ○意欲を向上させるような読書カードの工夫			
			多様性に応じた指導、インクルーシブ教育の推進	○校内委員会の充実 ○大空教員との共同実践 ○ユニバーサルデザインを意識した環境づくり ○障害理解の推進(研修)		4 4項目全て取り組むことができた 3 3項目は取り組むことができた 2 2項目は取り組むことができた 1 1項目は取り組むことができた			3.4			4 90%以上の児童が授業にすすんで取り組んでいると回答 3 80%～90%未満の児童が授業にすすんで取り組んでいると回答 2 70%～80%未満の児童が授業にすすんで取り組んでいると回答 1 70%未満の児童が授業にすすんで取り組んでいると回答	4		○校内委員会で情報共有・共通理解を図り組織で対応した。 ○特別支援教室と連携して対応した。 ○焦点化・構造化した授業づくりを心掛けた。 ○ユニバーサルデザインを意識した授業・環境づくりに努めた。	○校内委員会の充実が感じられる。 ○教室のユニバーサルデザインの視点から黒板の左側に「今日の予定」があるのは、気が散る。	A	○障害理解教育の全学年での実施 ○障害理解の研修への参加 ○全校での共通したユニバーサルデザインを意識した環境整備
			豊かな心	自然体験活動や福祉体験、勤労体験活動等の豊かな体験の場を設定し、人と関わり合いの中で、子供の内面を育てる道徳的な指導の実践		道徳全体計画、年間計画の見直しと「特別の教科 道徳」の授業改善と充実						○教職員同士による授業参観 ○道徳的価値や内容項目を明確にし、児童の変容を見取る ○年間指導計画の確実な実施 ○全教育活動を通じた道徳教育の実施			4 4項目全て取り組むことができた 3 3項目は取り組むことができた 2 2項目は取り組むことができた 1 1項目は取り組むことができた	3.0		4 90%以上の児童が自分や友達を大切にしていると回答 3 85%～90%未満の児童が自分や友達を大切にしていると回答 2 80～85%未満の児童が自分や友達を大切にしていると回答 1 80%未満の児童が自分や友達を大切にしていると回答
いじめの未然防止と早期発見、早期対応を推進し、安全で安心な学校の実現	○毎学期のアンケートを生かし、スクールカウンセラーや専門機関と連携し、いじめ・不登校0の実現	4 アンケート実施後の個別対応100% 3 アンケート実施後の個別対応95% 2 アンケート実施後の個別対応90% 1 アンケート実施後の個別対応85%			3.9	4 不登校(傾向を含む)人数0人 3 1人 2 2人 1 3人	3.3			○スクールカウンセラー、家庭と連携し、丁寧な個別対応を行った。 ○未然防止・早期発見と迅速な対応に努めた。 ○日々の児童の様子の変化を見逃さないように努めた。		○不登校の人数の少なさから学校の対応への努力が感じられる。			A			○確実な保護者との情報共有と連携・協力、丁寧な児童への支援の継続 ○関係機関との連携・協力を含んだ組織的な対応
学校行事等を通して異学年間の交流を深め、豊かな人間性の育成	○交流体験活動の実施 ○実践的体験活動の実施 ○栽培体験学習の実施 ○縦割り活動の充実	4 4項目全て取り組むことができた 3 3項目は取り組むことができた 2 2項目は取り組むことができた 1 1項目は取り組むことができた				3.3		4 90%以上の児童が学校が楽しいと回答 3 80%～90%未満の児童が学校が楽しいと回答 2 70%～80%未満の児童が学校が楽しいと回答 1 70%未満の児童が学校が楽しいと回答		4	○縦割り班活動が毎週行われたことで異学年との交流が活発になった。 ○縦割り班活動の前後に活動の意義を考えさせたり、振り返らせたりした。	○児童の自己有用感を育むために今後も継続してほしい。 ○縦割り活動が活発なのはよい取組だと思う。 ○異学年で挨拶する様子が多く見られるようになった。		B				○各学年で行った体験活動の一覧の作成 ○今年度の縦割り班活動の成果と課題の検証した改善策の作成 ○学級活動等での異学年交流の実施
健やかな体	様々な運動を体験させて、その特性に触れた運動技能を身に付けさせる体力向上の実践及び健康教育・食育の推進	学年や学級、異年齢集団での遊びの奨励						○休み時間の外遊びの奨励 ○運動に親しみやすい環境整備	4 毎週子供たちと一緒に遊ぶ時間の確保3回以上 3 2回 2 1回 1 0回		2.9	4 90%以上の児童が遊んだり体を動かしたりすると回答 3 80%～90%未満の児童が遊んだり体を動かしたりすると回答 2 70%～80%未満の児童が遊んだり体を動かしたりすると回答 1 70%未満の児童が遊んだり体を動かしたりすると回答	3				○児童への外遊びへの声掛けを行った。 ○一緒に遊びコミュニケーションを取った。 ○他の対応等で一緒に遊ぶ機会があまりもてなかった。	○縦割り遊びを充実させ、活発化を図ってほしい。 ○児童の自己有用感を育むために今後も継続してほしい。
		年間を通した体力向上への取組(「元氣アップガイドブック」等の活用)	○「元氣アップガイドブック」の活用及び「グッドモーニング60分」への取組 ○運動の特性を生かす体育授業改善 ○めあてが明確な学習の展開 ○オリンピック・パラリンピック大会後のレガシーを生かした取組	4 4項目全て取り組むことができた 3 3項目は取り組むことができた 2 2項目は取り組むことができた 1 1項目は取り組むことができた				2.6	4 90%以上の家庭が体力向上に満足と回答 3 80%～90%未満の家庭が体力向上に満足と回答 2 70%～80%未満の家庭が体力向上に満足と回答 1 70%未満の家庭が体力向上に満足と回答			1				○児童が楽しんで取り組める授業を心掛けて行っている。 ○めあてを毎回提示し、ねらいを明確にして授業を行っている。 ○「元氣アップガイドブック」を十分に活用できていない。	○体力向上に向けての個人目標の設定が大切だと思う。 ○折を見る度に外遊びを奨励する。 ○主体的に取り組ませる工夫が必要である。	B
		食育の充実	○ランチルームの計画的な有効活用 ○栄養教諭や共同調理場と連携した食育の推進	4 1年間で食育に関する授業の実施3回以上 3 2回 2 1回 1 0回	3.3		4 1年間の残菜率7% 3 年間の残菜率8% 2 年間の残菜率9% 1 年間の残菜率10%		4						○栄養教諭による食育の授業を各学年で実施した。 ○ランチルーム使用時に栄養教諭による食育の指導を行った。	○残菜率7%は、素晴らしい。 ○残菜率の低さから食育の効果が出がえる。	A	
		輝く未来	人権尊重の精神を基調として心身ともに健康な児童の育成を目指し、自他の大切さを認め、人権課題について学び、権利と義務、自由と責任についての認識を深める。また、児童が未来を生き抜く力の育成	一人一人のよさを生かし、意欲とまとまりのある学級集団づくり		○学級満足度調査「Q-U」の結果を有効に生かした児童理解 ○学級満足度調査「Q-U」の結果を有効に生かした学級づくり ○学級満足度調査「Q-U」の結果を有効に生かした課題の把握・改善 ○学級経営の振り返り・評価・改善	4 4項目全て取り組むことができた 3 3項目は取り組むことができた 2 2項目は取り組むことができた 1 1項目は取り組むことができた			3.1				4 QUの結果で各学級の要支援群0人 3 1人 2 2人 1 3人	3	○心理士からのフィードバックを生かし、適切な支援を行った。 ○課題や実態の把握に生かすことができた。 ○児童理解の一助とすることができた。		
学級活動を中心に、全教育活動におけるキャリア教育の充実	○学校生活への適応 ○仲間づくり、集団の結束 ○自ら役割の自覚 ○年間指導計画に応じたキャリア教育の実践			4 4項目全て取り組むことができた 3 3項目は取り組むことができた 2 2項目は取り組むことができた 1 1項目は取り組むことができた		3.5	4 90%以上の児童が得意・ものを考えると回答 3 80%～90%未満の児童が得意・ものを考えると回答 2 70%～80%未満の児童が得意・ものを考えると回答 1 70%未満の児童が得意・ものを考えると回答				3		○学校生活のルールを適宜確認し、指導した。 ○学級活動の中でみんなが参加できる取組や全員が楽しめる工夫について考える機会を設けた。	○キャリア教育は小中学校9年間を見通した計画をつくりたい。 ○学校生活のルールの適宜確認し、指導することが定着には必要である。		B		
保護者・地域と連携し、様々な活動を通して、将来への希望をもたせる	○地域人材を活用した取組の充実 ○家庭訪問・個人面談の実施 ○専門機関との連携 ○PTA活動への理解と協力			4 4項目全て取り組むことができた 3 3項目は取り組むことができた 2 2項目は取り組むことができた 1 1項目は取り組むことができた			3.1	4 90%以上の児童が将来について考えたと回答 3 80%～90%未満の児童が将来について考えたと回答 2 70%～80%未満の児童が将来について考えたと回答 1 70%未満の児童が将来について考えたと回答				3	○必要に応じて家庭への連絡を行い面談を実施した。 ○スクールカウンセラーや心理士との情報共有を行った。 ○地域人材を活用した取組ができなかった。 ○PTAの活動に協力・参加できなかった。	○コロナが明けて地域行事とどう連携するかが課題である。 ○地域人材の活用への取組を知りたい。 ○PTA、地域と学校行事との関わり方を工夫して活発にしたい。				A

令和5年度

昭島市立共成小学校

学校経営重点計画(教育推進計画)年度末評価【総括表】

学校教育目標	○ 助け合う子 ◎ 考える子【重点目標】 ○ きたえる子	ビジョン	【目指す学校像】	○児童が、「学びがよい」「協働意識」「心と体の元気」を感じる学校 ○児童が、「なりたい自分」を目指す学校
			【目指す児童・生徒像】	○すすんで学び、自分を高めようとする子ども ○自分を大切にし、共に伸びようとする子ども ○心と体に関心をもち、たくましく生きようとする子ども ○自分のよさを自覚し、自己決定ができる子ども
			【目指す教師像】	○温かな教育をする教師 ○子どもを第一に考えて思考する教師 ○共生小の教育に貢献する教師 ○マネジメントできる教師

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
確かな学力	児童が主体的に学ぶ学習者中心の授業改善により、「個別最適な学び」「協働的な学び」の一体的な充実を図る。	「個別最適な学び」を意識した授業改善。	・「指導の個別化」 ・「学習の個性化」 ・個に応じた指導 ・特別支援の視点	4 全教員が4項目全て取り組むことができた。 3 全教員が3項目全て取り組むことができた。 2 全教員が2項目全て取り組むことができた。 1 一部の教員が2項目以上には至らなかった。	3	4 何を学習するのか理解している…8割以上 3 何を学習するのか理解している…7割以上 2 何を学習するのか理解している…6割以上 1 何を学習するのか理解している児童が6割未満	4	中間報告の際に、理解が不十分であったことが、実践を積み重ねることで成果に表れた。	一人一人の学力に合わせた先生方の努力が分かる。	A	研修等を実施し、「個別最適な学び」を意識して授業改善を行い、授業力を向上させる。
		「協働的な学び」を意識した授業改善。	・考えを共有する場の設定 ・児童同士の教え合いの場 ・ICTの効果的活用 ・多様な他者との関わり	4 全教員が4項目全て取り組むことができた。 3 全教員が3項目全て取り組むことができた。 2 全教員が2項目全て取り組むことができた。 1 一部の教員が2項目以上には至らなかった。	3	4 友達と考えを共有することが楽しい…8割以上 3 友達と考えを共有することが楽しい…7割以上 2 友達と考えを共有することが楽しい…6割以上 1 友達と考えを共有する楽しさを感じている児童が6割未満	4	ICTを効果的に活用することで、「協働的な学び」を意識して様々な指導の工夫ができた。	児童同士の教え合いはとても大事だと思った。発表の場を多く設けさせてほしい。	A	単元や授業の中に、考えを共有する場を設定し、「協働的な学び」を推進する。
		学ぶことの楽しさと学びの実感のある授業づくり。	・導入の工夫 ・1時間1単元の見通し ・1時間1単元の学びの自覚 ・スモールステップで評価	4 全教員が4項目全て取り組むことができた。 3 全教員が3項目全て取り組むことができた。 2 全教員が2項目全て取り組むことができた。 1 一部の教員が2項目以上には至らなかった。	4	4 楽しく学習でき、学習したことが分かる…8割以上 3 楽しく学習でき、学習したことが分かる…7割以上 2 楽しく学習でき、学習したことが分かる…6割以上 1 楽しく学習でき、学習したことが分かる児童が6割未満	4	一人一人に課題意識をもたせることで、学ぶ楽しさを実感させることができた。	先生方が研修を通して、授業を工夫している姿に感心しました。これからも努力を続けてほしい。	A	一人一人のことを考えた指導の工夫から、振り返りの時間を大切にし、次時につなげるようにさせる。
		発達段階に応じた「自律型学習者」を育てる授業づくり。	・教師のファシリテーション ・学び方の指導 ・自己選択・決定の場 ・自主学習の取組	4 全教員が4項目全て取り組むことができた。 3 全教員が3項目全て取り組むことができた。 2 全教員が2項目全て取り組むことができた。 1 一部の教員が2項目以上には至らなかった。	3	4 自分で決めた学習を進めることができる…8割以上 3 自分で決めた学習を進めることができる…7割以上 2 自分で決めた学習を進めることができる…6割以上 1 自分で決めた学習を進めることができる児童が6割未満	3	授業づくりを工夫する意識はしているが、発達段階に合わせて取り組むことが課題である。	学校の授業の改善だけでなく、家庭学習の充実も必要ではないかと感じている。親の意識を高めたい。	B	授業づくりを工夫するとともに、家庭とも連携し家庭学習の充実も意識して取り組む。
豊かな心	児童が自尊感情をもち、安心な環境の中で、自他を大切にしながら協働できる学校を創る。	全ての児童にとっての「安心基地・居場所づくり」。	・SOSの出し方指導 ・いじめ未然防止早期解決 ・相談しやすい雰囲気 ・個別の配慮・支援の充実	4 全教員が4項目全て取り組むことができた。 3 全教員が3項目全て取り組むことができた。 2 全教員が2項目全て取り組むことができた。 1 一部の教員が2項目以上には至らなかった。	4	4 学校で安心して学習・生活できている…8割以上 3 学校で安心して学習・生活できている…7割以上 2 学校で安心して学習・生活できている…6割以上 1 学校で安心して学習・生活できている児童が6割未満	4	5・11月にQUに取り組み、2回の研修によって学級の実態を把握したことが、効果的だった。	先生方の研修は大切です。研修を深めることで、さらに子供たちを理解し守ってほしい。	A	WEBQUを次年度は活用し、児童の実態をより理解して、安心して学習できる環境づくりに努めていく。
		互いに認め合い、自他を尊重する人権感覚の醸成。	・友達の良いところ探し ・感謝を伝え合う活動 ・道徳授業の質の向上 ・「ユグトレ」認知機能強化	4 全教員が4項目全て取り組むことができた。 3 全教員が3項目全て取り組むことができた。 2 全教員が2項目全て取り組むことができた。 1 一部の教員が2項目以上には至らなかった。	3	4 自分も相手も大切にしている…8割以上 3 自分も相手も大切にしている…7割以上 2 自分も相手も大切にしている…6割以上 1 自分も相手も大切にしている児童が6割未満	4	代表委員会を中心に挨拶運動や優しい言葉かけ運動を行い、自他を大切にしていた。	学校公開など参観して、子供たちが素直で優しい様子が伺えました。地域の活動にも参加してほしい。	A	児童がすすんで考えて行動できる機会を増やし、自他ともに大切にすることを育てていく。
		他者とながら、協働する喜びの実感。	・やさしい言葉 ・挨拶 ありがとう アイコンタクト ・異学年交流による成功体験 ・児童集会活動の充実	4 全教員が4項目全て取り組むことができた。 3 全教員が3項目全て取り組むことができた。 2 全教員が2項目全て取り組むことができた。 1 一部の教員が2項目以上には至らなかった。	3	4 みんなと一緒に活動することが楽しい…8割以上 3 みんなと一緒に活動することが楽しい…7割以上 2 みんなと一緒に活動することが楽しい…6割以上 1 みんなと一緒に活動する楽しさを感じている児童が6割未満	4	たてわり活動や集会が増え、他者とのつながりを意識させることができた。	自分が嫌だったことなど、自分の言葉でしっかり伝えられることがよいと思った。	A	児童集会やたてわり活動の内容を充実させ、他者とのつながりを感じさせ、協働する意識を高める。
健やかな体	児童が自分の「心と体の元気」を感じながら、体力向上と健康について考え実践する態度を育む。	運動する楽しさと体力向上を実感できる授業づくりと日常の運動推進。	・体育講師の有効活用 ・共成サーキットの取組 ・運動遊びの充実 ・元気アップガイドブック活用	4 全教員が4項目全て取り組むことができた。 3 全教員が3項目全て取り組むことができた。 2 全教員が2項目全て取り組むことができた。 1 一部の教員が2項目以上には至らなかった。	3	4 体力が付いてきている実感…8割以上 3 体力が付いてきている実感…7割以上 2 体力が付いてきている実感…6割以上 1 体力が付いてきている実感がある児童が6割未満	4	運動を楽しむ活動を増やし、意識は向上しているが、実質的な成果は表れていない。	運動が苦手な子供たちに対して丁寧な指導も必要だと思った。	A	体力テストで児童の課題を把握し、運動を楽しむながら体力向上できるように指導を工夫する。
		望ましい生活習慣と安全な生活のための実践的態度の育成。	・家庭と連携したGM60分 ・食育教育の充実 ・安全指導の充実 ・児童の危険回避能力向上	4 全教員が4項目全て取り組むことができた。 3 全教員が3項目全て取り組むことができた。 2 全教員が2項目全て取り組むことができた。 1 一部の教員が2項目以上には至らなかった。	3	4 基本的生活習慣が身に付いている…8割以上 3 基本的生活習慣が身に付いている…7割以上 2 基本的生活習慣が身に付いている…6割以上 1 基本的生活習慣が身に付いている児童が6割未満	3	児童の危機回避能力は高い。基本的生活習慣が課題である。	保護者にも経験が少なく、もっと地域と力を合わせて生活習慣に関しても呼びかけていく。	B	毎月の安全指導や避難訓練を徹底し、保護者会等で生活習慣に関しても呼びかけていく。
		しなやかで折れない心(レジリエンス)の醸成。	・命の教室 ・ストレス対処法 ・前向きな言葉かけ ・心のもち方指導	4 全教員が前向きな言葉かけや心のもち方を指導した。 3 9割の教員が前向きな言葉かけや心のもち方を指導した。 2 8割の教員が前向きな言葉かけや心のもち方を指導した。 1 7割の教員が前向きな言葉かけや心のもち方を指導した。	4	4 困ったときに前向きな気持ちをもてる…8割以上 3 困ったときに前向きな気持ちをもてる…7割以上 2 困ったときに前向きな気持ちをもてる…6割以上 1 困ったときに前向きな気持ちをもてる児童が6割未満	3	全教員の意識が向上し、実践力が高まっている。少しずつ児童への働きかけが変化してきた。	命の教室などの出前授業を通して、子供たちに教えていくことは大切だと思った。	A	命の教室などの出前授業を通して、心のもち方を学び、教員と児童ともに前向きな言葉掛けを心がける。
輝く未来	多くの人と、かかわり合いのある温かな集団の中で、児童が自己のよさを実感し、自己決定しながら「なりたい自分」を目指す学校を創造する。	児童の主体的に学校や学級をよりよくしようとする力の育成。	・一人一人の活躍の場 ・学級会活動の充実 ・主体性を実感できる行事 ・共成会議や実行委員会	4 全教員が児童の活躍の場と、主体性を促す指導をした。 3 9割の教員が児童の活躍の場と、主体性を促す指導をした。 2 8割の教員が児童の活躍の場と、主体性を促す指導をした。 1 7割の教員が児童の活躍の場と、主体性を促す指導をした。	4	4 学校や学級で役に立っている…8割以上 3 学校や学級で役に立っている…7割以上 2 学校や学級で役に立っている…6割以上 1 学校や学級で役に立っていると感じている児童が6割未満	4	児童が主体的に活動を工夫したことにより、自己有用感が高まり、一体感が生まれた。	小さいことでも成功体験は将来への自信につながるので続けてほしい。	A	主体性を実感できる行事で、実行委員一人一人の活躍する場を設け、児童の自己有用感を高めていく。
		温かく、共感的な人間関係に支えられた望ましい学級集団づくり。	・学級ルールの徹底 ・安心して挑戦できる風土 ・2回のQUの結果活用 ・SSTやP・Aの活用	4 全学級担任が4項目を意識した学級経営を行った。 3 9割の学級担任が4項目を意識した学級経営を行った。 2 8割の学級担任が4項目を意識した学級経営を行った。 1 7割の学級担任が4項目を意識した学級経営を行った。	4	4 クラスは楽しい…8割以上 3 クラスは楽しい…7割以上 2 クラスは楽しい…6割以上 1 クラスが楽しいと感じている児童が6割未満	4	学級経営研修で学んだことをすぐに実践していくことで、学級の雰囲気が向上した。	「クラスは楽しい」の質問で、8割以上の解答があったことは日常的に学級経営がうまくいっている証だと感じた。	A	QUの結果を活用した学級経営研修を実施し、理解を深めたうえで、学級を支えていけるようにする。
		「なりたい自分」の実現に向け、自己選択・自己決定できる力の向上。	・キャリアアルバムの活用 ・自己選択の場の設定 ・スモールステップでの成功体験の積み上げ	4 全教員が児童の姿容を認め、児童に伝え価値づけた。 3 9割の教員が児童の姿容を認め、児童に伝え価値づけた。 2 8割の教員が児童の姿容を認め、児童に伝え価値づけた。 1 7割の教員が児童の姿容を認め、児童に伝え価値づけた。	4	4 自分で決めて行動できる…8割以上 3 自分で決めて行動できる…7割以上 2 自分で決めて行動できる…6割以上 1 自分で決めて行動できる児童が6割未満	4	キャリアアルバムを効果的に活用することで、成長を振り返り、自己決定する力が身に付いてきた。	研修を通して、学んだことをすぐに生かしていて素晴らしいと感じた。	A	授業の中で自己選択・自己決定する場を設けることで、児童がすすんで行動できるようにしていく。

令和5年度

昭島市立富士見丘小学校

学校経営重点計画(教育推進計画)年度末評価【総括表】

学校教育目標	○ よく考える子ども ○ けんこうな子ども ○ すすんで働く子ども ◎ 思いやりのある子ども	ビジョン	【目指す学校像】	職員が組織的に協働して、児童が主体的に活動し、生涯学習の基礎を確実に身に付け、家庭・地域の信託に応える学校
			【目指す児童・生徒像】	未来の創り手として、自ら考え、創造力・表現力に富み、互いを尊重し人の為に尽くす、心身共に健康で活力に満ちた子供
			【目指す教師像】	児童・保護者・地域の願いを受け止め、熱い心と志を持ち、変革に臆することなく、使命と役割を遂行し、結果に責任を持つ教師

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
確かな学力	自ら学びに向かい、創造力・表現力に富み、正解のない課題に納得解を導く子の育成	主体的に学びに向かう力の涵養とともに、学習習慣の確立	「学びのすすめ」「自主学習ノート」「寺子屋」の推進等、授業と家庭学習との連携強化	4 寺子屋…実施回数90%以上 3 寺子屋…実施回数80%以上 2 寺子屋…実施回数70%以上 1 寺子屋…実施回数70%未満	4	4 学年×10分の家庭学習…90%以上 3 学年×10分の家庭学習…80%以上 2 学年×10分の家庭学習…70%以上 1 学年×10分の家庭学習…70%未満	3	○推進プラン改善充実 ●学びのすすめの実践	スマホが生活に入ってきて学習習慣が身に付かない。	B	[自主学習ノート]を[学びのすすめ]活用の核として、学習習慣を定着させる。
			生きて働く基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得	UDやICT、授業スタイルやノートの統一、板書や発問の工夫等、効果的な学習指導	3	4 診断シート正答数半数未満…10%未満 3 診断シート正答数半数未満…20%未満 2 診断シート正答数半数未満…30%未満 1 診断シート正答数半数未満…30%以上	2	○タブレットの有効活用 ●柔軟な教育課程編成	ふじみ寺子屋等の一層の充実を今後お願いします。	A	[60分授業]など、柔軟な教育課程で分かりやすい授業を展開する。
			未知の課題に納得解を導き、新たな価値を創造する力の育成	「探求ノート」を活用した課題解決等、自ら考え判断し表現する学習と深い学びの重視	3	4 主体的に課題解決…90%以上 3 主体的に課題解決…80%以上 2 主体的に課題解決…70%以上 1 主体的に課題解決…70%未満	3	○学習意欲習慣の向上 ●探究ノート有効活用	探究的な学習やICT等に積極的に取り組んでいます。	A	[探究ノート]を計画的に活用し、学習成果を[学習発表会]で表現する。
		個性を生かし、相互の信頼関係を深め、自己有用感の醸成	「h・QU」の結果を生かした児童集会や縦割り班活動等、異年齢集団の活動の推進	4 異学年活動…実施率90%以上 3 異学年活動…実施率80%以上 2 異学年活動…実施率70%以上 1 異学年活動…実施率70%未満	4	4 社会通念上のいじめ…0～5件 3 社会通念上のいじめ…6～15件 2 社会通念上のいじめ…16～30件 1 社会通念上のいじめ…31件以上	4	○穏やかな学校生活 ●自己肯定感の向上	子供たちが毎日楽しそうに学校に向かっています。	A	ふれあい月間の「命の授業」、QUの活用など、豊かな関係性を醸成する。
			認知機能を高め、自他共に敬意をもって関係する力の育成	「コグトレ」や学級活動の工夫による認知機能や感情統制、やり抜く力等の重視	4	4 認知機能の向上…90%以上の児童 3 認知機能の向上…80%以上の児童 2 認知機能の向上…70%以上の児童 1 認知機能の向上…70%未満の児童	4	○対人スキルが向上 ●QUのさらなる活用	子供たちの交流や異学年の活動の効果だと思っています。	A	[コグトレ]で社会性を育てる認知-感情統制-対人スキルを等育成する。
			自他を大切にし、よく生きる、内面に根ざした道德性の涵養	問題解決的あるいは体験を通した発問構成の工夫、広い視野で考え議論する道德	4	4 自分事として考える…80%以上の児童 3 自分事として考える…70%以上の児童 2 自分事として考える…60%以上の児童 1 自分事として考える…60%未満の児童	4	○自他を認め合う意識 ●人権感覚の向上	重大ないじめがない、不登校がないのが何よりです。	A	[考え議論する道德]の授業展開、[人権集会]などで豊かな心を育成する。
	健やかな体	新しい生活様式に基づき、人の命を守る意識と行動力の育成	「グッドモーニング60分」等、家庭との協働を強化し、感染防止と新しい生活様式の定着	4 グッドモーニングの取組…90%以上の児童 3 グッドモーニングの取組…80%以上の児童 2 グッドモーニングの取組…70%以上の児童 1 グッドモーニングの取組…70%未満の児童	4	4 病欠児童…1日の平均0～3人 3 病欠児童…1日の平均4～7人 2 病欠児童…1日の平均8～11人 1 病欠児童…1日の平均12人以上	3	○感染防止の徹底 ●食育の計画的推進	欠席が少なく、学級閉鎖がゼロというのは驚きました。	A	[お弁当の日]を中心に、家庭と連携して食育、健康教育に努める。
			基礎的な体力の向上と生涯に渡り運動に親しむ資質能力の向上	「元気アップガイドブック」を活用した運動習慣につながる授業の工夫、家庭との連携協力	3	4 運動することが楽しい…90%以上の児童 3 運動することが楽しい…80%以上の児童 2 運動することが楽しい…70%以上の児童 1 運動することが楽しい…70%未満の児童	3	○運動習慣が改善 ●元気UP活用充実	放課後の校庭開放等、環境を整えてほしい。	D	元気アップガイドブックを活用した「元気アップタイム」を拡大・充実させる。
			様々な欲求やストレス等に対して、適切に対処できる力の醸成	自殺防止授業の他、全学年で「SOSカード」を活用した多様な対処方法を推進	4	4 大人に相談できる…90%以上の児童 3 大人に相談できる…80%以上の児童 2 大人に相談できる…70%以上の児童 1 大人に相談できる…70%未満の児童	4	○ストレスゼロ学校生活 ●不登校ゼロを目指す	折り合い、対応できる力が身に付いてきている。	C	[家庭と連携した情報モラル教育]など、適切に対処できる力を育成する。
輝く未来	未知の課題を思索し、新たな価値観や行動を生み出し、協働して未来を創造する子の育成	言語能力とともに、未知の課題に向き合い思索する力の育成	学校図書館に学習・情報センター機能をもたせ、全教育課程で言語活動を充実	4 図書館機能を活用…全学級月4回以上 3 図書館機能を活用…全学級月3回 2 図書館機能を活用…全学級月2回 1 図書館機能を活用…全学級月1回以下	3	4 言語能力向上…80%以上の児童 3 言語能力向上…70%以上の児童 2 言語能力向上…60%以上の児童 1 言語能力向上…60%未満の児童	4	○図書館の活用充実 ●総合学習の単元開発	本をよく読む子が多い。言葉の大切さも教えて下さい。	A	図書館活用で言語力を鍛え、[読書感想文]や[調べる学習]を深める。
			情報活用能力とともに、新たな解を創造する力の醸成	ICT活用の端末やオンラインの活用など、見方・考え方を働かせながら思索する場の充実	3	4 論理的思考力向上…80%以上の児童 3 論理的思考力向上…70%以上の児童 2 論理的思考力向上…60%以上の児童 1 論理的思考力向上…60%未満の児童	4	○探求ノート開発・活用 ●自分の言葉で表現	今年度購入したMESHプログラミングも面白そうです。	A	[SDGs]を踏まえた見方・考え方を働かせる[短作文]などで、思索力を養う。
			多様な文化を尊重し、世界の人々と協調し活躍できる人材に育成	調べ学習コンクール参加等、家庭や地域と連携・協働した自己実現への手立ての充実	3	4 主体的に探究…80%以上の児童 3 主体的に探究…70%以上の児童 2 主体的に探究…60%以上の児童 1 主体的に探究…60%未満の児童	3	○縦割り班活動の充実 ●世界を見据えた教育	言葉が壁にならないよう、基礎学習に力を入れてください。	B	[SDGs]を踏まえた[思索コン]などで、未知の課題に対峙する力を育成する。

令和5年度

昭島市立武蔵野小学校

学校経営重点計画(教育推進計画)年度末評価【総括表】

学校教育目標	〇しっかり考える子(問題解決力) 〇心やさしい子(人間関係形成力) 〇つよく元気な子(体力・活力)	ビジョン	【目指す学校像】	〇児童にとって充実した学校 〇保護者にとって信頼できる学校 〇教職員にとって働きがいのある学校
			【目指す児童・生徒像】	〇思考力・判断力・表現力を身に付けた子ども〇感性あふれる豊かな心をもつ子ども 〇すすんで心と体を鍛えることができる子ども
			【目指す教師像】	〇ありのままの児童を受け止め、個性を発揮させる教師 〇授業で勝負できる教師 〇家庭・地域との相互理解を深め協働できる教師

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標		評価	成果指標		評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策			
確かな学力	○自ら学ぶ意欲や学び方を身に付けさせ、基礎的な知識及び技能の定着を図る。	○授業力アドバイザー事業のアドバイスを受け、教員一人一人が自己点検を行いながら、個々の授業力の向上を図る。	○各教員は、「授業力自己診断」、児童には「授業アンケート」を実施し、そのデータをもとに授業力を向上させて学校独自の学力調査を行う。	4 全教員が「授業力自己診断」を実施した。	3 80%～100%未満の教員が「授業力自己診断」を実施した。	2 70%～80%未満の教員が「授業力自己診断」を実施した。	1 70%未満の教員が「授業力自己診断」を実施した。	4 調査が前年比+2ポイント以上	3 調査の正答率が前年比0～+2ポイント未満	2 調査の正答率が前年比0～+4ポイント未満	1 調査の正答率が前年比+4ポイント以上	2	東京都や全国の学力調査の結果の分析と考察を共有し、授業改善と学力向上につながる具体策を実践することで、1月の学力調査では目標達成を目指す。	学力向上に対して、校長を中心に全校で様々な取組をしていることが分かった。	A	様々な調査結果から、学習指導の在り方を振り返るとともに、児童の実態について次年度に引き継いでいく。
		○ICTを活用した授業を充実させ、児童の「情報活用能力」の育成を図る。	○校内研究を充実させると共に、学校独自のアンケートを実施し、結果を分析して対応策を講じる。	4 全教員がアンケートを実施した。	3 80%～100%未満の教員がアンケートを実施した。	2 70%～80%未満の教員がアンケートを実施した。	1 70%未満の教員がアンケートを実施した。	4 90%以上の児童がタブレットを活用している。	3 80%～90%未満の児童がタブレットを活用している。	2 70%～80%未満の児童がタブレットを活用している。	1 70%未満の児童がタブレットを活用している。	3	年度途中と年度末に結果を比較できるように、低・中学年でも2学期中にアンケートを実施し、児童の実態を把握できるようにした。	年2回のアンケートの実施はより正確な児童の実態を把握できてよい。タブレットの活用については、児童への指導と家庭への指導が必要であると考える。	B	児童のICT技能は向上した。表現のツールとしての活用方法について、さらに指導を工夫していく。
		○読書活動の推進と言語能力の育成に向け、学校司書及びボランティアが連携し、子供たちの読書活動の推進を図る。	学校司書が中心となり、ボランティアや委員会の活動等で連携を図り、子供たちの読書活動の一層の推進を行う。	4 各学級で図書室を月4回以上使用した。	3 各学級で図書室を月3回以上使用した。	2 各学級で図書室を月2回以上使用した。	1 各学級で図書室を月1回以下使用した。	4 90%以上の児童が週に1度以上図書室を利用している。	3 80%～90%未満の児童が週に1度以上図書室を利用している。	2 70%～80%未満の児童が週に1度以上図書室を利用している。	1 70%未満の児童が週に1度以上図書室を利用している。	1	図書主任が中心となり、図書館支援員や担任と連携しながら、定期的な図書室利用の習慣化を目指したが、週に1度以上利用する児童は67%にとどまった。	多くの児童がスマホを持っている時代によく図書室を利用していると感じる。図書だよりや掲示物から図書に親しめるような取組を工夫していることが分かる。	B	図書主任が中心となり、図書館支援員や担任、委員会担当と連携しながら、定期的な図書室利用の習慣化を目指す。
豊かな心	○人権意識を高め、自他ともに大切にする態度を育成する。	○児童の自己肯定感を高め、児童個々の良さを発揮し、安心して生活できるようにする。	○年2回の家庭生活アンケートから児童の自己肯定感を数値化し、個々の児童に応じた指導をする。	4 全教員がアンケートから個々の児童に応じた指導を行った。	3 80～100%の教員がアンケートから個々の児童に応じた指導を行った。	2 70%から80%未満の教員がアンケートから個々の児童に応じた指導を行った。	1 70%未満の教員がアンケートから個々の児童に応じた指導を行った。	4 80%以上の児童が自己肯定感があると感じている	3 70%以上の児童が自己肯定感があると感じている	2 60%以上の児童が自己肯定感があると感じている	1 自己肯定感があると感じている児童が60%以下だった	4	教員が児童の変化に気付くアンテナを高くもち、丁寧な言葉掛けを行うことで、児童が安心して生活できるように努めた。	教員の一言は、児童の一生を左右することがある。丁寧な言葉掛けは大事である。先生方の日々の対応は丁寧だと感じる。	A	来年度も児童が安心して生活できるような環境づくりに努めていく。
		○道徳科を道徳教育の要の時間と位置付け、教科横断的な視点で各教科にて、計画的・発展的に行うようにする。	○教科横断的な視点で、年間指導計画に位置付け、計画的に指導し、道徳教育の一層の充実を図る。	4 すべての教員が各教科と関連付け、道徳教育を行った	3 70%～100%の教員が各教科と関連付け、道徳教育を行った	2 40%～70%の教員が各教科と関連付け、道徳教育を行った	1 40%未満の教員が各教科と関連付け、道徳教育を行った	4 95%以上の児童が振り返りを書くことが出来た	3 85%以上の児童が振り返りを書くことが出来た	2 80%以上の児童が振り返りを書くことが出来た	1 振り返りを書くことが出来た児童が80%以下だった	3	道徳授業地区公開講座前に、道徳教育年間計画をもとに全教員で他教科との関連について確認する時間をもち、意識向上を図った。	アンケートや日頃の関わり、個々の丁寧な対応により、児童の人権感覚は育成されていると思う。	A	年度初めに、道徳教育年間計画を周知することで、各教員が各教科とのつながりを意識して指導できるようにする。
		○児童の自己有用感を高める活動を行う学級活動を実践する。	○QU調査を年2回実施し、学級の実態に応じた指導をする。	4 全教員が学級活動計画を活用した指導を行った	3 80%～100%未満の教員が学級活動計画を活用した指導を行った	2 70%～80%未満の教員が学級活動計画を活用した指導を行った	1 70%未満の教員が学級活動計画を活用した指導を行った	4 学級生活満足度が50%以上	3 学級生活満足度が40%以上	2 学級生活満足度が30%以上	1 学級生活満足度が30%以下	4	特別活動部主任が、学級活動計画に基づいて実施されているかどうかチェックを行った。QUの結果分析をもとに学級の実態に合った経営を見直していく。	自己有用感を高める活動はとても大切だと感じる。点検・チェック・改善・指導の繰り返しにより改革を行うことが大切であると感じる。	A	次年度も年2回のQUを実施し学級経営に生かしていく。また学級活動計画の更なる充実に努めていく。
健やかな体	○健康への関心を深め、基礎的な体力の育成と向上を図る。	○児童体力・運動能力、生活運動習慣の向上に向け、運動の習慣化を図り、体力の向上を推進する。	○低・中・高の系統性を意識した年間指導計画の作成及び体育的活動の充実を図る。	4 全教員が計画を活用した指導を行った	3 80%～100%未満の教員が計画を活用した指導を行った	2 70%～80%未満の教員が計画を活用した指導を行った	1 70%未満の教員が計画を活用した指導を行った	4 調査結果が昨年比平均ポイントから+2ポイント以上	3 調査結果が昨年比～+2ポイント	2 調査結果が昨年比-2ポイント以内	1 調査結果が昨年比-2ポイント以下	2	体力向上部を中心に、年間指導計画と年間を通じた全校の体育的取組のよりよい改善を図ったが、昨年度比-0.3ポイントだった。	コロナ禍でのびのび運動できることが困難な中で、前年比-0.3ポイントはよい。引き続き、体を動かすことの楽しさを伝えてほしい。	B	年間を通じた体育的活動を充実させ、運動の習慣化を図ることで、児童の体力維持・向上を目指す。
		○新しい生活様式の習慣化を図り、健康・安全に留意できる児童の姿を目指す。	○生活指導・保健指導・学級活動の充実を図り、計画的な指導を行う。	4 全教員が計画的な授業を実施した	3 80%から100%未満の教員が計画的な授業を実施した	2 70%から80%の教員が計画的な授業を実施した	1 70%未満の教員が計画的な授業を実施した	4 90%以上の児童が目標を達成している	3 80%～90%未満の児童が目標を達成している	2 70%～80%未満の児童が目標を達成している	1 70%未満の児童が目標を達成している	4	生活指導部と養護教諭を中心に、年間指導計画の確実な実施を心掛けた。また、適宜、「マスクを外す」指導を行ってきた。	マスクを外す指導より、マスクの上手な使い方の指導の必要性を感じる。社会情勢の変化に対応した指導をお願いしたい。	B	養護教諭を中心として、計測や学級活動を活用した保健指導を充実させる。都・市の方針に応じ、生活様式について柔軟に対応していく。
		○望ましい食習慣の形成を促進する。	○学校給食やお弁当の日を通して食の大切さを考えさせる。	4 全教員が食育計画を活用した指導を行った	3 80%～100%未満の教員が食育計画を活用した指導を行った	2 70%～80%未満の教員が食育計画を活用した指導を行った	1 70%未満の教員が食育計画を活用した指導を行った	4 90%以上の児童が食育のめあてを達成している	3 80%～90%未満の児童が食育のめあてを達成している	2 70%～80%未満の児童が食育のめあてを達成している	1 70%未満の児童が食育のめあてを達成している	3	2学期のお弁当の日の取組状況から、児童の食育のめあてに対する達成度が82%と分かった。栄養士と食育担当を中心に、さらに充実を図っていく。	食の大切さ、楽しさを指導してほしい。お弁当の日を中心に食育担当・栄養士の活躍に期待する。	B	市内の食材を使用した給食の日やお弁当の日を中心に、食育計画についてより一層の充実を図る。
輝く未来	○子どもたちが自立できる基礎を培う。また、日本の伝統・文化の良さを理解し郷土を愛する態度を育成する。	○幼保・小中が連携し、児童が安心して進級・進学できるようにする。	○入学時は「スタートカリキュラム」を実施し、学年始めにはなりたい自分を目指す「キャリアアルバム」を作成する。	4 全教員が方策を実施した	3 80%～100%未満の教員が方策を実施した	2 70%～80%未満の教員が方策を実施した	1 70%未満の教員が方策を実施した	4 90%以上の児童が安心して進級・進学できる	3 80%～90%未満の児童が安心して進級・進学できる	2 70%～80%未満の児童が安心して進級・進学できる	1 70%未満の児童が安心して進級・進学できる	3	特別活動部を中心にキャリアアルバムの進行状況を管理し、全校でそろえて実施できた。進級・進学に関するアンケートは2月実施予定である。	キャリアアルバムの内容を定期的に保護者と共有したい。	B	定期的にキャリアアルバムを保護者と共有する機会をもち、家庭と連携して児童の成長を見守る計画を作成する。
		○教育活動を通して外部人材と交流体験できるようにする。	○文化、スポーツ、高齢者、地域工場・店舗での学びの場を、各学年設定する。	4 全学年の教員が交流体験を実施した	3 80%～100%未満の学年・教員が交流体験を実施した	2 70%～80%未満の学年・教員が交流体験を実施した	1 70%未満の学年・教員が交流体験を実施した	4 90%以上の児童が目標を達成している	3 80%～90%未満の児童が目標を達成している	2 70%～80%未満の児童が目標を達成している	1 70%未満の児童が目標を達成している	4	全学年が文化やスポーツなどについて外部人材と交流体験を行うことができた。	毎学期、多彩な文化・スポーツのイベントがあり児童も楽しんでいる。今後は市内の様々な国の人と接する機会をもってほしい。	A	地域・外部人材の活用について情報を集め、様々な人と児童が交流できるようにする。
		○学校の取組を、保護者や地域に向けて発信し、教育活動への参画意識を高める。	○学校ホームページや学校だより等を通じて保護者や地域に向けて児童の活動等を発信する。	4 各行事の実施を受け、毎月ホームページを更新した	3 各行事の実施を受け、学期に3回ホームページを更新した	2 各行事の実施を受け、学期に2回ホームページを更新した	1 各行事の実施を受け、学期に1回ホームページを更新した	4 80%以上の保護者が教育活動への理解を示している。	3 50%以上の保護者が教育活動への理解を示している。	2 20%以上の保護者が教育活動への理解を示している。	1 20%未満の保護者が教育活動への理解を示している。	4	市のアンケート結果の教育活動に関する項目の回答を計算すると平均76.5%だった。体力向上と将来や夢に関する項目の理解向上を図る必要がある。	これまで以上にホームページやマチコミで教育活動を発信してほしい。	B	情報を発信する大切さを共有し、担当だけでなく各分掌の担当者がホームページで情報を発信できるようにする。

令和5年度

昭島市立玉川小学校

学校経営重点計画(教育推進計画)年度末評価【総括表】

学校教育目標	◎精いっぱい学習する子 ○人のためにつくす子 ○すすんで体をきたえる子	ビジョン	【目指す学校像】	・子供たちにとって学びがよいのある学校　・教職員にとって働きがよいのある学校
			【目指す児童・生徒像】	・心身共に健康な児童　・創造性に富んだ児童　・人間として調和のとれた児童
			【目指す教師像】	・人権感覚が豊かな教師　・創造性に富んだ教師　・チームを意識した協調性のある教師　・絶えず研究と修養に励む教師

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
確かな学力	「分かること・できることが楽しい」 基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けさせ、主体的に学びに向かう力を育成する。	全ての児童への基礎・基本の確実な定着を目指し、分かりやすい指導を工夫・改善する。	全ての児童に基礎・基本が定着するよう、学習環境を整備し、個に応じた指導方法を工夫・改善する。	4 教室の学習環境を整備した…90%以上の教員 3 教室の学習環境を整備した…80%以上の教員 2 教室の学習環境を整備した…70%以上の教員 1 教室の学習環境を整備した…70%未満の教員	4	4 授業が分かりやすい…95%以上の児童 3 授業が分かりやすい…90%以上の児童 2 授業が分かりやすい…80%以上の児童 1 授業が分かりやすい…80%未満の児童	4	余計なものを置かず、学習に集中できる環境を整備している。課題、まとめ、振り返りを明確にした授業を行っている。	教員が熱心に指導している様子が見られた。十分に達成されている。	A	机回りの整理整頓の指導、教室環境の整備、分かりやすい授業展開を引き続き行う。
		デジタル教科書、タブレット端末等を活用し、「個別最適な学び」「協働的な学び」を推進する。	「ICTスキルステップ表」を基にし、タブレット端末をはじめとしたICT機器を学習に有効的に活用する。	4 ICT機器を学習に活用した…90%以上の教員 3 ICT機器を学習に活用した…80%以上の教員 2 ICT機器を学習に活用した…70%以上の教員 1 ICT機器を学習に活用した…70%未満の教員	4	4 タブレットを使うのは勉強の役に立っている…90%以上の児童 3 タブレットを使うのは勉強の役に立っている…80%以上の児童 2 タブレットを使うのは勉強の役に立っている…70%以上の児童 1 タブレットを使うのは勉強の役に立っている…70%未満の児童	4	意見や結果を共有するために、ICTを活用した。書画カメラを有効活用している。一人1台のタブレットを日常的に活用している。	授業においてICTがよく活用されている。校内研究でも活用の研究をしていることが素晴らしい。	A	デジタル環境を活用し、個別最適な学び、協働的な学びを実現し、更なる効果的な活用を研究する。
		主体的・対話的で深い学びを実現する授業を工夫し、自らすすんで学習に取り組む児童を育成する。	授業において、児童相互の学び合い活動を取り入れ、すすんで学習に取り組ませる授業を実践する。	4 児童相互の学び合い活動を実践…80%以上の教員 3 児童相互の学び合い活動を実践…70%以上の教員 2 児童相互の学び合い活動を実践…60%以上の教員 1 児童相互の学び合い活動を実践…60%未満の教員	4	4 話し合う時間や意見などを発表する時間に進んで参加している…90%以上の児童 3 話し合う時間や意見などを発表する時間に進んで参加している…80%以上の児童 2 話し合う時間や意見などを発表する時間に進んで参加している…70%以上の児童 1 話し合う時間や意見などを発表する時間に進んで参加している…70%未満の児童	3	考えの交流や話し合い、自分の思考を整理する時間を取っている。ペアワークやグループワークを授業の中に取り入れた。	授業において児童が小グループでよく話し合っている様子が見られた。	A	主体的・対話的な深い学びの実現のため、考察する時間・意見や考えを交流する時間を確保する。
	豊かな心	道徳授業の質の向上を図り、自分の考え方に気付き、互いに認め合う児童を育成する。	道徳授業を通して、一人一人の良さを認め、互いに必要とされる実感がもてる学級経営を実践する。	4 お互いを認め合う道徳授業の実施…95%以上の教員 3 お互いを認め合う道徳授業の実施…90%以上の教員 2 お互いを認め合う道徳授業の実施…80%以上の教員 1 お互いを認め合う道徳授業の実施…80%未満の教員	3	4 思いやりの心をもって行動している…95%以上の児童 3 思いやりの心をもって行動している…90%以上の児童 2 思いやりの心をもって行動している…80%以上の児童 1 思いやりの心をもって行動している…80%未満の児童	3	他者の考えと比較しながら、様々な考え方に触れさせている。児童の考えを否定せずに思ったことを言えるようにしている。	道徳授業により思いやりの心が育てられている。道徳授業地区公開講座の授業でも児童がよく考えていた。	A	「考え・議論する道徳」の授業の実現を目指し、互いの考えを尊重しながら意見を交流する授業を実践する。
		いじめの未然防止と早期対応を推進し、問題行動に素早く気付き対応し、安心して通える学校にする。	いじめ防止対策冊子の活用し、学校いじめ対策基本方針に基づいて児童への指導を行う。	4 学校いじめ対策基本方針に基づいた指導…90%以上の教員 3 学校いじめ対策基本方針に基づいた指導…80%以上の教員 2 学校いじめ対策基本方針に基づいた指導…70%以上の教員 1 学校いじめ対策基本方針に基づいた指導…70%未満の教員	4	4 学校で安心して生活できている…95%以上の児童 3 学校で安心して生活できている…90%以上の児童 2 学校で安心して生活できている…80%以上の児童 1 学校で安心して生活できている…80%未満の児童	2	道徳等を通していじめは絶対に許されないことを伝えている。トラブルがあったときは早期発見、早期解決に努めている。	児童・教職員共にいじめに対する理解が深まっている。児童の回答が改善されるように一層努力していったほしい。	B	いじめに関する知識力と実践力を高めるために、生活指導夕会を活用して研修を重ねていく。また、いじめ対策委員会でも未然防止や早期解決に向けて、綿密な児童の情報と共通理解を図っていく。
		人や自然、文化との関わりを通して、本物と出会い自尊心や自己有用感を高める。	縦割り班活動の充実を図り、児童同士が実体験を伴う交流を行う。	4 異学年交流活動を含めた指導の実施…全教員 3 異学年交流活動を含めた指導の実施…95%以上の教員 2 異学年交流活動を含めた指導の実施…90%以上の教員 1 異学年交流活動を含めた指導の実施…90%未満の教員	4	4 学校や学級の仲間と接している…95%以上の児童 3 学校や学級の仲間と接している…90%以上の児童 2 学校や学級の仲間と接している…80%以上の児童 1 学校や学級の仲間と接している…80%未満の児童	3	縦割り班活動や委員会・クラブ活動で異学年で活動できるようグループを作るときに工夫をしている。	異学年交流をすることはとても良い。今後も継続していったほしい。	B	縦割り活動、1年生を迎える会、6年生を送る会その他、「校外学習」「芸術鑑賞教室」や「英語村」等の本物と出会う体験を充実させる。
	健やかな体	心身ともに健康で、自己管理のできるたくましい児童の育成を目指す。	健康教育の充実を図るためにグッドモーニング60分の取組を年間を通して行う。	4 健康教育活動の実施…90%以上の教員 3 健康教育活動の実施…80%以上の教員 2 健康教育活動の実施…70%以上の教員 1 健康教育活動の実施…70%未満の教員	4	4 安全・安心・健康についての知識を活かしている…95%以上の児童 3 安全・安心・健康についての知識を活かしている…90%以上の児童 2 安全・安心・健康についての知識を活かしている…80%以上の児童 1 安全・安心・健康についての知識を活かしている…80%未満の児童	3	グッドモーニング60分に取り組み、一日の生活の実態を把握し、健康の保持増進のための方法を示している。	生活習慣の改善は大切です。家庭も巻き込んだグッドモーニング60分をさらに進めるべき。	B	Google フォームへの入力になり、全体の傾向をつかみやすくなった。児童一人一人の取組が見えづらくなっているので、より良い方法を模索する。
		一人一人が体力向上を意識できる、体育学習の充実を図る。	コーディネーショントレーニングを含む体力向上へ向けて実践を体育の授業で行う。	4 体力向上に関する指導を20回以上実施…90%以上の教員 3 体力向上に関する指導を20回以上実施…80%以上の教員 2 体力向上に関する指導を20回以上実施…70%以上の教員 1 体力向上に関する指導を20回以上実施…70%未満の教員	1	4 体を動かしたり遊んだりしている…95%以上の児童 3 体を動かしたり遊んだりしている…90%以上の児童 2 体を動かしたり遊んだりしている…80%以上の児童 1 体を動かしたり遊んだりしている…80%未満の児童	2	コーディネーショントレーニングを指導し、様々な運動に適応できるようにしている。期間を決めて集中的に取り組んだ。	運動が好きになるような取組を続けていったほしい。コーディネーショントレーニングの取組を取組指標として設定してはどうか。	B	体育学習の充実を図るのであれば、体つくり運動の研修や授業提案、ワークシートの共有、他領域への展開が有効だが、校内研究が必要。目標や方策を授業外に絞る。
		自らの健康を適切に管理するとともに改善能力を培う。	元気アップガイドブックの活用した取組を年間を通して行う。	4 元気アップガイドブックの活用した取組を10回以上実施…90%以上の教員 3 元気アップガイドブックの活用した取組を10回以上実施…80%以上の教員 2 元気アップガイドブックの活用した取組を10回以上実施…70%以上の教員 1 元気アップガイドブックの活用した取組を10回以上実施…70%未満の教員	1	4 食事や栄養についての知識を生かしている…95%以上の児童 3 食事や栄養についての知識を生かしている…90%以上の児童 2 食事や栄養についての知識を生かしている…80%以上の児童 1 食事や栄養についての知識を生かしている…80%未満の児童	1	体力テスト期間に元気アップガイドブックの項目を児童にチェックさせた。定期的に活用し睡眠時間や食事について学習し生活習慣の改善をしている。	児童の健康を増進するために、元気アップガイドブックを活用した取組を充実させるべき。数値目標は再検討。	B	児童の実態や体力テストの結果を体育委員会が話し合い、元気アップガイドを参考に運動イベントを開催する。体力テストの前後や結果返却後に、元気アップガイドブックに載っている運動を選択して取り組む授業を行う。
	輝く未来	自己有用感を感じる機会を通して、自分には得意なところがあると感じる児童を育成する。	児童が自分自身を見つめ、自分の得意なところを見付ける指導を行う。	4 自分の得意なところを伸ばす指導の実施…90%以上の教員 3 自分の得意なところを伸ばす指導の実施…80%以上の教員 2 自分の得意なところを伸ばす指導の実施…70%以上の教員 1 自分の得意なところを伸ばす指導の実施…70%未満の教員	4	4 自分の得意なことは何かについて考える…95%以上の児童 3 自分の得意なことは何かについて考える…90%以上の児童 2 自分の得意なことは何かについて考える…80%以上の児童 1 自分の得意なことは何かについて考える…80%未満の児童	2	自分の目標を考えさせ、自分が頑張ったことを意識させている。係活動で得意なことを生かす場面をつくっている。	児童に目標をもたせ、個性を伸ばす指導ができている。児童にも自分の得意なことを意識させたい。数値目標は再検討。	B	学級での当番、係活動の他、委員会活動、縦割り班活動等で、目標・めあてをもたせ、自己有用性を高める指導を行う。
		キャリア教育を推進し、自分の将来に対して考えさせる。	自身の成長や変容に気付くことができるようにキャリア・パスポートの活用を図る。	4 キャリア・パスポートの活用した指導の実施…90%以上の教員 3 キャリア・パスポートの活用した指導の実施…80%以上の教員 2 キャリア・パスポートの活用した指導の実施…70%以上の教員 1 キャリア・パスポートの活用した指導の実施…70%未満の教員	4	4 自分の将来について考えることがある…95%以上の児童 3 自分の将来について考えることがある…90%以上の児童 2 自分の将来について考えることがある…80%以上の児童 1 自分の将来について考えることがある…80%未満の児童	2	学期ごとにめあてを立て、それを振り返っている。キャリア・パスポートで自身の日常を振り返らせている。	児童一人一人の将来を見据えた指導がなされている。児童が自身の将来を考える機会を増やしてほしい。数値目標は再検討。	B	高学年だけでなく、低学年のうちから自分の目標、将来の自分を考える機会を増やす指導を検討する。
		社会への適応性、社会貢献力の育成を図る。	学級や学年、家庭や社会の中での生活と、授業を関連させ、適応性と社会貢献力を養う指導を行う。	4 生活を振り返り、より良くしようとする指導の実施…90%以上の教員 3 生活を振り返り、より良くしようとする指導の実施…80%以上の教員 2 生活を振り返り、より良くしようとする指導の実施…70%以上の教員 1 生活を振り返り、より良くしようとする指導の実施…70%未満の教員	4	4 これまでの自分の生活を振り返り、より良くしようと思う…95%以上の児童 3 これまでの自分の生活を振り返り、より良くしようと思う…90%以上の児童 2 これまでの自分の生活を振り返り、より良くしようと思う…80%以上の児童 1 これまでの自分の生活を振り返り、より良くしようと思う…80%未満の児童	2	学級活動として取り組み、自分自身の生活について振り返りをしながら生活の改善に取り組ませている。	児童に実体験をさせる取組を増やし、将来に生かせる生きる力を育てていったほしい。数値目標は再検討。	B	学級や委員会、クラブ活動等で、児童が自ら企画したものをPDCAサイクルで回し達成感を味わえるように、教員が調整し働きかける。

令和5年度

昭島市立中神小学校

学校経営重点計画(教育推進計画)年度末評価【総括表】

学校教育目標	◎よく考える子(すすんで学び考え、あきらめずに問題に取り組む子ども) ◎心豊かな子(やさしい心で、自分も他人も大切にすること) ◎たくましい子(すすんで体を鍛え、粘りつよく行動する子ども)	ビジョン	【目指す学校像】	○すべての子どもの良さ・可能性を伸ばし、自己肯定感を育てる学校
			【目指す児童・生徒像】	○自己肯定感をもって自己発揮でき、自分も他人も良さが分かり、大切にできる子ども
			【目指す教師像】	○様々な教育課題に適切に対応し、持ち味・強みを生かしてチーム力を高めることができる教師集団

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
確かな学力	課題解決的な学習展開による探究的な学びの充実を図る。	生活科・総合的な学習の時間を中心にして、全ての教科等で課題解決・問題解決に取り組む。	教科で習得した力や見方・考え方を発揮して主体的な学びを展開する。	4 全ての単元で実施した。 3 4分の3以上の単元で実施した。 2 2分の1以上の単元で実施した。 1 2分の1未満の単元で実施した。	4	4 全学年の定着率が90%以上 3 全学年の定着率が80%以上 2 全学年の定着率が70%以上 1 全学年の定着率が70%未満	4	・校内研究での生活科・総合的な学習の時間の取組を中心として、課題解決的な学習が創意工夫の基、営まれてきた。	様々な地域行事に参加する児童の姿からも「体験しながら覚えていこう」とする児童の意欲が感じられた。	A	・本年度の成果を市教委指定2年次発表に向けて継続して行っていく。
		すすんで取り組み、あきらめずに問題に取り組む態度を養う。	基礎的な知識・技能の習得を図りながら主体的・対話的で深い学びを図る。	4 全教科・領域で実施する。 3 90%以上の教科・領域で実施する。 2 80%以上の教科・領域で実施する。 1 実施した教科・領域が80%未満である。	4	4 学びが深まったと思える児童が80%以上 3 学びが深まったと思える児童が70%以上 2 学びが深まったと思える児童が60%以上 1 学びが深まったと思える児童が60%未満	4	・個別への配慮を通し、基礎的な知識・技能の習得が進んでいる。粘り強く問題に取り組む姿勢を一層育てていく必要がある。	様々な児童がいる中で大変であるが、引き続きめ細かに指導をしてほしい。	B	・振り返りの充実を継続して行い、「何ができるようになったか。」「次に何を生かすのか。」を明確にさせていく。
		思考力・判断力・表現力の向上を図る。	対話・アウトプットにより、獲得した知識を活用できるようにしていく。	4 全学級が取組を行っている。 3 11学級以上が取組を行っている。 2 9学級以上が取組を行っている。 1 取組を行っている学級が9学級未満である。	4	4 思考力・判断力・表現力の向上が見られた児童が80%以上 3 思考力・判断力・表現力の向上が見られた児童が70%以上 2 思考力・判断力・表現力の向上が見られた児童が60%以上 1 思考力・判断力・表現力の向上が見られた児童が60%未満	4	・思考ツールや対話の形態の工夫、目的意識を明確にしたアウトプットなど、指導の工夫・改善が図られた。	地域での仕事体験やインタビューで、しっかりとコミュニケーションをとれる姿が見られるようになった。	B	・現在進められているペアトーク、グループ学習による学び合いを継続、充実させていく。
		良い学校・学級を築こうとする能力や態度を育む。	協力し合えて、みんなの役に立てて楽しいと思える特別活動を展開する。	4 全学級が取組を行っている。 3 11学級以上が取組を行っている。 2 9学級以上が取組を行っている。 1 取組を行っている学級が9学級未満である。	4	4 すずんで活動に取り組んだと思える児童が90%以上 3 すずんで活動に取り組んだと思える児童が80%以上 2 すずんで活動に取り組んだと思える児童が70%以上 1 すずんで活動に取り組んだと思える児童が70%未満	4	・プロジェクトの立ち上げや係活動の工夫など、自己有用感を醸成する取組が各学級で行われている。	高学年が1年生と向き合う姿が評価できる。今後とも継続してほしい。	A	・学級によってはポスターや校内放送による広報が行われている。折角の活動なので、更に広報を展開していく。
				4 全学級が道徳教育との関連を図っている。 3 全学級で事前指導、事後指導を行っている。 2 全学級で事前指導を行っている。 1 障害者理解の授業のみを行っている。	4	4 障害者との共生を具体的に理解した児童が90%以上 3 障害者との共生を具体的に理解した児童が80%以上 2 障害者との共生を具体的に理解した児童が70%以上 1 障害者との共生を具体的に理解した児童が70%未満	4	・年間計画に従って、外部人材の力を借りて行われている。	本校の伝統となっている取組を今後も大切に守っていつてほしい。	B	・外部人材との打ち合わせをより充実させ、道徳教育との関連を図った事前指導を効果的に行うことが必要である。
				4 全学級が充実した取組を行っている。 3 11学級以上が充実した取組を行っている。 2 9学級以上が充実した取組を行っている。 1 充実した取組を行っている学級が9学級未満である。	4	4 すずんで活動に取り組んだと思える児童が90%以上 3 すずんで活動に取り組んだと思える児童が80%以上 2 すずんで活動に取り組んだと思える児童が70%以上 1 すずんで活動に取り組んだと思える児童が70%未満	4	・特に今年度は、事前指導に力を入れ、充実した発表を行うことができた。	地域の皆様、各機関の方々から、「以前より挨拶をしてくれる児童が増え、気持ちがよい。」との声が上がっている。	A	・聴き手からの感想を伝える取組を通し、「良い聴き手」になるための意識が育ってきているので、継続する。そのための表現も充実させる。
	健やかな体	総合的な体力向上と日常的な健康教育の重視を図りながら、心身ともに健康な子どもを育てる教育を行う。	総合的な体力向上を目指す。	4 全学級が充実した取組を行っている。 3 11学級以上が充実した取組を行っている。 2 9学級以上が充実取組を行っている。 1 充実した取組を行っている学級が9学級未満である。	4	4 80%以上が「よく体を動かしている。」 3 70%以上が「よく体を動かしている。」 2 60%以上が「よく体を動かしている。」 1 「よく体を動かしている。」児童が60%未満	4	・体育的行事委員会を中心として、体力調査の結果を基にした重点課題とその対策が周知された。	練習や競技に取り組む児童の姿に力強さが感じられるようになってきた。	B	・各学級が示された対策や運動例を基に体力向上に取り組む、その結果を再検証して改善を更に進める。
			困難を乗り越え、達成を目指すたくましい心を育む。	4 全学級が充実した取組を行っている。 3 11学級以上が充実した取組を行っている。 2 9学級以上が充実取組を行っている。 1 充実した取組を行っている学級が9学級未満である。	4	4 体力向上を果たしたと思える児童が90%以上 3 体力向上を果たしたと思える児童が80%以上 2 体力向上を果たしたと思える児童が70%以上 1 体力向上を果たしたと思える児童が70%未満	4	・マラソン記録会や縄跳びの取組を通し、児童の努力が見られるようになってきている。	しっかりと練習して臨む姿が低学年から高学年まで見られるのが良い。たくましさを感じられた。	A	・取組の個人差が依然として存在する。体力向上に全児童の関心をもち、個人差の解消に努めていく。
			自分の身は自分で守ることができる態度を身に付けさせる。	4 全学級が取組を行っている。 3 11学級以上が取組を行っている。 2 9学級以上が取組を行っている。 1 取組を行っている学級が9学級未満である。	3	4 すずんで取り組む児童・家庭が90%以上 3 すずんで取り組む児童・家庭が80%以上 2 すずんで取り組む児童・家庭が70%以上 1 すずんで取り組む児童・家庭が70%未満	4	・病気の予防については、児童によっては意識が見られるが、危険回避については意識の向上が必要である。	地域でも年末パトロールや防災訓練に積極的に参加してもらっていて、意識を高めてもらっている。	A	・委員会や係活動、プロジェクト活動において児童による自発的な活動や働きかけが行われるよう、指導を行う。
	輝く未来	世界に目を向け、正解のない問題に立ち向かう力を育成する。	郷土昭島に対する愛着や誇りを育てる。	4 全学級が取組を行っている。 3 11学級以上が取組を行っている。 2 9学級以上が取組を行っている。 1 取組を行っている学級が9学級未満である。	4	4 伝統文化や郷土への愛着を抱いた児童が90%以上 3 伝統文化や郷土への愛着を抱いた児童が80%以上 2 伝統文化や郷土への愛着を抱いた児童が70%以上 1 伝統文化や郷土への愛着を抱いた児童が70%未満	4	・地域の産物、産業、祭りを知り、体験する学習、伝統野菜の栽培を通し、郷土に対する愛着が深まってきている。	地域の行事、文化財に触れる活動を積極的に行っているのは良い。地域を巻き込み、今後も継続してほしい。	A	・この地域に豊富に存在する学習財を存分に生かし、より充実した「児童による社会参画」を展開していく。
			SDGsを「実社会・実生活」を見る目としてとらえられるようにする。	4 全学級が充実した取組を行っている。 3 11学級以上が充実した取組を行っている。 2 9学級以上が充実取組を行っている。 1 充実した取組を行っている学級が9学級未満である。	4	4 関係性を認識できたと思える児童が90%以上 3 関係性を認識できたと思える児童が80%以上 2 関係性を認識できたと思える児童が70%以上 1 関係性を認識できたと思える児童が70%未満	3	・生活科・総合的な学習の時間での取組を通し、自分たちの行動とSDGsとの結び付きを意識し、実践できるようになっている。	特にSDGsは、これからの一層大切な取組である。更なる深化、継続をお願いしたい。	B	・これからの社会を見通し、SDGsの先を目指した地域への貢献を展開し、「取りこぼさない」から「参画し、改善する」取組に発展させる。
			地域の子どもは地域で育てる基盤を築いていく。	4 全学級が参画を考えさせている。 3 11学級以上が参画を考えさせている。 2 9学級以上が参画を考えさせている。 1 参画を考えさせた学級が9学級未満である。	4	4 90%以上が実践意欲を抱いた。 3 80%以上が実践意欲を抱いた。 2 70%以上が実践意欲を抱いた。 1 実践意欲を抱いた児童が70%未満。	3	・地域の見守り活動やあいさつ運動、ウイズニュースの活動を通して、自分たちを守ってくださる人々の存在に気付ける児童が増えてきた。	地域の行事ができるようになり、積極的に参加してもらっているが、その際の挨拶もよくできている。	A	・自分たちを支えていただいている人々の思いにより深く触れ、「自分たちもやってみよう。」と思う児童を増やしていく。

令和5年度

昭島市立つつじが丘小学校

学校経営重点計画(教育推進計画)年度末評価【総括表】

学校教育目標	だれもが笑顔になる学校	ビジョン	【目指す学校像】	○楽しい学びの共同体
			【目指す児童・生徒像】	○自ら学び、表現する子 ○認め合い、協力して行動する子 ○すすんで体を整える子
			【目指す教師像】	○当事者意識をもって学校づくりを行う教師 ○組織で考え、組織で動くことができる教師

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標		評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策		
確かな学力	児童が各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら行い、主体的・対話的な学びの実現	教員一人一人が課題意識をもって主体的に取り組む校内研究を充実させ、授業力の向上を図る。	教員それぞれが抱える課題について年間3回の校内研究会を行い、小グループで検証することで、より主体的な授業改善を図る。	4 3 2 1	90%以上の教員が授業後の振り返りに取り組んだ。 85%以上の教員が授業後の振り返りに取り組んだ。 80%以上の教員が授業後の振り返りに取り組んだ。 80%未満の教員が授業後の振り返りに取り組んだ。	4 3 2 1	授業力診断シートの平均が4月より0.4P以上高い。 授業力診断シートの平均が4月より0.2P以上高い。 授業力診断シートの平均が4月同様(誤差0.1P) 授業力診断シートの平均が4月より0.2P以上低い。	4	全ての教員がそれぞれに視点をもって授業改善に取り組んだことで、多くの教員が授業力の向上を実感した。それによって、年度末の校内発表会では、たくさんの成果を共有することができた。	A	研究内容は変わるが、チームや分科会ごとの学び合いの成果(実績)を生かし、授業改善の流れについては持続可能な形で継続していく。			
			学ぶことの楽しさを実感させる授業を積み重ね、主体的・対話的で深い学びによる学力向上を推進する。	GIGA端末やICTを利用した授業スタイルを確立し、児童自身に課題意識を持たせて対話的な学びを進める。個別最適な学習を展開していく。	4 3 2 1	8割以上の授業でICTを活用し、児童主体の個別最適な学習を実践した。 7割以上の授業でICTを活用し、児童主体の個別最適な学習を実践した。 6割以上の授業でICTを活用し、児童主体の個別最適な学習を実践した。 5割以上の授業でICTを活用し、児童主体の個別最適な学習を実践した。	4 3 2 1	児童アンケート「タブレットが勉強の役に立っている」が90%以上肯定的 児童アンケート「タブレットが勉強の役に立っている」が70%以上肯定的 児童アンケート「タブレットが勉強の役に立っている」が50%以上肯定的 児童アンケート「タブレットが勉強の役に立っている」が50%以上否定的	3	一人1台端末が定着し、児童が自分に合ったツールを選択して学習する姿も現れている。複数学級が同時にアクセスすることで、ネットにつながらなくなるなど、ハード面での課題は引き続き大きい。	B	ネットワーク環境の現状について、市に改善を要する。情報モラルに関して、「情報モラル教育計画」を継続して推進し、タブレット端末の一斉回収・配布、情報モラル全校指導、タブレット端末一斉修理など、保護者とも連携して進める。		
				児童の学力を把握し、実施に即した授業改善を行うことで、学力の向上を図る。	授業改善推進プランを活用したり、単元ごとの3観点評価を計画的に行ったりすることで、指導と評価の一体化を意識した授業を実践する。	4 3 2 1	90%以上の教員が計画的に授業の評価に取り組んだ。 85%以上の教員が計画的に授業の評価に取り組んだ。 80%以上の教員が計画的に授業の評価に取り組んだ。 70%以上の教員が計画的に授業の評価に取り組んだ。	4 3 2 1	児童アンケート「学校の授業の内容がわかりやすい」が95%以上 児童アンケート「学校の授業の内容がわかりやすい」が90%以上 児童アンケート「学校の授業の内容がわかりやすい」が85%以上 児童アンケート「学校の授業の内容がわかりやすい」が70%未満	3	授業改善推進プランの作成を通して、各学年で児童の学習状況に応じた授業改善を計画・実施することができた。また、そのことが児童の授業内容の理解につながっている。	B	児童の学習状況を日常の授業や学力調査から把握する。把握した課題に応じた授業改善をPDCAサイクルに沿って行っていくことをより一層浸透させていく。	
		豊かな心	自分と共に他者を大切にする態度や、社会の一員であるという自覚と規範意識の育成	自発的に挨拶をする態度を養い、挨拶が自然に通い合う学級、学校をつくる。	年度内の学校生活目標に3度ほど挨拶を取り上げたり、児童会を中心とした挨拶運動に取組ませたりして、挨拶指導の強化を図る。	4 3 2 1	全教職員が日常的に指導した。 90%以上の教員が日常的に指導した。 80%以上の教員が日常的に指導した。 80%未満の教員が日常的に指導した。	4 3 2 1	児童アンケート「自分から挨拶」が80%以上 児童アンケート「自分から挨拶」が70%以上 児童アンケート「自分から挨拶」が60%以上 児童アンケート「自分から挨拶」が60%未満	4	朝の入室時に児童を出迎えたり、挨拶の声をかけたりすることができた。また、コロナが5類になり、マスクをしないことが増え、表情を見て声を掛け合うことが増え、コミュニケーションの機会が増えた。	A	朝の入室時の出迎えや挨拶を継続し、職員から率先して挨拶をするよう心がける。また、児童会などの自発的な挨拶運動の実施も引き続き行っていく。	
					組織的な道徳教育の推進により、児童一人一人が自らを振り返ることで、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育成する。	道徳教育の全体計画や年間指導計画を見直し、道徳推進教師を中心に、道徳科の授業改善と道徳授業地区公開講座の実施を計画する。	4 3 2 1	90%以上の教員が授業後の振り返りと改善に取り組んだ。 85%以上の教員が授業後の振り返りと改善に取り組んだ。 80%以上の教員が授業後の振り返りと改善に取り組んだ。 80%未満の教員が授業後の振り返りと改善に取り組んだ。	4 3 2 1	児童アンケート「自分や友達を大切にしている」が95%以上 児童アンケート「自分や友達を大切にしている」が90%以上 児童アンケート「自分や友達を大切にしている」が80%以上 児童アンケート「自分や友達を大切にしている」が80%未満	4	ふれあい月間や道徳授業地区公開講座の際には「いじめを取り上げた授業を行い、道徳推進教師が研修の案内を行った。また、年間計画などにより各学年が授業を行い、ワークシートに記録を残すこととした。	A	「いじめ」は学校だけで指導や解決できる問題でなく、保護者との密接な関係も重要であり、その点では道徳授業地区公開講座のような保護者と学校(先生)による、学びや意見交換は大変有意義だったと思う。
						心の安全を保障する指導体制を確立し、児童一人一人が安心して、過ごすことができる学校にする。	人権教育プログラムやいじめ総合計画に基づいた組織的な取組により、必要に応じていじめ対策委員会を開く。また、年3回以上「いじめに関する授業を実施する」。	4 3 2 1	全教員が3回以上「いじめに関する授業を行った」。 90%が3回以上「いじめに関する授業を行った」。 80%が3回以上「いじめに関する授業を行った」。 80%未満が3回以上「いじめに関する授業を行った」。	4 3 2 1	児童アンケート「いじめは許さないこと」が95%以上 児童アンケート「いじめは許さないこと」が90%以上 児童アンケート「いじめは許さないこと」が85%以上 児童アンケート「いじめは許さないこと」が85%未満	4	毎学期、学校生活児童アンケートを行い、気になることは全て担任が聞き取りを詳細に行い対応した。また、ふれあい月間にはいじめ総合対策の冊子を活用した研修を行った、職員夕会での情報共有を行った。	A
				健康やかな体	自ら体を整え、健全な生活を築こうとする児童の育成	児童の実態に基づいた体力の課題を分析し、全校的取組により体力向上を目指す。	昨年の体力調査の結果分析から、敏捷性と投力(ボールを遠くへ投げける力)に課題があることが分かった。敏捷性の向上をテーマに元氣アップガイドブックの運動内容を参考にして、元氣アップタイムを実施する。	4 3 2 1	全校児童が参加した。 90%以上の児童が参加した。 80%以上の児童が参加した。 70%以上の児童が参加した。	4 3 2 1	体力テストの結果で4学年以上が敏捷性で市平均以上 体力テストの結果で3学年以上が敏捷性で市平均以上 体力テストの結果で2学年以上が敏捷性で市平均以上 体力テストの結果で2学年未満が敏捷性で市平均以上	3	元氣アップタイムや体育の授業を通して、積極的に運動するようになった。しかし、運動能力が学校全体として向上しているわけではない。学校の限られた時間だけでなく、多種多様な運動を児童ができるように発信していく必要性を感じている。	B
			基本的な生活習慣を定着させ、児童の健康意識の向上と日常的な行動を促す。				元氣アップガイドブックや保健便り、給食便りを活用生活リズムカード(グッドモーニング60)に取り組む。児童が自身の生活の振り返りを行う。	4 3 2 1	全学級で記録と振り返りを行った。 90%以上の学級で記録と振り返りを行った。 80%以上の学級で記録と振り返りを行った。 70%以上の学級で記録と振り返りを行った。	4 3 2 1	児童アンケート「健康について学び理解している」80%以上 児童アンケート「健康について学び理解している」70%以上 児童アンケート「健康について学び理解している」60%以上 児童アンケート「健康について学び理解している」60%未満	3	生活リズムカードを年1に3回実施し、児童自身が生活の振り返りを行う機会をつくった。また、生活リズムカードの結果を保健だよりで知らせた。課題になっている点については、改善のポイントを保健だにに掲載し児童が生活を見直すようにした。	B
児童の危険予知能力を育成し、危険を回避する能力を向上させる。	安全教育プログラム等を活用した安全指導を日常的に行う。また、事前に十分指導した上で、予告なしの避難訓練を毎月実施する。						4 3 2 1	全教員が日常的に指導を行った。 90%以上の教員が日常的に指導した。 80%以上の教員が日常的に指導した。 80%未満の教員が日常的に指導した。	4 3 2 1	児童アンケート「学校で学んだ安全の知識を生かす」が90%以上 児童アンケート「学校で学んだ安全の知識を生かす」が85%以上 児童アンケート「学校で学んだ安全の知識を生かす」が80%以上 児童アンケート「学校で学んだ安全の知識を生かす」が80%未満	2	毎月予告なしの避難訓練や安全指導を行っている。ただ、それが当たり前になっていて児童の中での実感が少ないと思われる。安全指導についての体験や実感が生まれる取組を模索することが課題である。	B	防災講座を充実させるなど地域とのつながりをもつ取組を検討していく。また、ゲストティーチャーを招いて実践ももてる訓練を実施するなど、安全指導の内容を検討する。
輝く未来	人間関係調整力と自己有用感を持ち、積極的に他者と関わろうとする児童の育成		様々な集団活動に自主的・実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら自己実現を図ったり、より良い人間関係を形成したりできるようにする。	児童が自主的に活動できるように、「特別活動 大人の10の流儀」を意識し、学級会を軸とした話し合い活動を充実させる。	4 3 2 1	全教員が話し合い活動を充実させた。 90%以上の教員が話し合い活動を充実させた。 80%以上の教員が話し合い活動を充実させた。 70%以上の教員が話し合い活動を充実させた。	4 3 2 1	児童アンケート「話し合う時間にすすんで参加している」が95%以上 児童アンケート「話し合う時間にすすんで参加している」が90%以上 児童アンケート「話し合う時間にすすんで参加している」が80%以上 児童アンケート「話し合う時間にすすんで参加している」が80%未満	3	特別活動主任が中心となって、全学級に学級会グッズを準備し、学級活動の進め方に関する研修を行ったため、各クラスで学級会が実施された。さらに、児童主体で話し合いが進むようにしていく。	A	話し合いを進めるために学級会グッズの準備等、工夫し継続して実施したことにより成果が出ている。特に初開催の「祭り」は素晴らしい。		
		児童と教職員とが知恵を出し、工夫した学校行事を生み出し、児童に達成感や連帯感、自己有用感をもたせる。		児童会や実行委員会活動を活性化し、児童が主体的に取り組めるスポーツ及びアートフェスティバルの計画を立て、実施する。	4 3 2 1	90%以上の児童が楽しく参加した。 80%以上の児童が楽しく参加した。 70%以上の児童が楽しく参加した。 60%以上の児童が楽しく参加した。	4 3 2 1	児童アンケート「行事の満足度」が90%以上 児童アンケート「行事の満足度」が80%以上 児童アンケート「行事の満足度」が70%以上 児童アンケート「行事の満足度」が60%未満	4	実行委員会を中心に児童が話し合い、行事をより良きとする工夫を考え実施することで、行事の満足度が高くなった。各クラスでの話し合い活動をさらに充実させ、実行委員の話し合いもより活性化するように計画していく。	A	学校行事だけではなく、委員会活動や総合的な学習の時間と関連させて、学校全体で「みんなが笑顔になる」ために、異学年交流の視点を盛り込んだ企画を計画・実行していく。		
				体験的な学習を意図的に計画し、問題の解決や探求活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えさせる。	生活科・総合的な学習の時間の年間指導計画を見直し、ゲストティーチャーや出前授業等、人とかかわる体験的活動を計画的に実施する。	4 3 2 1	全学年が体験的活動を実施した。 5つの学年が体験的活動を実施した。 4つの学年が体験的活動を実施した。 3つの学年が体験的活動を実施した。	4 3 2 1	児童アンケート「学校の授業は分かりやすいですか。」が98%以上 児童アンケート「学校の授業は分かりやすいですか。」が95%以上 児童アンケート「学校の授業は分かりやすいですか。」が90%以上 児童アンケート「学校の授業は分かりやすいですか。」が90%未満	3	単元計画に合わせて、外部人材を活用した特別授業を実施し、児童の興味関心を喚起することで児童の学びが深まった。各学年で活用した外部人材を記録しておく、次年度に引き継ぐ。	B	地域にはいろいろな知識や経験をお持ちの方も多く、学校側の年間計画に合わせた人材推薦も可能です。	

令和5年度

昭島市立光華小学校

学校経営重点計画(教育推進計画)年度末評価【総括表】

学校教育目標	◎すすんでする子 ○健康な子 ○考える子 ○協力する子	ビジョン	【目指す学校像】	子供一人一人の『幸せ』を具現化する学校＋教職員一人一人の『働きがい』を具現化する学校
			【目指す児童・生徒像】	どの共同体でも力を発揮できる子(2030年の日本で生きる子供たちへ)
			【目指す教師像】	教育者としての熱意とスキルを併せ持つ教師

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
確かな学力	主体的な学びの喜びを通して、児童・教師が「光華遊学」の成果を実感する	「協働的な学び」の具現化	・体験型学習の充実 ・主体性を引き出す課題の提示 ・対話的な学びの充実	4 概ね3項目に取り組むことができた	4	4 90%以上の児童が話し合いにすすんで参加していると回答	2	体験型および課題解決学習の頻度は高いが、発言については意欲の二極化が見られる。	体験型学習を中心に、新しい試みに挑戦していた。まずやってみよう！の精神が定着しつつある。	A	全学習の中で、ホワイトボード等、特に対話につながる学習ツールの活用を検討していく。
				3 概ね2項目に取り組むことができた		3 80%以上の児童が話し合いにすすんで参加していると回答					
				2 概ね1項目に取り組むことができた		2 70%以上の児童が話し合いにすすんで参加していると回答					
				1 全く取り組めなかった		1 60%以上の児童が話し合いにすすんで参加していると回答					
		「個別最適な学び」の具現化	・ICTの活用スキル向上 ・個に応じた学習方法の保証 ・個に応じた学習評価の工夫	4 概ね3項目に取り組むことができた	4	4 90%以上の児童が授業にすすんで参加していると回答	4	個別最適な学びの推進もあり、個々の学習意欲は高い傾向が続く。	ICT活用には教師の個人差が見られる。光華遊学が、個人の学力向上につながるか注目していきたい。	B	本年度施行した新たな学びのスタイルを継続、児童の視点で学習意欲を喚起し続ける。
				3 概ね2項目に取り組むことができた		3 80%以上の児童が授業にすすんで参加していると回答					
				2 概ね1項目に取り組むことができた		2 70%以上の児童が授業にすすんで参加していると回答					
				1 全く取り組めなかった		1 60%以上の児童が授業にすすんで参加していると回答					
		「考え方のルーティーン」の共有化	・自ら気付く学習の保証 ・熟慮する学習の保証 ・意図的に既習を活用する学習の保証	4 概ね3項目に取り組むことができた	4	4 90%以上の児童が授業がわかりやすいと回答	4	授業中の理解度は高い。課題は基礎的な知識の定着である。	昨年度比較で学力調査が向上した項目が多く評価したい。家庭学習の大切さを重視したい。	A	本年度後半始めた「ノートを活用した振り返り」を家庭学習に定着させたい。
				3 概ね2項目に取り組むことができた		3 80%以上の児童が授業がわかりやすいと回答					
				2 概ね1項目に取り組むことができた		2 70%以上の児童が授業がわかりやすいと回答					
				1 全く取り組めなかった		1 60%以上の児童が授業がわかりやすいと回答					
豊かな心	多様な見方・考え方を働かせ、自ら楽しさ(ワクワク・ドキドキ)を見い出す心のクセを身に付ける	多様性を認め合う心の醸成	・聞く力・態度の育成 ・特別支援教育への理解 ・人権感覚の育成	4 概ね3項目に取り組むことができた	4	4 90%以上の児童が自分や友達を大切にしていると回答	4	日常的にも自他を大切にしている児童は多い。多様性の相互承認を推進する。	特別支援教育や人権教育にはもう少し期待したい。トラブル解決のためにも「心をとめる」合言葉はよい。	B	今後も多様性の相互承認を人権教育の基盤とし、校内外のリソースを活用していく。
				3 概ね2項目に取り組むことができた		3 80%以上の児童が自分や友達を大切にしていると回答					
				2 概ね1項目に取り組むことができた		2 70%以上の児童が自分や友達を大切にしていると回答					
				1 全く取り組めなかった		1 60%以上の児童が自分や友達を大切にしていると回答					
		感性を豊かにする教育の充実	・読書活動の充実 ・芸術的感性への刺激 ・自然・栽培体験の充実	4 概ね3項目に取り組むことができた	4	4 90%以上の児童が「本や絵や音楽、自然が好きです」と回答	3	読書においては習慣化の二極化、読書分野の偏りが課題である。	読書活動の充実、江戸東京野菜栽培等の創意工夫が子供の感性を育てている。	A	読書週間を起点に全校的な取組の工夫を図っていきたい。
				3 概ね2項目に取り組むことができた		3 80%以上の児童が「本や絵や音楽、自然が好きです」と回答					
				2 概ね1項目に取り組むことができた		2 70%以上の児童が「本や絵や音楽、自然が好きです」と回答					
				1 全く取り組めなかった		1 60%以上の児童が「本や絵や音楽、自然が好きです」と回答					
		最後まであきらめない心(レジリエンス)の醸成	・児童主体の活動保証 ・形成的評価の充実 ・継続的な活動の工夫	4 概ね3項目に取り組むことができた	3	4 90%以上の児童が「決めたことは最後まで頑張り続けることができる」と回答	3	児童主体の活動がレジリエンスの育成につながっているかは検証が必要。	子供中心の遊びや食育からもあきらめない気持ちは育める。学年差が出ないようにしてほしい。	A	レジリエンスの育成は一朝一夕ではできないものなので、今後も意図的な継続を続けていく。
				3 概ね2項目に取り組むことができた		3 80%以上の児童が「決めたことは最後まで頑張り続けることができる」と回答					
				2 概ね1項目に取り組むことができた		2 70%以上の児童が「決めたことは最後まで頑張り続けることができる」と回答					
				1 全く取り組めなかった		1 60%以上の児童が「決めたことは最後まで頑張り続けることができる」と回答					
健やかな体	自らの健康を保持・増進する生活習慣の定着	体を動かす喜びの実感	・体育の授業改善 ・元気アップガイドブック活用 ・体育朝会の活用	4 概ね3項目に取り組むことができた	3	4 90%以上の児童が「休み時間や体育で遊んだり体を動かしている」と回答	2	保護者啓発も含めて、活動の周知が弱い。「遊び」を中心にした実働は増えている	プレイパークの設置は大変よかった。「おもしろい運動会」には多くの工夫があつてみんなが楽しめていた。	A	自由な遊び中心を軸としつつ、計画的で統率された活動も増やしていく。
				3 概ね2項目に取り組むことができた		3 80%以上の児童が「休み時間や体育で遊んだり体を動かしている」と回答					
				2 概ね1項目に取り組むことができた		2 70%以上の児童が「休み時間や体育で遊んだり体を動かしている」と回答					
				1 全く取り組めなかった		1 60%以上の児童が「休み時間や体育で遊んだり体を動かしている」と回答					
		生活習慣の改善	・GM60の推進 ・SNSルールの推進 ・食育の推進	4 概ね3項目に取り組むことができた	4	4 90%以上の児童が「学校で学んだ安全や知識を生活に生かしている」と回答	3	活動が日常化している分、情性に流れている。インパクトある取組に変えていく。	朝、校庭で遊ぶ児童の笑顔が輝く。江戸野菜等の食育やSNSルールの指導は是非継続を。	A	GM60等生活習慣改善は継続に意味があると考える。食育は新たな取組を検討したい。
				3 概ね2項目に取り組むことができた		3 80%以上の児童が「学校で学んだ安全や知識を生活に生かしている」と回答					
				2 概ね1項目に取り組むことができた		2 70%以上の児童が「学校で学んだ安全や知識を生活に生かしている」と回答					
				1 全く取り組めなかった		1 60%以上の児童が「学校で学んだ安全や知識を生活に生かしている」と回答					
		自他の「性・生命」の尊重	・いじめ防止の推進 ・安全(交通・生活・災害)教育の推進 ・SOSの出し方教育推進	4 概ね3項目に取り組むことができた	4	4 90%以上の児童が「学校で落ち着いて安心して生活している」と回答	4	高評価に甘んじることなく、少数でも不安をもつ児童に寄り添っていく。	いじめ等は早期発見と禍根を残さない指導を。児童がいつでも相談できる体制に注目していきたい。	A	いつでも・どこでも・誰にでも相談できる体制をさらに周知徹底していく。
				3 概ね2項目に取り組むことができた		3 80%以上の児童が「学校で落ち着いて安心して生活している」と回答					
				2 概ね1項目に取り組むことができた		2 70%以上の児童が「学校で落ち着いて安心して生活している」と回答					
				1 全く取り組めなかった		1 60%以上の児童が「学校で落ち着いて安心して生活している」と回答					
輝く未来	非認知能力の育成	「自己有用感」の向上 ※次の目標 「自己肯定感」の向上	・「あいさつ」の推奨 ・反応、返信の推奨 ・特別活動(係、委員会活動等)の形成的評価	4 概ね3項目に取り組むことができた	3	4 90%以上の児童が「先生や友達は、自分のことをよく見てくれている」と回答	3	自己有用感の育成を目標にしたが、明確な活動ができなかったと反省する。	挨拶の定着に向け子供が主体的に活動したことはすばらしい。どの委員会も主体的な活動を期待したい。	A	自己肯定感の向上を目標に、周囲の役に立つ喜びを得られる取組を工夫していく。
				3 概ね2項目に取り組むことができた		3 80%以上の児童が「先生や友達は、自分のことをよく見てくれている」と回答					
				2 概ね1項目に取り組むことができた		2 70%以上の児童が「先生や友達は、自分のことをよく見てくれている」と回答					
				1 全く取り組めなかった		1 60%以上の児童が「先生や友達は、自分のことをよく見てくれている」と回答					
		他者や地域と「つながる」喜びの実感	・外部人材の活用 ・行事への主体的な参加 ・自ら企画する機会の保証	4 概ね3項目に取り組むことができた	4	4 90%以上の児童が「人や行事に関わるのは楽しい」と回答	3	人との交流は多かったが、地域行事と関わる機会が少なかった。	高学年は自ら企画実行する機会が成長につながった。様々な方々の力を指導を受けるのはよいことだ。	A	PTA、地区委員会、青少年委員の活動を対象に、より積極的な連携を図る。
				3 概ね2項目に取り組むことができた		3 80%以上の児童が「人や行事に関わるのは楽しい」と回答					
				2 概ね1項目に取り組むことができた		2 70%以上の児童が「人や行事に関わるのは楽しい」と回答					
				1 全く取り組めなかった		1 60%以上の児童が「人や行事に関わるのは楽しい」と回答					
		自己を見つめる力の醸成	・キャリアアルバムを活用 ・道徳の授業改善 ・学習の自己評価活動	4 概ね3項目に取り組むことができた	3	4 90%以上の児童が「今の自分や、将来の自分を考えることがある」と回答	2	キャリアアルバムの活用は定着したが、自己を見つめる意識につながっていないことが課題。	キャリアアルバムの内容を子供が真に理解しているか。道徳の授業がよかった。研究発表の教訓を明確に。	B	キャリアアルバムを形成的に活用することで、自己を見つめる力との関係性を向上させる。
				3 概ね2項目に取り組むことができた		3 80%以上の児童が「今の自分や、将来の自分を考えることがある」と回答					
				2 概ね1項目に取り組むことができた		2 70%以上の児童が「今の自分や、将来の自分を考えることがある」と回答					
				1 全く取り組めなかった		1 60%以上の児童が「今の自分や、将来の自分を考えることがある」と回答					

令和 5 年度		昭島市立成隣小学校		学校経営重点計画（教育推進計画）計画表	
学校教育目標	○すすんで学ぶ子 ○心豊かな子 ○たくましい子	ビジョン	【目指す学校像】	人も自分も大切に、みんなが輝く成隣小	
			【目指す児童・生徒像】	互いを認め合い協力し合いながら課題を解決し、児童一人一人が前向きに学校生活を送っている。	
			【目指す教師像】	自身の知識・技能の向上に努め、学校の実践力、「チーム成隣」としての組織力を向上させている。	

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標		評価	成果指標		評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策	
確かな学力	◎主体的に学習に取り組む児童の育成する。 ・児童による目標の設定と振り返りを重視し、基礎的な知識及び技能を習得させる。 ・児童一人一人への注目と成長を支援する。 ・経験や体験を深める活動を重視する。	児童の学習に対する目的意識を大切にし、自身の学びを実感できる授業を実施する。	学習のめあての提示、振り返りを実施し、児童が何を学んだか自覚できるようにする。	4	全12学級でどちらも実施した。	4	4	児童アンケート「すすんで学習」9.5割以上	3	全学級担任・専科の授業で何を勉強するのか「めあて」を示し、何を学んだか「振り返り」授業を実施している。	「めあて」を掲示することにより、児童が学習に対する目的意識をもって課題に取り組んでいる。振り返ることにより、学習の定着が図られる。今後の学力向上を期待している。	B	明確な「めあて」の提示。「振り返り」の実施に加え、「共感的な人間関係の育成」「自己決定の場の提供」等の視点から授業改善を図る。	
				3	11学級でどちらも実施した。		3	児童アンケート「すすんで学習」9割以上						
				2	8学級以上でどちらも実施した。		2	児童アンケート「すすんで学習」7割以上						
				1	8学級未満しか実施できなかった。		1	児童アンケート「すすんで学習」7割未満						
			質の高い個別指導・家庭学習を行う。	家庭学習チェック表を活用し、児童の学びの習慣化と個別の対応を工夫する。	4	家庭学習チェックと個別の対応を全12学級で実施した。	4	4	保護者アンケート「家庭学習の習慣」肯定的評価8割以上	2	全担任が児童の家庭学習の実施状況を把握し必要に応じて個別対応を実施している。	家庭環境が様々だと思う。担任が全てを把握することは難しいと思うが、努力を続けてほしい。課題を達成したときは今後も一人一人を褒めてほしい。	B	引き続き、家庭学習の内容について以下を実施。①学年で内容を検討②個別対応が必要な場合は学年の担任間で対応内容を共有
				3	家庭学習チェックと個別の対応を11学級で実施した。	3		保護者アンケート「家庭学習の習慣」肯定的評価7割以上						
				2	家庭学習チェックと個別の対応を10学級で実施した。	2		保護者アンケート「家庭学習の習慣」肯定的評価6割以上						
				1	家庭学習チェックと個別の対応を9学級以下で実施した。	1		保護者アンケート「家庭学習の習慣」肯定的評価6割未満						
		「昭島市立小学校ユニバーサルデザイン」を活用した日常活動や授業における指導・支援を進める。	市のユニバーサルデザイン(UD)の冊子を活用し、適切な環境づくりをする。	4	全教室で冊子のUDチェックを年11回以上実施した。	4	4	児童アンケート「授業分かりやすい」9.5割以上	3	市のユニバーサルデザインの冊子を活用し、全教室で適切な環境づくりを行っている。	教室内での不自由さは感じられなかった(参観時)。今後もユニバーサルデザインを活用してどの児童にも分かる授業を充実させてほしい。	B	外部講師を招いて「ふれあい月間」と連動した研修を行い、特別支援教育の視点から教員の授業改善を図るようにする。	
			3	全教室で冊子のUDチェックを年10回以上実施した。	3		児童アンケート「授業分かりやすい」8.5割以上							
			2	全教室で冊子のUDチェックを年9回以上実施した。	2		児童アンケート「授業分かりやすい」8割以上							
			1	全教室で冊子のUDチェックを年8回以上実施した。	1		児童アンケート「授業分かりやすい」8割未満							
豊かな心	◎互いを認め、協力し合う児童の育成する。 ・児童の言語環境を整え、人権感覚を高める。 ・互いを認め合い、物事を共に創造する体験的な活動を重視する。 ・互に支え合う、よりよい関係を大切にした活動を重視する。	○道徳科の授業を要とし、特別活動や学校行事の再考・再興をとおして児童の人間力を育成する。	児童に活動のねらいや目的を明確にもたせるとともに、事後に互いを認め合うことができる振り返りの場を設ける。	4	道徳科の特質に即した授業と特別活動や学校行事を全12学級で実施した。	4	4	児童アンケート「自己肯定感」の肯定的評価9割以上。	4	学校行事においては活動のねらいを明確にし、児童に目標をもたせて指導にあたっている。	道徳は児童の将来において基礎となるので更なる推進を期待する。学校行事では普段の授業では体験できない貴重な時間になっている。行事への参加が苦手な児童への工夫も続けてほしい。	B	道徳の授業と学校行事の関連を捉えた指導計画を再編成し、道徳の授業内容と学校生活の振り返りが円滑に行われるようする。	
				3	道徳科の特質に即した授業と特別活動や学校行事を10学級以上で実施した。		3	児童アンケート「自己肯定感」の肯定的評価8割以上。						
				2	道徳科の特質に即した授業と特別活動や学校行事を9学級以上で実施した。		2	児童アンケート「自己肯定感」の肯定的評価7割以上。						
				1	道徳科の特質に即した授業と特別活動や学校行事を9学級未満で実施した。		1	児童アンケート「自己肯定感」の肯定的評価7割未満。						
		児童が個々のよさを発揮して成長できる学級集団・学年集団を形成する。	リーダーシップとフォロアシップを理解させ、自己の成長をキャリアパスポートに記録させる。	4	全12学級で実施した。	4	4	保護者アンケート「児童の自己肯定感」の肯定的評価9割以上。	3	学級での係活動、たてわり班活動、遠足、宿泊行事、運動会等を通して、互いを支え合うよりよい人間関係を築いている。	よりよい人間関係を築くことができるように、今後も学級経営を工夫していただきたい。行事などの取組を通して児童が協力する態度を育ててほしい。また、児童がリーダーと成り、他の児童を推進していく指導に期待しています。	B	特別活動のねらいを明確にした指導と活動の振り返りを充実させ、児童自身が自己の成長を認識できるようにする。	
			3	11学級で実施した。	3		保護者アンケート「児童の自己肯定感」の肯定的評価8割以上。							
			2	10学級で実施した。	2		保護者アンケート「児童の自己肯定感」の肯定的評価7割以上。							
			1	9学級で実施した。	1		保護者アンケート「児童の自己肯定感」の肯定的評価7割未満。							
		児童の言語環境を整え、いじめ問題の未然防止と早期解消に全職員で取り組む。	「人権教育プログラム」「いじめ総合対策」を活用していじめ未然防止に関する授業を実践する。	4	年6回以上実施した。	3	4	児童による評価で「相談できる大人がいる」95%以上	2	「ふれあい月間」の取組を通して、言葉遣いの指導と、いじめ未然防止の授業を実践している。スクールカウンセラーの活用を推進する。	児童一人一人にいじめをしない自覚を育ててほしい。児童の様子をよく聞き、家庭との連絡を密に行ってほしい。	B	外部講師を招いて「ふれあい月間」と連動した研修を行い、教員の生活指導観を向上させる。	
			3	年4～5回実施した。	3		児童による評価で「相談できる大人がいる」80%以上95%未満。							
			2	年3回実施した。	2		児童による評価で「相談できる大人がいる」50%以上80%未満。							
			1	年1～2回実施した。	1		児童による評価で「相談できる大人がいる」50%未満							
健やかな体	◎心身を鍛え正しい判断で行動する児童の育成する。 ・児童による目標の設定と振り返りを重視し、基礎的な知識及び技能を習得させる。 ・児童一人一人への注目と成長を支援する。 ・経験や体験を深める活動を重視する。	日常的な運動を通して体力を向上させる。	元氣アップガイドブックを活用するとともに、休み時間や放課後の外遊びが増えるよう声掛けを行う。	4	全12学級で実施した。	4	4	体力調査のA、B判定の児童が9割以上。	3	今後も熱中症と感染症の対策を講じながら、外遊びを実施していく。今後は授業に基礎体力を高める運動を取り入れる。	感染症対策、熱中症対策と大変だが、体力向上に努めていただきたい。児童期の体力向上は一生に関わってくるので体力向上に資する運動の指導をしてほしい。	B	熱中症対策を取りながら、休み時間や放課後の校庭遊びを励行する。また、体育の導入時に動的な運動を取り入れて改善を図る。	
				3	11学級で実施した。		3	体力調査のA、B判定の児童が8割以上9割未満。						
				2	10学級で実施した。		2	体力調査のA、B判定の児童が7割以上8割未満。						
				1	9学級で実施した。		1	体力調査のA、B判定の児童が7割未満。						
		健康で安全な生活のために必要な生活習慣を身に付けさせる。	元氣アップガイドブックを活用するとともに、健康教育を推進する。	4	健康教育の授業を毎学期・年3回以上実施した。	3	4	グッドモーニング60分の達成率が全児童の9割以上。	3	グッドモーニング60分の取組を継続するとともに、養護教諭が中心となり健康診断時に心身の健康について指導する。	引き続きよい生活習慣を身に付けさせてほしい。挨拶の推進とグッドモーニング60分を継続してほしい。	B	グッドモーニング60分の取組を継続する。PTA活動とも連携して講師を招くなど、健康教育を保護者に啓発する。	
			3	健康教育の授業を年2回実施した。	3		グッドモーニング60分の達成率が全児童の7割以上9割未満。							
			2	健康教育の授業を年1回実施した。	2		グッドモーニング60分の達成率が全児童の5割以上7割未満。							
			1	健康教育の授業を実施できなかった。	1		グッドモーニング60分の達成率が全児童の5割未満。							
		健康で安全な生活のために必要な食習慣を身に付けさせる。	年3回食育の授業を行い、指導内容を保護者に伝え、児童に対する家庭での働きかけを依頼する。	4	全12学級で実施した。	3	4	保護者アンケート「食育」肯定的評価7割以上	3	全学級で食育に関する授業を実施している。お弁当の日に合わせて学校だより等でも意義について保護者に伝えている。	食は体を作る基なので、積極的に家庭に働きかけ推進してほしい。	B	全学級で食育に関する授業や給食指導を継続する。栄養士による指導については事後指導を丁寧に行う。	
			3	11学級で実施した。	3		保護者アンケート「食育」肯定的評価6割以上							
			2	10学級で実施した。	2		保護者アンケート「食育」肯定的評価5割以上							
			1	9学級で実施した。	1		保護者アンケート「食育」肯定的評価5割未満							
輝く未来	◎家庭・地域社会との理解を深め、地域の子供を育てる中心的な役割を果たす。 ・学校からの情報を積極的に発信する。 ・家庭や地域の声(期待・要望・批判)を活用する。 ・地域の教育資源や人材を活用する。	外部人材を活用した学習活動を計画的に行う。	ゲストティーチャー(GT)を活用した積極的に招聘する。	4	年2回以上GTを全12学級が招聘した。	1	4	学力調査「地域」肯定的回答9割以上	1	1学期に10学級が1回GTを活用した。後期に計画しているGTの招聘を確実に実施する。	外部人材の活用は児童にとっても貴重な体験となるので活用してほしい。	C	コロナ禍前の外部講師を活用した授業を再検討し、従前の地域外部講師による授業再開、または、新規人材の発掘を行う。	
				3	年2回以上GTを11学級が招聘した。		3	学力調査「地域」肯定的回答8割以上						
				2	年2回以上GTを10学級が招聘した。		2	学力調査「地域」肯定的回答7割以上						
				1	年2回以上GTを9学級以下で招聘した。		1	学力調査「地域」肯定的回答7割以下						
		保護者ともに児童の安全・安心に関わる指導を充実させる。	セーフティ教室等の安全指導の内容を保護者に伝え、児童に対する家庭での働きかけを依頼する。	4	全12学級で実施した。	2	4	保護者アンケート「安全・健康」の肯定的評価9割以上	2	セーフティ教室、安全指導を全学年で実施。実施内容を確実に保護者に伝え保護者の協力を得ながら指導を充実させる。	家庭と地域との連携を密にした指導を期待する。また、保護者も興味をもつようなテーマで開催してほしい。	B	学区区域の特徴でもある見通しの悪い路地の安全な歩行について、外部団体の協力を得て安全教室を実施する。	
			3	11学級で実施した。	3		保護者アンケート「安全・健康」の肯定的評価8割以上							
			2	10学級で実施した。	2		保護者アンケート「安全・健康」の肯定的評価7割以上							
			1	9学級で実施した。	1		保護者アンケート「安全・健康」の肯定的評価7割未満							
		保護者と教員、保護者同士が理解を深める機会をつくる。	感染症対策をとりつつ、学校公開、保護者会、PTA活動等の開催を工夫して行う。	4	学校行事と10個のPTA活動を実施	3	4	保護者(家庭数)出席9割以上	3	保護者会、学校公開、個人面談、PTA学年活動、周年記念行事を実施。今後も予定している行事を工夫しながら実施する。	感染症対策をとりながら大変だが、できるかぎり行ってほしい。そして、保護者や地域の人々の理解を深める取り組みを継続してほしい。	B	次年度は学校運営協議会の設置初年度にあたる。学校に臨むことを収集し、地域・保護者とともに取り組む事業を開拓する。	
			3	学校行事と7～9個のPTA活動を実施	3		保護者(家庭数)出席7割以上9割未満							
			2	学校行事と5～7個のPTA活動の実施	2		保護者(家庭数)出席6割以上7割未満							
			1	学校行事と4個以下のPTA活動を実施	1		保護者(家庭数)出席6割未満							

令和5年度

昭島市立田中小学校

学校経営重点計画(教育推進計画)年度末評価【総括表】

学校教育目標	○よく考える子 ○思いやりのある子 ○たくましい子	ビジョン	【目指す学校像】	人とのつながりを大切にして魅力ある学校をつくる。
			【目指す児童・生徒像】	「た・な・か」の子 【 た:たくましい子 な:仲良くする子 か:かしこく考える子 の:のびる子 こ:個性豊かな子 】
			【目指す教師像】	「た(Timemanagement=時間管理)・な(Navigator=誘導者・航海士)・か(kindness=思いやり・親切)」を意識し職務を励行する教師

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
確かな学力	基礎・基本を大切に 分ける授業を実践し、主体的・意欲的に学び、基礎的な知識及び技能等を確実に習得させる。	個々の学習状況を正しく把握し、読む・書く・計算する力を身に付けさせる。	授業、ベーシックドリル、くじらーニング、日常の小テスト、力試し、補教室、宿題・家庭学習等の充実。	4 漢字、計算の定着が85%以上 3 漢字、計算の定着が82%以上 2 漢字、計算の定着が80%以上 1 漢字、計算の定着が80%未満	4	4 全国学力 国・算平均 -1.5pt 3 全国学力 国・算平均 -2.0pt 2 全国学力 国・算平均 -3.0pt 1 全国学力 国・算平均 -3.0pt未満	4	6年生は全国2教科平均よりも1.6P上まわった。次年度以降も続くよう、指導力向上を目指していきたい。	その年の児童の実態により数値は上下する。一喜一憂せず、適切な指導をお願いする。	A	これからも基礎基本の学習の徹底を継続するとともに、協働的な学び、個別最適な学びをさらに推進していく。
		特別支援教育を充実させ、どの子にも分かりやすい授業を実践する。	市のユニバーサルデザイン(冊子)を活用するとともに、適切な環境づくりをする。	4 全校で冊子のUDチェック実施11回以上 3 全校で冊子のUDチェック実施10回以上 2 全校で冊子のUDチェック実施9回以上 1 全校で冊子のUDチェック実施年9回未満	4	4 児童評価 分かりやすい授業97%以上 3 児童評価 分かりやすい授業95%以上 2 児童評価 分かりやすい授業90%以上 1 児童評価 分かりやすい授業90%未満	2	児童評価「分かりやすい授業」の肯定的回答は91ptであった。指導方法・環境の改善が必要である。	育休代替の未配置で本来できる教育活動ができないこともある。教員確保が喫緊の課題である。	B	人材不足の中でも児童の学びと成長を担保できる組織づくりを工夫していく。
		学年相当の時間(学年×10分)に基づいた家庭学習を推進させる。	自己の課題克服グットライフ調査宿題＋自学自習	4 各学年家庭学習実施率91%以上 3 各学年家庭学習実施率86%以上 2 各学年家庭学習実施率81%以上 1 各学年家庭学習実施率81%未満	4	4 各学年家庭学習取組率90%以上 3 各学年家庭学習取組率86%以上 2 各学年家庭学習取組率81%以上 1 各学年家庭学習取組率81%未満	4	児童、学級、家庭の実態を考慮しながら推進することができたが、習慣化が課題である。	家庭学習は定着している。課題の量や内容が学級により偏りが見られる。	B	学級の実態を考慮しながら課題の量や内容が適切かどうか検証し、習慣化をさせていく。
	豊かな心	児童の道徳的実践力を高める。	道徳科の特質に即した授業を行うとともに、全教育活動を通して道徳教育を推進する。	4 特質に即した道徳授業を全校級で実施 3 特質に即した道徳授業を9割の学級で実施 2 特質に即した道徳授業を8割の学級で実施 1 特質に即した道徳授業を7割の学級で実施	4	4 児童評価「自己肯定感」の肯定的評価9割以上 3 児童評価「自己肯定感」の肯定的評価8割以上 2 児童評価「自己肯定感」の肯定的評価7割以上 1 児童評価「自己肯定感」の肯定的評価7割未満	4	自分や友達を大切にしているとの肯定的回答が96Ptと高かった。	心の教育はとても大事である。これからはしっかりと取り組んでいって欲しい。	B	令和6年度は道徳科を研究教科として道徳教育の充実を図っていく。
				4 年3回以上実施した 3 年2回実施した 2 年1回実施した 1 実施できなかった	4	4 児童評価「相談できる先生がいる」90%以上 3 児童評価「相談できる先生がいる」75%以上 2 児童評価「相談できる先生がいる」55%以上 1 児童評価「相談できる先生がいる」55%未満	3	相談できる先生がいると回答した児童が89%未満は課題である。次年度は90%達成を実現できるよう児童理解に努める。	とても児童に寄り添ってくれる教員が多い。今後もよりよくお願いしたい。	A	待つ・聴く・受け止める姿勢で児童が相談しやすくなるような関係性を構築していく。
				4 楽しくする工夫をしている90%以上 3 楽しくする工夫をしているか85%以上 2 楽しくする工夫をしているか80%以上 1 楽しくする工夫をしているか80%未満	3	4 学校生活は楽しい95%以上 3 学校生活は楽しい90%以上 2 学校生活は楽しい85%以上 1 学校生活は楽しい85%未満	4	委員会活動やたてわり活動では、新しい発想の工夫で、更に意味のある活動ができることが分かった。次年度も継続していく。	あおば(通常)・ふたば(知)・わかば(情)の交流推進と多様性を認められる児童の育成を願う。	A	これからも新しい発想を大切にして、楽しく学べ、成長を自覚できる田中小学校をつくる。
		学校生活をより楽しいものにする。	授業、特別活動、交流活動・交友活動の充実	4 児童評価「運動に意欲的」の評価9割以上 3 児童評価「運動に意欲的」の評価8割以上 2 児童評価「運動に意欲的」の評価7割以上 1 児童評価「運動に意欲的」の評価7割未満	4	4 体力調査のA、B判定の児童が6割以上 3 体力調査のA、B判定の児童が5割以上 2 体力調査のA、B判定の児童が4割以上 1 体力調査のA、B判定の児童が4割未満	3	児童の体力が回復傾向にある。元気アップGBや外遊びの推進で体力向上を推進していく。	これからも継続して、外遊びの大切さをもっと意識させたい。	A	元気アップGBの更なる活用と、体育学習、外遊びの充実を図り、体力向上を目指す。
				4 健康教育の授業を毎学期・年3回以上実施 3 健康教育の授業を年2回実施 2 健康教育の授業を年1回実施 1 健康教育の授業を未実施	4	4 GM60分達成率が全児童の9割以上 3 GM60分達成率が全児童の7割以上 2 GM60分達成率が全児童の5割以上 1 GM60分達成率が全児童の5割未満	3	放課後が多忙な高学年児童の達成率が上がらない。発達段階に合わせた指標も必要である。	とても意義のある取組だと思う。今後も、継続して取り組ませていけると良い。	B	専門機関との連携を確立させるとともに、GM60分の推進を図る。
				4 食育の指導を毎学期・年3回以上実施 3 食育の指導を年2回実施 2 食育の指導を年1回実施 1 食育の指導を未実施	4	4 食育の目標を達成した児童が9割以上 3 食育の目標を達成した児童が8割以上 2 食育の目標を達成した児童が7割以上 1 食育の目標を達成した児童が7割未満	4	コロナウイルスが5類へ移行し、今後は更なる食育の推進を図っていく。	食事は楽しい場であって欲しい。会食としての給食にも取り組んで欲しい。	B	残菜率は2.5%で、昨年度同様に少ない。フードロスの学びを深め、次年度も継続できるよう取り組んでいく。
	輝く未来	将来の夢を児童にもたせる。	職場体験、キャリア・パスポート、家族の職業について理解を深めさせる。	4 生き方について考える機会を与えた70%以上 3 生き方について考える機会を与えた60%以上 2 生き方について考える機会を与えた50%以上 1 生き方について考える機会を与えた50%未満	4	4 将来について考えることがある90%以上 3 将来について考えることがある85%以上 2 将来について考えることがある80%以上 1 将来について考えることがある80%未満	4	キャリア・パスポートを活用して、将来の自分について考えていけるようにする。	6年生の職場体験が復活できてよかった。より一層のキャリア教育の充実を願う。	A	自分の将来像をイメージさせ、生涯学習の基盤となるキャリア教育をより一層充実させる。
				4 8月を除く11ヶ月で実施 3 8月を除く10ヶ月で実施 2 8月を除く9ヶ月で実施 1 8月を除く8ヶ月で実施	4	4 保護者評価「分かりやすい情報発信」9割以上 3 保護者評価「分かりやすい情報発信」8割以上 2 保護者評価「分かりやすい情報発信」7割以上 1 保護者評価「分かりやすい情報発信」7割未満	4	HPをリニューアルし、必要な情報が見付けやすくなったとの声が多数届いた。	メール配信は大変役に立っている。HPも更なる充実を期待する。	B	更に必要な情報をタイムリーに発信できるよう工夫をしていく。
				4 #REF! 3 #REF! 2 #REF! 1 #REF!		4 #REF! 3 #REF! 2 #REF! 1 #REF!					
		#REF!	#REF!	4 生き方について考える機会を与えた70%以上 3 生き方について考える機会を与えた60%以上 2 生き方について考える機会を与えた50%以上 1 生き方について考える機会を与えた50%未満	4	4 将来について考えることがある90%以上 3 将来について考えることがある85%以上 2 将来について考えることがある80%以上 1 将来について考えることがある80%未満	4	キャリア・パスポートを活用して、将来の自分について考えていけるようにする。	6年生の職場体験が復活できてよかった。より一層のキャリア教育の充実を願う。	A	自分の将来像をイメージさせ、生涯学習の基盤となるキャリア教育をより一層充実させる。
				4 8月を除く11ヶ月で実施 3 8月を除く10ヶ月で実施 2 8月を除く9ヶ月で実施 1 8月を除く8ヶ月で実施	4	4 保護者評価「分かりやすい情報発信」9割以上 3 保護者評価「分かりやすい情報発信」8割以上 2 保護者評価「分かりやすい情報発信」7割以上 1 保護者評価「分かりやすい情報発信」7割未満	4	HPをリニューアルし、必要な情報が見付けやすくなったとの声が多数届いた。	メール配信は大変役に立っている。HPも更なる充実を期待する。	B	更に必要な情報をタイムリーに発信できるよう工夫をしていく。
				4 #REF! 3 #REF! 2 #REF! 1 #REF!		4 #REF! 3 #REF! 2 #REF! 1 #REF!					
				4 生き方について考える機会を与えた70%以上 3 生き方について考える機会を与えた60%以上 2 生き方について考える機会を与えた50%以上 1 生き方について考える機会を与えた50%未満	4	4 将来について考えることがある90%以上 3 将来について考えることがある85%以上 2 将来について考えることがある80%以上 1 将来について考えることがある80%未満	4	キャリア・パスポートを活用して、将来の自分について考えていけるようにする。	6年生の職場体験が復活できてよかった。より一層のキャリア教育の充実を願う。	A	自分の将来像をイメージさせ、生涯学習の基盤となるキャリア教育をより一層充実させる。
		#REF!	#REF!	4 8月を除く11ヶ月で実施 3 8月を除く10ヶ月で実施 2 8月を除く9ヶ月で実施 1 8月を除く8ヶ月で実施	4	4 保護者評価「分かりやすい情報発信」9割以上 3 保護者評価「分かりやすい情報発信」8割以上 2 保護者評価「分かりやすい情報発信」7割以上 1 保護者評価「分かりやすい情報発信」7割未満	4	HPをリニューアルし、必要な情報が見付けやすくなったとの声が多数届いた。	メール配信は大変役に立っている。HPも更なる充実を期待する。	B	更に必要な情報をタイムリーに発信できるよう工夫をしていく。
				4 #REF! 3 #REF! 2 #REF! 1 #REF!		4 #REF! 3 #REF! 2 #REF! 1 #REF!					
				4 生き方について考える機会を与えた70%以上 3 生き方について考える機会を与えた60%以上 2 生き方について考える機会を与えた50%以上 1 生き方について考える機会を与えた50%未満	4	4 将来について考えることがある90%以上 3 将来について考えることがある85%以上 2 将来について考えることがある80%以上 1 将来について考えることがある80%未満	4	キャリア・パスポートを活用して、将来の自分について考えていけるようにする。	6年生の職場体験が復活できてよかった。より一層のキャリア教育の充実を願う。	A	自分の将来像をイメージさせ、生涯学習の基盤となるキャリア教育をより一層充実させる。
				4 8月を除く11ヶ月で実施 3 8月を除く10ヶ月で実施 2 8月を除く9ヶ月で実施 1 8月を除く8ヶ月で実施	4	4 保護者評価「分かりやすい情報発信」9割以上 3 保護者評価「分かりやすい情報発信」8割以上 2 保護者評価「分かりやすい情報発信」7割以上 1 保護者評価「分かりやすい情報発信」7割未満	4	HPをリニューアルし、必要な情報が見付けやすくなったとの声が多数届いた。	メール配信は大変役に立っている。HPも更なる充実を期待する。	B	更に必要な情報をタイムリーに発信できるよう工夫をしていく。

令和5年度		昭島市立拝島第一小学校		学校経営重点計画(教育推進計画 年度末評価【総括表】)	
学校教育目標	○ やさしく(徳) ○ 強 く(体) ○ よく考え(知) 手をつなぐ拝島の子	ビ ジ ョ ン	【目指す学校像】	○ 生き生きと学び、達成感を味わえる学校 ○ 安心して子供を預けられる信頼できる学校 ○ 働きがいのある学校(教職員にとって)□	
			【目指す児童・生徒像】	○ 心身ともに健康な子 ○ 主体的・対話的で深い学びのできる子 ○ 互いに認め合い高め合う子	
			【目指す教師像】	○ 教育公務員としての自覚をもち使命を果たすために、絶えず研究と修養に努め、児童のために誠心誠意職務に励む教師	

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標		評価	成果指標		評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度の改善策	
確かな学力	主体的・対話的で深い学びの視点による授業改善を行うとともに、「個別最適な学び」「協働的な学び」の実現を目指す。	授業改善、評価の工夫、カリキュラムマネジメントの実施と、個別最適な学び、協働的な学びを目指す指導への挑戦	・ゴール(評価)を明確にし、逆算的に計画する学習展開の工夫 ・どの児童も参加しやすい問口の広い導入の工夫 ・教科横断的、問題解決的な学習 ・児童の実態把握、学力調査の分析、授業改善プラン作成・実践	4	4項目全て取り組むことができた。	3	4	92%以上の児童が授業に進んで取り組むと回答	4	児童は、自身がおおむね進んで学習に取り組んでいると感じている。教員は、授業改善に前向きに取り組んでいるが、児童の学力向上が不十分に感じているところがある。子供の意欲の高まりを活かし、今後も具体的な授業改善案を考え、取り組んでいく必要がある。	・児童が充実して取り組める内容になっているところは評価できる。学力に表れるには時間がかかるかもしれない。 ・児童自身が進んで学習に取り組んでいる姿勢は素晴らしい。	B	次年度も、個別最適な学びを目指し、児童の主体的な学習となるよう、授業改善を図る。そのために、ねらいの明確な学習、振り返りを確実にし、指導と評価の一体化を目指す。また、授業改善プランの作成と実施を具体的なものとし、成果を明らかにする。	
			3	3項目は取り組むことができた	3		82%～92%未満の児童が授業に進んで取り組むと回答							
			2	2項目は取り組むことができた。	2		72%～82%未満の児童が授業に進んで取り組むと回答							
			1	1項目しか取り組めなかった。	1		72%未満の児童が授業に進んで取り組むと回答							
		基礎的基本的な学力を身に付けるための取り組みの提案と実施	・実態に合った学習スタンダードの見直しと取組の徹底 ・内容や方法を工夫し、誰もが意欲的に取り組める朝学習への取組 ・読書時間の取組の工夫 ・家庭学習の内容の工夫と習慣付け	4	4項目全て取り組むことができた。	3	4	90%以上の児童が身に付いたと回答	3	4	90%以上の児童が身に付いたと回答	・家庭学習や読書などの成果がすぐには表れないと思う。難しい課題だが、継続して取り組んでほしい。 ・教員の工夫が児童の興味につながっていることから、今後に期待できる。	C	次年度も、朝学習や家庭学習の充実を図り、基礎学力の定着の手助けとする。児童自身が、反復練習を通して力が付いたことを実感できるよう工夫する。また、本を読む習慣が身に付くよう、引き続き指導を行う。
			3	3項目は取り組むことができた	3		80%～90%未満の児童が身に付いたと回答							
			2	2項目は取り組むことができた。	2		70%～80%未満の児童が身に付いたと回答							
			1	1項目しか取り組めなかった。	1		70%未満の児童が身に付いたと回答							
		特別支援教育の視点を生かした環境整備の充実、授業改善の推進	・個に応じた指導及びUDを意識した学習展開(焦点化・視覚化・共有化) ・UD意識した学習環境の整備(板書・見通し・掲示刺激・机上整理) ・困り感をもつ児童への個別の対応 ・保護者との共通理解	4	4項目全て取り組むことができた。	3	4	92%以上の児童が授業が分かると回答	4	4	92%以上の児童が授業が分かると回答	・外部からの情報等が得られる分野だと思ふ。使える資源を使う工夫が出さると思う。	B	次年度も、教室環境の整備、焦点化・視覚化・共有化を意識した学習展開を行い、児童にとってわかりやすい学習を目指す。また、困り感をもつ児童について、特別支援教室の担任とも情報交換を通して、より具体的な個別の対応をしていく。
			3	3項目は取り組むことができた	3		82%～92%未満の児童が授業が分かると回答							
			2	2項目は取り組むことができた。	2		72%～82%未満の児童が授業が分かると回答							
			1	1項目しか取り組めなかった。	1		72%未満の児童が授業が分かると回答							
豊かな心	自分も仲間も大切にし、お互いのよさを認め合い、相手を思いやる心を育て、楽しい学校生活を実感し、自己の生き方を深めることのできる児童の育成を目指す。	道徳授業の質の向上を図り、自ら考え、日常生活に活かし、互いに認め合う児童の育成	・よさを認め、互いに必要とされる実感がもてる学級経営 ・価値を明確にした授業づくりと、自己と向き合う学習展開の工夫 ・年間計画の確実な実施 ・全教育活動に関連付けた指導	4	4項目全て取り組むことができた。	3	4	92%以上の児童が大切さを学ぶことができたと回答	4	児童は、おおむね自分も友達も大切にしていると感じている。教師も、道徳の学習の質の向上を目指し、研鑽に励んでいる。ただ、日常生活の中で、友達とのトラブルは起こることも多く、ケースに応じて素早く対応しているが、学校生活の様々な場面で、引き続き子供たちの人を思いやる心を醸成する必要がある。	・児童が自分を振り返り評価できる力を付けているのはよいことだと思う。 ・道徳の学習等で学んだことを自らの学校生活で実践しようとして、豊かな心を育む活動として評価できる。	B	児童同士が、お互いのよさに気付く取り組みや、共に活動することを通してよさに気付く機会を意図的に計画し、仲間意識を高め、大切な存在であると感じられるよう、ねばり強く指導を続けていく。また、自身の想いを素直に表現できる環境を整えていく。	
			3	3項目は取り組むことができた	3		82%～92%未満の児童が大切さを学ぶことができた							
			2	2項目は取り組むことができた。	2		72%～82%未満の児童が大切さを学ぶことができた							
			1	1項目しか取り組めなかった。	1		72%未満の児童が大切さを学ぶことができた							
		いじめの未然防止と早期対応を推進し、問題行動に素早く気付き対応し、安心して通える学校運営の実現	・人権教育プログラムの活用 ・生活指導夕会での情報共有と素早い対応、報道組の徹底 ・いじめアンケートの確実な実施と日常からの未然防止と早期対応 ・ふれあい月間の取組	4	4項目全て取り組むことができた。	4	4	92%以上の児童が判断できたと回答	4	4	92%以上の児童が判断できたと回答	・いじめの発見や対応に迅速に対応していると聞いて安心した。子供の心に残るようにならないよう、きめ細かく指導をしてほしい。	B	善悪の判断に自信のない児童や、いじめを止めることのできない児童の心情に寄り添うためにも、日常から人権について考えさせ、誰もが不当に嫌な思いをしない環境を目指す。また、SNSの不適切な利用を防ぐためにも、年間計画にリテラシーの時間を十分に設ける。
			3	3項目は取り組むことができた	3		82%～92%未満の児童が判断できたと回答							
			2	2項目は取り組むことができた。	2		72%～82%未満の児童が判断できたと回答							
			1	1項目しか取り組めなかった。	1		72%未満の児童が判断できたと回答							
		人や自然、文化との関わりを通して、本物と出合い自尊感情や自己有用感を高める実践への取組	・ゲストティーチャーによる学び ・実践、体験的活動の充実 ・栽培体験活動の実施 ・縦割り班活動の充実	4	4項目全て取り組むことができた。	3	4	90%以上の児童が体験学習は楽しいと回答	4	4	90%以上の児童が体験学習は楽しいと回答	・地域との関係のよさがしつかり生かされている取組みだと思ふ。	B	縦割り班活動をさらに充実した内容にするため、各学年の役割等も決めながら、リーダーとしてのふるまいや、協力して取り組む楽しさをさらに味わわせたい。また、自然や文化についての学びを外部講師を通して学ぶ機会を増やしていきたい。
			3	3項目は取り組むことができた	3		80%～90%未満の児童が体験学習は楽しいと回答							
			2	2項目は取り組むことができた。	2		70%～80%未満の児童が体験学習は楽しいと回答							
			1	1項目しか取り組めなかった。	1		70%未満の児童が体験学習は楽しいと回答							
健やかな体	健康で安全な生活について自ら考え、仲間と協力して実践しよう挑戦する、心身ともに健康でたくましい児童の育成を目指す。	心身ともに健康で、安全に過ごすために、自己管理のできるたくましい児童の育成	・グッドモーニング60分の取組 ・ノーマedia習慣の取組 ・安全、防災教育の確実な実施とふりかえりの重視 ・チャレンジ精神、ルール尊重、ファエプレーの大切さを指導・実践	4	4項目全て取り組むことができた。	3	4	90%以上の児童が安全健康についていかすと回答	3	児童は、基本的な生活習慣がしっかり身に付いていないことや、SNSやYouTubeに多くの時間を使っていることがわかった。教師も、グッドモーニング60分やノーマedia週間の取組を行っているが、十分な効果が上がっていない。今後、保健学習の充実や、児童が実感できる指導の工夫、保護者への協力を求める工夫が必要である。	・SNS、YouTubeの代わりにするものをたくさん提案できるといふ。やることから、安易に流れていくと思ふ。 ・子供自身が自らを守ることを自らの問題として考え、代表委員会などで活動を工夫することはよいことだと思ふ。	C	グッドモーニング60分の効果を高めるため、3年生の保健学習に養護教諭が参加したり、ノーマediaの効果を高めるために、代表委員会や保健委員会の活動を工夫したりして取り組ませたい。何よりも、自分たちが時間の管理ができるよう、日常的に指導を行う。	
			3	3項目は取り組むことができた	3		80%～90%未満の児童が安全健康についていかすと回答							
			2	2項目は取り組むことができた。	2		70%～80%未満の児童が安全健康についていかすと回答							
			1	1項目しか取り組めなかった。	1		70%未満の児童が安全健康についていかすと回答							
		一人一人が自らの体力を知り、自分に合った方法を考えて、体力向上に取り組む児童の育成	・めあてが明確な学習の展開 ・元氣アップガイドブックを活用した、体力運動能力調査の分析と、具体的な取り組みの推進 ・体育朝会の取組と授業での活用 ・ミニ研修会の実施と活用	4	4項目全て取り組むことができた。	3	4	90%以上の児童が体力付いていると回答	3	4	90%以上の児童が体力付いていると回答	・元氣アップガイドブックを使って、自分の体力の課題を知り、挿一小ピクで楽しく運動に取り組んでほしい。	B	体力調査の結果を基に、自身の体力について考える元氣アップタイムの活用をさらに工夫していきたい。また、運動の日常化につなげる校庭の利用について、アイデアを出し合い、場の設定などを工夫したい。
			3	3項目は取り組むことができた	3		80%～90%未満の児童が体力付いていると回答							
			2	2項目は取り組むことができた。	2		70%～80%未満の児童が体力付いていると回答							
			1	1項目しか取り組めなかった。	1		70%未満の児童が体力付いていると回答							
		食の大切さや健康について学び、自らの健康について考えることのできる取組	・お弁当の日に自ら考え取り組む ・保健指導から、自分の体についての学び(健康教育(性犯罪等)への取組 ・外部人材を招聘しての交流や講話や実技指導の取組	4	4項目全て取り組むことができた。	3	4	90%以上の児童がお弁当の日工夫できたと回答	3	4	90%以上の児童がお弁当の日工夫できたと回答	・お弁当作りは大変だか、親子で協力して作ることは大切な取組だと思ふ。	B	安全指導の年間計画を適切に実施すること、また、避難訓練や防災訓練を通して、自らの行動を考える機会を創け、自ら考え行動できる力を養えるよう工夫したい。さらに、保健指導や保健学習を通して、自身の健康や性的な安全について考える機会を適切にもちたい。
			3	3項目は取り組むことができた	3		80%～90%未満の児童がお弁当の日工夫できたと回答							
			2	2項目は取り組むことができた。	2		70%～80%未満の児童がお弁当の日工夫できたと回答							
			1	1項目しか取り組めなかった。	1		70%未満の児童がお弁当の日工夫できたと回答							
輝く未来	自分のよさを見付け、仲間と協力して活動し、苦手なことにも失敗を恐れず取り組み、役に立つ喜びを自信につなげ自己肯定感を高め、未来に向けて夢と希望をもち実現しようとする児童の育成を目指す。	学級会活動をはじめ、全教育活動における、キャリア教育の充実	・学校生活への適応 ・仲間づくり、集団の結束 ・自らの役割の自覚 ・年間指導計画に応じた、キャリア教育実践の充実(キャリアアルバム)の活用	4	4項目全て取り組むことができた。	3	4	92%以上の児童が生活を振り返り、よりよくしようと回答	3	児童はおおむね自分の生活を振り返り、よりよくしようと努力していることがわかる。教師も仲間づくりや集団作りの工夫を行い、学級活動において自分の役割を意識させ、学級の仲間と課題の解決に取り組むことができた。今後も、キャリアアルバムを通して自己を見つめ、よりよく生活していく意欲を高める工夫が必要がある。	・自分自身をよくしたいと考える児童が大変多いという結果は素晴らしい、それこそが「輝く未来」の源であると感じた。その思いを勇気づける指導を高めていきたいという教師の熱意に期待する。	B	学級活動を通して、問題解決を行い、よりよい学校生活を実現する力を高めていきたい。また、クラブや委員会活動でも、自分たちのために学校のために、よりよいものを実現するために、活動を工夫する仕組みを児童に提案していきたい。	
			3	3項目は取り組むことができた	3		82%～92%未満の児童が生活を振り返り、よりよくしようと回答							
			2	2項目は取り組むことができた。	2		72%～82%未満の児童が生活を振り返り、よりよくしようと回答							
			1	1項目しか取り組めなかった。	1		72%未満の児童が生活を振り返り、よりよくしようと回答							
		幼・保・小・中の連携について、効果的な方法を検討及び実践	・スタートカリキュラムの理解と推進 ・年3回の中学校区の計画的な交流活動 ・小中連携の具体的な方策の検討・実践 ・幼・保との連携、交流活動	4	4項目全て取り組むことができた。	3	4	90%以上の児童が自分の得意なことを考えると回答	2	4	90%以上の児童が自分の得意なことを考えると回答	・得意なことを言うように、環境や声かけの工夫していただけたらいいと思ふ。	C	学級の係活動、毎日の学習を通して、自分の得意なことを意識できるような場面を意図的に設定し、教師が勇気付けける指導をより一層高めていきたい。また、キャリアアルバムの活動を工夫し、自己肯定感をもてる振り返りや目標を立てられるような取り組みにしたい。
			3	3項目は取り組むことができた	3		80%～90%未満の児童が自分の得意なことを考えると回答							
			2	2項目は取り組むことができた。	2		70%～80%未満の児童が自分の得意なことを考えると回答							
			1	1項目しか取り組めなかった。	1		70%未満の児童が自分の得意なことを考えると回答							
		地域とのかかわり、ICT活用した世界とのかかわりを意識し、持続可能な社会づくりを意識した取組	・地域人材や環境を活用した学習 ・タブレット端末の積極的な活用 ・SNS家庭ルールの普及と、情報モラル教育の充実 ・環境をはじめとするSDG'sを意識した活動	4	4項目全て取り組むことができた。	3	4	92%以上の児童が地域の方とのふれあいできたと回答	4	4	92%以上の児童が地域の方とのふれあいできたと回答	・校長の話にあったように、本物の職業人のお話を聞く機会の提供が素晴らしい。 ・外部の力を使うことは大変よい取り組みだと思ふ。	A	外部の方との交流を通して、本物の体験や交流から学ぶ素晴らしい機会を実感させたい。また、タブレット活用の年間計画を見直し、さらに子供たちが必要に応じて活用できるようにしていきたい。さらに、社会とのつながりを考えられる学種の充実を図りたい。
			3	3項目は取り組むことができた	3		82%～92%未満の児童が地域の方とのふれあえたと回答							
			2	2項目は取り組むことができた。	2		72%～82%未満の児童が地域の方とのふれあえたと回答							
			1	1項目しか取り組めなかった。	1		72%未満の児童が地域の方とのふれあえたと回答							

令和5年度		昭島市立拝島第二小学校		学校経営重点計画(教育推進計画)年度末評価【総括表】	
学校教育目標	○よく考える子(知) ○心ゆたかな子(情) ○元気な子(意)(体)	ビジョン	【目指す学校像】	○「子供の成長」を教育活動の中核に置き、連携・協働する学校　○「チーム」一丸で教育活動を推進する学校	
			【目指す児童・生徒像】	○自らの人生(運命)を自らの力で切り拓き、これからの社会の創造を担える児童～グローバルに考え、ローカルに実践する子～	
			【目指す教師像】	○「チーム拝二」の一員として、自らすすんで学び、高め合い、協働して職務を遂行する教師　○子供のよさや可能性を伸ばせる教師集団	

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
確かな学力	(知) 自ら学び考え判断し、協働して問題を解決することができる児童の育成	「拝二小授業力スタンダード20ver.4」を基に、児童が自身の学びの成果を実感できるように指導する。	日々の授業を充実させ、学力調査(プレ・ポストテスト)のAB層を引き上げ、CD層の引き下げを図る。	4 教職員が70%以上の意識をもって行った。 3 教職員が60%以上の意識をもって行った。 2 教職員が50%以上の意識をもって行った。 1 教職員が50%未満の意識をもって行った。	4	4 3%のA層の増加と5%のD層の減少 3 2%のA層の増加と4%のD層の減少 2 1%のA層の増加と3%のD層の減少 1 0%以下のA層の増加とD層の減少	4	「拝二小授業力スタンダードver.4を基に全教職員が授業を実施してきた。(92ポイント)成果指標の基となるポストテストは2月に実施予定であり、その結果を評議員の方々に示し、今後の具体的方策を立てる。	学力向上を目指して、「拝二小授業力スタンダードver.4を基に全教職員が授業を実施してきた成果が出ている。東京都平均以上の得点がとれたことは評価できる。	A	拝島二小の全学年に共通している課題として、学力の二極化が挙げられる。「誰も取り残さない。」という理念を大切にすると共に、授業改善推進拠点校の取組を、3年間の取組だけで終わらせることなく、継続していくことで確かな学力を定着させる必要がある。
		言葉の力で獲得した知識を生かして自分の思いを論理的に表現できる児童を育成する。	指導計画のPDCAサイクル化を図り、児童が考えを深め、表現する場を意図的・計画的に設定する。	4 教職員が70%以上の意識をもって行った。 3 教職員が60%以上の意識をもって行った。 2 教職員が50%以上の意識をもって行った。 1 教職員が50%未満の意識をもって行った。	4	4 「思考・判断・表現」の評価B以上70%以上 3 「思考・判断・表現」の評価B以上60%以上 2 「思考・判断・表現」の評価B以上50%以上 1 「思考・判断・表現」の評価B以上50%未満	4	授業改善推進拠点校の研究を令和3年度から3年間実施してきた。その取組の中で、10チャレを全学年で年間を通して全学年が実施してきた成果が表れつつある。しかし、継続した指導がまだ必要であると、取組指標(75ポイント)からも分かる。	継続した指導を望む。	B	10チャレをはじめ、文章表現を児童がする前に、教員が文章表現のプロセスを理解した適切な指導を授業全般を通して実践していく。
		学んだことを日常生活に生かしたり、自分の周りの社会に役立てたりしようとする児童を育成する。	昭島市民科、各教科、特別活動、「特別の教科 道徳」全体を通じて児童がセルフモニタリング及びセルフコントロールする場を設定する。	4 教職員が70%以上の意識をもって行った。 3 教職員が60%以上の意識をもって行った。 2 教職員が50%以上の意識をもって行った。 1 教職員が50%未満の意識をもって行った。	4	4 授業で学んだことを生活や社会に生かそうとする児童70%以上 3 授業で学んだことを生活や社会に生かそうとする児童60%以上 2 授業で学んだことを生活や社会に生かそうとする児童50%以上 1 授業で学んだことを生活や社会に生かそうとする児童50%未満	4	全教職員が主に学びのスパイラルや、その中の学習感想において「授業で学んだことを生活に生かす」ことを意図的に指導してきた。しかし、成果指標(77ポイント)はまた、改善の余地があることを示唆している。	授業で学んだことは、生活に生かすことで初めて意味がある。	B	学んだことを児童が、いかに生活に生かそうとするのかを、昭島市民科を中心に据えて、各教科、特別活動、特別な教科 道徳を通して指導していく。また、校内研究の中心テーマに設定し、全校を挙げて取り組む必要がある。また、「学習の振り返り」の時間を確保し、セルフモニタリング、セルフコントロールする力を育成する。
豊かな心	(情) 自らのよさを見つめ、他者を尊重し、共にによりよく生きようとする児童の育成	不登校児童を減らし、すべての児童が安心して登校できる学校にする。	不登校アセスメントを丁寧にとり、児童・保護者の声や思いを十分にくみとれるように教員の感受性を高める。	4 教職員が70%以上の意識をもって行った。 3 教職員が60%以上の意識をもって行った。 2 教職員が50%以上の意識をもって行った。 1 教職員が50%未満の意識をもって行った。	4	4 いじめ・暴力の未解決0件 3 いじめ・暴力の未解決1件 2 いじめ・暴力の未解決2件 1 いじめ・暴力の未解決3件	3	いじめ・不登校対策委員会を毎月設定し、個別の案件に対して、きめ細かに対応してきているが、未解決の案件がある。また、解決した案件においても、継続して注意を払っていく必要がある。	前年と比較して、いじめの件数が減少したことはよいが、0を目指していくことを臨む。	B	不登校児童に対しては継続して、児童と社会のつながりが断たれることのないように全教職員で取り組んでいく。また、いじめに関する案件においては、解決したものに対しても継続して注視していく。
		学校生活を自ら創り上げる児童を育成する。	「拝二小学級力スタンダードver.2」を基に、児童自らが学校生活を築けるようにする。児童会選挙を実施する。	4 教職員が70%以上の意識をもって行った。 3 教職員が60%以上の意識をもって行った。 2 教職員が50%以上の意識をもって行った。 1 教職員が50%未満の意識をもって行った。	4	4 自分たちで学級・学校を創っていると感じる児童70%以上 3 自分たちで学級・学校を創っていると感じる児童60%以上 2 自分たちで学級・学校を創っていると感じる児童50%以上 1 自分たちで学級・学校を創っていると感じる児童50%未満	4	児童会活動や児童会選挙、また、各行事において、実行委員会を設置し、児童が中心となって学校を創っていく機会を設けてきた成果が表れている。また、学級力スタンダードver.2を活用し、学級も児童が考え、課題を見いだし改善する機会を設けてきた。	本校は児童会選挙もあり、児童の「学校を創っている」意識は高いと考える。	A	今後も、左記の取組を継続すると共に、更なる児童中心の学校作りをすすめていく。
		学校の決まりを守る風土を創り上げる。	学校の決まりの意味・意義を理解させ、守らせる。	4 教職員が70%以上の意識をもって行った。 3 教職員が60%以上の意識をもって行った。 2 教職員が50%以上の意識をもって行った。 1 教職員が50%未満の意識をもって行った。	4	4 学校のきまりを守っていると実感する児童70%以上 3 学校のきまりを守っていると実感する児童60%以上 2 学校のきまりを守っていると実感する児童50%以上 1 学校のきまりを守っていると実感する児童50%未満	4	年度や学期の始めにおいて全校で統一した「学校のきまり」を指導している。また、問題行動が見られた際においても、決まりの意味や意義を児童に説いている。	校内では児童は、きまりを守って行動している。家庭との連携を今以上に深めていくことで、一層の効果が望める。	A	教職員と児童とで、きまりの意味を考えるだけでなく、さらに、児童会や児童相互でお互いが過ごしやすい学校を作り上げていくことができるように、一層指導をしていく。
健やかな体	(体) 自らすすんで心と体をきたえ、たくましく生きる児童の育成	拝二小版スタンダード体育編を共通実践し、体育科の授業充実を図る。	コーディネーショントレーニング及び、拝二小版授業力スタンダード体育編ver.2を共通実践し、体育科の授業充実を図る。	4 教職員が70%以上の意識をもって行った。 3 教職員が60%以上の意識をもって行った。 2 教職員が50%以上の意識をもって行った。 1 教職員が50%未満の意識をもって行った。	4	4 運動が好きになったと実感できる児童70%以上 3 運動が好きになったと実感できる児童60%以上 2 運動が好きになったと実感できる児童50%以上 1 運動が好きになったと実感できる児童50%未満	4	コーディネーショントレーニングは体育科の授業に浸透してきている結果は表れている。	本校の体力向上は、他校と比較しても高いことが分かる。現状をいかに維持し、さらなる向上を目指すか・検討を要する。	A	コーディネーショントレーニングを、さらに体育の授業に浸透させていくために、拝二小版授業力スタンダード体育編ver.2の共通実践を進めていく。
		児童の課題に応じた様々な運動に親しませる場を設定し、運動能力の向上を図る。	体力調査(プレ・ポストテスト)の結果に基づく課題分析・解決策の共通理解と共通実践をする。	4 教職員が70%以上の意識をもって行った。 3 教職員が60%以上の意識をもって行った。 2 教職員が50%以上の意識をもって行った。 1 教職員が50%未満の意識をもって行った。	4	4 Tスコアを都平均以上にする。 3 Tスコアを都平均にする。 2 Tスコアを都平均より-1%にとどめる。 1 Tスコアを都平均より-2%にとどめる。	4	「元気アップカード」の活用と体力テストの振り返り、また朝のラジオ体操、コーディネーショントレーニングの実践が結果につながっている。Tスコアは、ほとんどの学年で全国平均を上回っている。	上に同じ。	B	今までの取組が結果に結びついているため、体育部を中心に、さらなる工夫改善をしていく。
		家庭と連携して、児童の基本的な生活習慣の確立を図る。	「グッドモーニング60分」を計画的に活用し、児童自身が生活改善の大切さを意識し実感できるようにする。	4 教職員が70%以上の意識をもって行った。 3 教職員が60%以上の意識をもって行った。 2 教職員が50%以上の意識をもって行った。 1 教職員が50%未満の意識をもって行った。	4	4 生活改善を実感する児童70%以上 3 生活改善を実感する児童60%以上 2 生活改善を実感する児童50%以上 1 生活改善を実感する児童50%未満	4	結果よりグッドモーニング60分の取組は、全教職員に浸透しているとは言えない。また、生活改善を実感している児童の増加が見られない。	全教職員への周知が必要である。	B	体育部と保健部で協力したグッドモーニング60分の取組が令和5年度より始まったことから、保健部の「すっきりカード」と体育部の「元気アップカード」を活用して生活習慣の改善を保護者の協力も得ながら推進していく。
輝く未来	(意) 自らすすんで挑戦し、最後までやり遂げることができる児童の育成	昭島市民科や各教科等の充実を図り、地域を担う市民としての愛着を育てる。	地域に根差した昭島市民科や各教科等の授業を展開することで地域に愛着をもつ児童を育成する。	4 教職員が70%以上の意識をもって行った。 3 教職員が60%以上の意識をもって行った。 2 教職員が50%以上の意識をもって行った。 1 教職員が50%未満の意識をもって行った。	4	4 地域に愛着をもつ児童70%以上 3 地域に愛着をもつ児童60%以上 2 地域に愛着をもつ児童50%以上 1 地域に愛着をもつ児童50%未満	4	本校児童の地域に対する愛着は、全国学力・学習状況調査の結果からも強いことが分かっている。また、教職員も昭島市民科を通して、地域に根ざした授業展開や学習内容を設定していることがその要因であると考えられる。	地域への関心の高まりは評価できる。また、その関心の高まりが、年々、向上していることがよい。	A	昭島市民科の授業実践が、さらに定着するように、本校では市民科週間を毎学期設定し、その学習の成果を発表する機会を設けている。その取組を今後も継続していく。
		●SDGsの達成のために社会を変革する主体者として、家庭生活から変えていこうとする態度を育てる。 ●地域人材を活用し、人との関わりの中で学ぶ機会を充実させる。(感染状況による)	●SDGsの達成のために、家庭生活を実際に改善しようとする行動に移すことができる児童を育成する。 ●地域人材を活用した体験活動を実施し、社会貢献しようとする児童を育成する。	4 教職員が70%以上の意識をもって行った。 3 教職員が60%以上の意識をもって行った。 2 教職員が50%以上の意識をもって行った。 1 教職員が50%未満の意識をもって行った。	4	4 社会貢献しようとする児童70%以上 3 社会貢献をしようとする児童60%以上 2 社会貢献をしようとする児童50%以上 1 社会貢献をしようとする児童50%未満	4	昭島市民科の学習では、深い視点をもって、身近な家庭や地域から社会を、よりよい方向に変えていくような学習内容を設定していることが、取組指標に表れている反面、成果指標である児童の意識は、「社会貢献をしたい」と考えるまでには十分育っていないことが分かる。	関心から、実際の行動へつなげていくことを意識的に指導計画に盛り込んでいることは評価できる。	A	昭島市民科の学習において、地域貢献に結びつくところまで計画を修正していく必要がある。
		体験活動を充実させ、社会の多様な課題への関心・意欲を高める。	自らの将来の進路を意識できる学習を実施する。	4 教職員が70%以上の意識をもって行った。 3 教職員が60%以上の意識をもって行った。 2 教職員が50%以上の意識をもって行った。 1 教職員が50%未満の意識をもって行った。	4	4 将来への夢や希望がもてたと実感できる児童80%以上 3 将来への夢や希望がもてたと実感できる児童60%以上 2 将来への夢や希望がもてたと実感できる児童50%以上 1 将来への夢や希望がもてたと実感できる児童50%未満	3	取組指標である教員の指導において、体験活動を重視していることが結果として出ているが、成果指標において、「将来への夢や希望をもっている」と答える児童の割合が低い。	東京交響楽団を招聘し、体験活動ができたことなど、児童に様々な体験活動ができる機会を、今後も提供できるようにしてほしい。	B	児童が将来に対して、より夢や希望がもてるよう、家庭と学校での連携の在り方を検討する。

令和5年度		昭島市立拝島第三小学校		学校経営重点計画(教育推進計画)年度末評価【総括表】									
学校教育目標		〇かしこく 〇やさしく 〇つよく	ビジョン	【目指す学校像】		・子供にとって安全・安心の学校　・保護者や地域とともに子供を育てる学校　・教職員が互いに高め合う学校							
				【目指す児童・生徒像】		・よく考え工夫する児童　・相手のことを考え、助け合う児童　・明るく元気な児童							
				【目指す教師像】		・質の高い指導を創造できる教師　・児童同士、教師同士が響き合い、感動とあこがれを創出できる教師　・児童、保護者、地域に貢献する仕事であることを自覚する教師							
領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標		評価	成果指標		評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
確かな学力	学校全体として組織的・計画的に、確かな学力を育みます	学習状況を把握し、「主体的・対話的で深い学び」の指導を充実、学力向上を図る。	①「問題解決の型」の徹底 ②「学習スタンダード」の徹底 ③朝学習の週5回実施 ④ICT機器の活用	4 3 2 1	全ての教員が、児童が主体的な授業を行った 8割以上の教員が、児童が主体的な授業を行った 7割の教員が、児童が主体的な授業を行った 児童が主体的な授業を行った教員が7割以下であった	4	4 3 2 1	児童アンケートで「主体的に学習した」が8割以上 児童アンケートで「主体的に学習した」が7割以上 児童アンケートで「主体的に学習した」が6割以上 児童アンケートで「主体的に学習した」が6割未満	4	11月の調査で主体的に学習したと回答した児童は92.4%となり、1学期より20ポイント以上、上昇した。	1学期より20ポイント以上アップしたことは素晴らしいことである。	A	高学年を中心に教科担任制を推進し、専門性を高めた教科指導を行う。
		授業のユニバーサルデザイン化を推進し、学習意欲と学力の向上を図る。	①子どもにやさしい教室環境 ②子どもにやさしい学習環境 ③子どもにやさしい授業 ④本領発揮プログラムの活用	4 3 2 1	ユニバーサルデザインチェックリストの全てに取り組んだ。 ユニバーサルデザインチェックリストの8割以上に取り組んだ。 ユニバーサルデザインチェックリストの7割以上に取り組んだ。 ユニバーサルデザインチェックリストの7割以下にしか取り組みなかった。	4	4 3 2 1	児童アンケートで「分かりやすい」が8割以上 児童アンケートで「分かりやすい」が7割以上 児童アンケートで「分かりやすい」が6割以上 児童アンケートで「分かりやすい」が6割未満	4	全ての学級でユニバーサルデザイン化を推進し、児童アンケートで「分かりやすい」が91%となった。	誰にでも分かりやすいユニバーサルデザインの取組は評価できる。	A	本領発揮プログラムをはじめとする具体的方策の一層の徹底を推進していく。
		タブレットPCの積極的な活用とキャリア教育の推進	①プログラミング学習に関わる授業(年5回以上) ②キャリア・パスポートに関わる指導(年3回) ③オンライン授業(年3回)	4 3 2 1	全ての教員が、タブレットを用いたオンライン授業を行うことができる。 8割の教員が、タブレットを用いたオンライン授業を行うことができる。 7割の教員が、タブレットを用いたオンライン授業を行うことができる。 6割の教員が、タブレットを用いたオンライン授業を行うことができる。	4	4 3 2 1	児童アンケートでオンライン授業への肯定的な評価が8割以上 児童アンケートでオンライン授業への肯定的な評価が7割以上 児童アンケートでオンライン授業への肯定的な評価が6割以上 児童アンケートでオンライン授業への肯定的な評価が6割未満	4	年3回のオンライン授業を実施した。アンケートでは84.3%の児童が肯定的な評価であった。	タブレットの活用をさらに推進してほしい。プログラミング推進も期待したい。	A	引き続きタブレットPCの積極的活用を推進する。
	豊かな心	児童の自己肯定感を高め、個々の良さを発揮できるように、学級活動を実施する。	①校内研究の推進 ②生活スタンダードの徹底 ③QUテストの活用	4 3 2 1	全ての教員が、生活スタンダードやガイドラインに基づく指導を行った 8割の教員が、生活スタンダードやガイドラインに基づく指導を行った 7割の教員が、生活スタンダードやガイドラインに基づく指導を行った 6割の教員が、生活スタンダードやガイドラインに基づく指導を行った	4	4 3 2 1	QUの結果で安定感のある学級が3割以上 QUの結果で安定感のある学級が2割以上 QUの結果で安定感のある学級が1割以上 QUの結果で安定感のある学級が1割未満	4	12学級中6学級が安定感のある学級であった。生活スタンダードの徹底により、学校がとても落ち着いている。	心身ともに成長する6年間、学校生活を通じて情緒を大切に育んでもらいたい。	A	具体的方策の継続と共に挨拶運動の強化を行い、豊かな心の醸成に努めていく。
		教育活動全体を通して、道徳的实践力を身に付けさせる。	①道徳授業地区公開講座 ②評価に関わるOJT研修 ③児童が考え議論する道徳	4 3 2 1	全ての教員が、道徳の時間の指導を改善した 8割の教員が、道徳の時間の指導を改善した 7割の教員が、道徳の時間の指導を改善した 6割の教員が、道徳の時間の指導を改善した	4	4 3 2 1	児童アンケートで「学校が楽しい」が8割以上 児童アンケートで「学校が楽しい」が7割以上 児童アンケートで「学校が楽しい」が6割以上 児童アンケートで「学校が楽しい」が6割未満	4	児童アンケートでは90.4%の児童が「学校は楽しい」と回答している。1学期に道徳の評価に関するOJT研修を行った。	道徳を学校生活に結び付けていく細やかな指導に期待している。	A	児童が考え議論する道徳を推進する。
		学校図書館を活用し、読書の啓発に取り組む。	①学校図書館の利用(週1回) ②読書旬間の実施(年3回) ③人権教育を推進する図書の購入	4 3 2 1	全ての学級が、週1回以上学校図書館を利用した。 8割の学級が、週1回以上学校図書館を利用した。 7割の学級が、週1回以上学校図書館を利用した。 6割の学級が、週1回以上学校図書館を利用した。	3	4 3 2 1	8割の児童が年間20冊以上の本を借りた 7割の児童が年間20冊以上の本を借りた 6割の児童が年間20冊以上の本を借りた 年間20冊以上の本を借りた児童が6割未満	4	12月末時点で、一人平均25冊以上の本を借りた。	タブレットを使って電子図書を活用すると高学年の読書も増えるのではないか。	B	全体として図書館利用は順調であるが、高学年の貸出冊数が少ない傾向が続いている。高学年への働きかけを強化する。
	健やかな体	運動能力テストの結果を基に作成する体力向上プランに基づき、系統的な指導を進める。	①体力向上プラン(9月改訂) ②コロナ禍でも可能な運動の推進 ③運動週間(年3回) ④本領発揮プログラムの活用	4 3 2 1	全教員が体力向上プランを活用した指導を行った 8割以上の教員がプランを活用した指導を行った 7割以上の教員がプランを活用した指導を行った 7割未満の教員がプランを活用した指導を行った	4	4 3 2 1	児童アンケートで「運動が楽しい」が8割以上 児童アンケートで「運動が楽しい」が7割以上 児童アンケートで「運動が楽しい」が6割以上 児童アンケートで「運動が楽しい」が6割未満	4	児童アンケートでは81.8%の児童が「運動は楽しい」と回答している。	楽しいと感じていないおよそ2割の児童に楽しいと感じさせる取組に期待します。	A	体力向上プランを作成し、体力テストの課題に沿った系統的な指導を行っていく。
		日常的な運動習慣の確立を図り、健康な生活を目指す。	①元気アップカードの活用 ②家庭への啓発活動(毎月) ③学校保健委員会(年1回)	4 3 2 1	全教員が元気アップカードを活用した指導を行った 8割以上の教員が元気アップカードを活用した指導を行った 7割以上の教員が元気アップカードを活用した指導を行った 7割未満の教員が元気アップカードを活用した指導を行った	4	4 3 2 1	7割以上の児童が目標を達成している 6割以上の児童が目標を達成している 5割以上の児童が目標を達成している 5割未満の児童が目標を達成している	4	元気アップカードを活用した指導を実施し、10月16日に学校保健委員会開催した。	中休みの有効利用や教師の声掛けなど工夫を感じる。更なる取組の推進を期待したい。	B	元気アップカードの活用の徹底を引き続き指導していく。
		安全教育を系統的に進め、自分の命を自分で守る力を育む。	①安全教育全体計画改訂(8月・2月) ②避難訓練の改善(年11回) ③安全指導日の指導(年11回)	4 3 2 1	全ての教員が、安全指導を計画的に行った 8割の教員が、安全指導を計画的に行った 7割の教員が、安全指導を計画的に行った 6割の教員が、安全指導を計画的に行った	4	4 3 2 1	保護者による学校評価(関係項目)肯定的評価8割以上 保護者による学校評価(関係項目)肯定的評価7割以上 保護者による学校評価(関係項目)肯定的評価6割以上 保護者による学校評価(関係項目)肯定的評価6割以下	4	避難訓練の改善を行い、警察と連携した不審者対応訓練や管理職不在時を想定した訓練を行った。	中休みや多くの教員に周知しない訓練は緊張感があり効果的であった。	A	引き続き具体的方策の徹底を図っていく。
	輝く未来	話し合い活動の指導を計画的に進め、自分たちの問題を自力で解決する力を育む。	①学級会活動(年10回以上) ②課題解決型学習の重視 ③タブレットPCの活用	4 3 2 1	全ての学級が、タブレットPCでの意見共有を行った 8割以上の学級が、タブレットPCでの意見共有を行った 6割以上の学級が、タブレットPCでの意見共有を行った タブレットPCでの意見共有を行った学級が6割未満	4	4 3 2 1	児童アンケートで「話し合い活動が楽しい」が8割以上 児童アンケートで「話し合い活動が楽しい」が7割以上 児童アンケートで「話し合い活動が楽しい」が6割以上 児童アンケートで「話し合い活動が楽しい」が6割未満	4	児童アンケートで94.1%の児童が「話し合い活動が楽しい」と回答した。タブレットPCの活用OJTも1学期に実施している。	話し合い活動が楽しいという評価が出ているのは素晴らしいと思う。	A	全ての学級がタブレットPCでの意見共有の授業を行うよう、引き続きICT活用推進に努める。
		教育活動を通して外部人材と交流体験できるようにする。	①各学年で外部人材を活用した授業を計画 ②コロナ禍においても実現可能な交流プログラムの作成	4 3 2 1	全学年で外部人材を活用した授業を実施した 8割以上の学年で外部人材を活用した授業を実施した 6割以上の学年で外部人材を活用した授業を実施した 外部人材を活用した授業を実施した学年が6割未満	4	4 3 2 1	保護者による学校評価(関係項目)肯定的評価8割以上 保護者による学校評価(関係項目)肯定的評価7割以上 保護者による学校評価(関係項目)肯定的評価6割以上 保護者による学校評価(関係項目)肯定的評価6割以下	3	全学年で外部人材を活用した授業を行うことができる。	外部人材はもちろん内部の人材もしっかり活用できているのが素晴らしい。	A	引き続き具体的方策の徹底を図っていく。
		保護者や地域と連携し、行事活動を充実させる。	①PTAや地域と連携して運動会・学習発表会・研究発表会を行う。 ②PTAや地域と連携し安全見守り活動の強化を行う。	4 3 2 1	PTAや地域と年4回以上の連携ができた。 PTAや地域と年3回以上の連携ができた。 PTAや地域と年2回以上の連携ができた。 PTAや地域との連携は年2回以下だった。	4	4 3 2 1	保護者による学校評価(関係項目)肯定的評価8割以上 保護者による学校評価(関係項目)肯定的評価7割以上 保護者による学校評価(関係項目)肯定的評価6割以上 保護者による学校評価(関係項目)肯定的評価6割以下	4	PTAと順調に連携を進めることができる。地域のお祭りも復活しつつある。	できることから無理せずに、徐々に楽しく地域と活動してほしい。	A	引き続き具体的方策の徹底を図っていく。

令和 5 年度		昭島市立瑞雲中学校		学校経営重点計画（教育推進計画）年度末評価【総括表】	
学校教育目標	すすんで学習に励む生徒 たくましい体力を身につけた生徒 規律と礼儀を重んじる生徒 すすんで働き、協力しあう生徒	ビジョン	【目指す学校像】	・真面目に努力する生徒が生き生きと活躍できる学校・自主・自立の精神を培うことができる学校・生徒・保護者・地域・教職員が誇りをもてる学校	
			【目指す児童・生徒像】	・すすんで学習に励む生徒・たくましい体力を身につけた生徒・規律と礼儀を重んじる生徒・すすんで働き、協力しあう生徒	
			【目指す教師像】	・親切、丁寧、コミュニケーション重視・全員一丸での組織対応・認めて褒める指導・チェックと改善・教育公務員の自覚・ライフワークバランス	

領域	中期経営目標 （3年間）	短期経営目標 （1年間）	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
確かな学力	全ての生徒に義務教育終了時に必要な基礎学力を定着させる学力保証の取組の充実	指導方法の工夫改善	ねらいの明示、導入の工夫、振り返り、授業評価を授業で実践する	4	自己評価4段階平均値3.7以上	3	4	90%以上の生徒が先生方は授業を工夫していると回答	3	B	振り返りにおいて、質問の内容に課題を感じたため検討していく。また、生徒が思考を深めるためのツールとしてICT機器も適切に活用していく。口頭試問や動画視聴などにより、授業時間の最後にも振り返りを行うようにし、基礎学力の定着率の向上を目指す。振り返りを考えさせるときに、何のために学び、どんなことと結び付いている学習なのかを明確にしていいく。
				3	自己評価4段階平均値3.6以上		3	80%～90%未満の生徒が先生方は授業を工夫していると回答			
				2	自己評価4段階平均値3.5以上		2	70%～80%未満の生徒が先生方は授業を工夫していると回答			
				1	自己評価4段階平均値3.5未満		1	70%未満の生徒が先生方は授業を工夫していると回答			
		学習意欲の向上と家庭学習の充実	『家庭学習の記録』を活用したり、宿題の出し方を工夫したりして家庭学習を定着させる	4	自己評価4段階平均値3.7以上	3	4	70%以上の生徒が家庭で決まった時間勉強していると回答	3	B	テスト前の学習計画表を学年で統一した様式にし、1年次より計画的に学習をする習慣を身に付けさせたい。また適宜、家庭学習の仕方や課題への取り組み方を助言し、学習意欲や効果を上げられるようにする。
				3	自己評価4段階平均値3.6以上		3	50%～70%未満の生徒が家庭で決まった時間勉強していると回答			
				2	自己評価4段階平均値3.5以上		2	40%～50%未満の生徒が家庭で決まった時間勉強していると回答			
				1	自己評価4段階平均値3.5未満		1	40%未満の生徒が家庭で決まった時間勉強していると回答			
		0	0	4	自己評価4段階平均値3.7以上		4	90%以上の生徒が先生方は授業を工夫していると回答			
				3	自己評価4段階平均値3.6以上		3	80%～90%未満の生徒が先生方は授業を工夫していると回答			
				2	自己評価4段階平均値3.5以上		2	70%～80%未満の生徒が先生方は授業を工夫していると回答			
				1	自己評価4段階平均値3.5未満		1	70%未満の生徒が先生方は授業を工夫していると回答			
豊かな心	多様な価値観の中で自身の判断力を磨き、心豊かに主体的に正しい判断をし行動できる人格の育成を目指す指導の充実	正しく判断し行動できる力の育成	生徒の心に寄り添う丁寧な生活指導や道徳教育を充実させる	4	自己評価4段階平均値3.4以上	3	4	90%以上の生徒が善悪を判断できる力が身に付いていると回答	3	B	学年全体に目を向けて、声かけを行う。また、自分自身の心にも余裕をもち、生徒に声をかける機会を増やして、日ごろから声をかけやすい雰囲気を作ること心かける。日々の生徒の様子をよく観察し、トラブルを未然に防止できるよう全教員で実践していく。
				3	自己評価4段階平均値3.3以上		3	80%～90%未満の生徒が善悪を判断できる力が身に付いていると回答			
				2	自己評価4段階平均値3.2以上		2	70%～80%未満の生徒が善悪を判断できる力が身に付いていると回答			
				1	自己評価4段階平均値3.2未満		1	70%未満の生徒が善悪を判断できる力が身に付いていると回答			
		生徒の主体的活動の充実	教育活動に他者と関わりながら主体的に判断する内容を取り入れる	4	自己評価4段階平均値3.6以上	3	4	90%以上の生徒が思いやりの心をもって行動していると回答	3	B	授業において、いろいろな人と交流することによって、様々な人の考えに触れる機会を作り、さらなるコミュニケーション能力の向上を目指し、どのように練習していったらよいのかを考えさせる。
				3	自己評価4段階平均値3.5以上		3	80%～90%未満の生徒が思いやりの心をもって行動していると回答			
				2	自己評価4段階平均値3.4以上		2	70%～80%未満の生徒が思いやりの心をもって行動していると回答			
				1	自己評価4段階平均値3.4未満		1	70%未満の生徒が思いやりの心をもって行動していると回答			
		0	0	4	自己評価4段階平均値3.6以上		4	90%以上の生徒が思いやりの心をもって行動していると回答			
				3	自己評価4段階平均値3.5以上		3	80%～90%未満の生徒が思いやりの心をもって行動していると回答			
				2	自己評価4段階平均値3.4以上		2	70%～80%未満の生徒が思いやりの心をもって行動していると回答			
				1	自己評価4段階平均値3.4未満		1	70%未満の生徒が思いやりの心をもって行動していると回答			
健やかな体	生き生きと豊かな社会生活を送るための基礎体力を身に付けさせる健康教育と体力向上の推進	基礎体力の向上	体育の授業や部活動、行事などを通じて基礎体力を向上させる	4	自己評価4段階平均値3.1以上	4	4	90%以上の生徒が体力が身に付いてきたと回答	3	B	準備運動や補強運動を正しいフォームで行い効果を高める。また、引き続き、環境や教員、役割分担にも力を入れて、能力差があっても個々に運動量が確保されるようにする。部活動では生徒自身が意欲的に取り組む環境を作っていくことが課題であり、主体的に行動できるような指導をしていく。
				3	自己評価4段階平均値3.0以上		3	80%～90%未満の生徒が体力が身に付いてきたと回答			
				2	自己評価4段階平均値2.9以上		2	70%～80%未満の生徒が体力が身に付いてきたと回答			
				1	自己評価4段階平均値2.9未満		1	70%未満の生徒が体力が身に付いてきたと回答			
		健康・安全に関する指導の充実	各学年・学級で状況に応じた健康・安全に関する日常的な指導を実施する	4	自己評価4段階平均値3.7以上	3	4	90%以上の生徒が安全や健康について学ぶことがあると回答	3	B	保護者の方と連携を図りながら、生徒の生活習慣について把握し、スモールステップで生活習慣の改善に取り組む。一部生徒の課題として昼夜逆転して朝起きられない、偏食やゲーム依存、片づけられないなどがあるので、そのような生徒への対応や指導について研修を行う。
				3	自己評価4段階平均値3.6以上		3	80%～90%未満の生徒が安全や健康について学ぶことがあると回答			
				2	自己評価4段階平均値3.5以上		2	70%～80%未満の生徒が安全や健康について学ぶことがあると回答			
				1	自己評価4段階平均値3.5未満		1	70%未満の生徒が安全や健康について学ぶことがあると回答			
		0	0	4	自己評価4段階平均値3.7以上		4	90%以上の生徒が安全や健康について学ぶことがあると回答			
				3	自己評価4段階平均値3.6以上		3	80%～90%未満の生徒が安全や健康について学ぶことがあると回答			
				2	自己評価4段階平均値3.5以上		2	70%～80%未満の生徒が安全や健康について学ぶことがあると回答			
				1	自己評価4段階平均値3.5未満		1	70%未満の生徒が安全や健康について学ぶことがあると回答			
輝く未来	自己を見つめ自らの生き方を考え、変化の著しい社会を生き抜く力を身に付ける生涯学習の視点からの進路指導の充実	進路指導の充実	生徒や保護者に寄り添い、親切丁寧な進路指導を実施する	4	自己評価4段階平均値3.7以上	3	4	70%以上の生徒が先生方は適切にアドバイスをすると回答	3	B	生徒が自分の得意なことを生かせるような方向性の進路を見つめるため、自己理解の学習に取り組むとともに、様々な進路を知る活動に取り組む。生徒と情報交換を行い、保護者とも連絡を取り合っている。面談をする際にも「聴く」姿勢を大切にす。
				3	自己評価4段階平均値3.6以上		3	60%～70%未満の生徒が先生方は適切にアドバイスをすると回答			
				2	自己評価4段階平均値3.5以上		2	50%～60%未満の生徒が先生方は適切にアドバイスをすると回答			
				1	自己評価4段階平均値3.5未満		1	50%未満の生徒が先生方は適切にアドバイスをすると回答			
		系統的な生き方指導の充実	三年間を通じて自己を見つめ、社会を知り、将来を考える指導を系統的に行う	4	自己評価4段階平均値3.6未満	3	4	90%以上の生徒が自分の将来について考えることがあると回答	3	B	中3での進路選択を自分のこととして受け止められるように、中1・2年の頃から職業調べや上級学校調べ、職場体験などを通し、勤労や学習に対する意欲や目的意識を育てていく。
				3	自己評価4段階平均値3.7未満		3	80%～90%未満の生徒が自分の将来について考えることがあると回答			
				2	自己評価4段階平均値3.8未満		2	70%～80%未満の生徒が自分の将来について考えることがあると回答			
				1	自己評価4段階平均値3.9未満		1	70%未満の生徒が自分の将来について考えることがあると回答			
		0	0	4	自己評価4段階平均値3.6未満		4	90%以上の生徒が自分の将来について考えることがあると回答			
				3	自己評価4段階平均値3.7未満		3	80%～90%未満の生徒が自分の将来について考えることがあると回答			
				2	自己評価4段階平均値3.8未満		2	70%～80%未満の生徒が自分の将来について考えることがあると回答			
				1	自己評価4段階平均値3.9未満		1	70%未満の生徒が自分の将来について考えることがあると回答			

令和5年度		昭島市立清泉中学校		学校経営重点計画(教育推進計画)年度末評価【総括表】	
学校教育目標	人権尊重の精神を基調とし、広く国際社会において信頼と尊敬の得られる知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな生徒の育成を目指す。 ・美しい心・創造的な知性・たくましい体	ビジョン	【目指す学校像】	生徒にとっても教職員にとっても、さらには家庭・地域にとっても「楽しく」、「学び、集い、あえる」学校の実現を目指す。□ 学校は「成長を実感できる場」である□ 学校は「自己実現できる場」である□ 学校は「夢や希望をくぐくむ場」である□ 学校は「安心して安全に生活できる場」である□ 学校は「『意外性』」「多様性」を生かしていく場」である	
			【目指す児童・生徒像】	(美しい心)正しい判断力、強固な信念、創造性に富んだ実行力、寛容の心と協力の精神を養う【創造的な知性】自ら学ぶ力、社会の変化に主体的に対応できる能力、国際社会で活躍できる力、世界に貢献する態度を養う【たくましい体】均整がとれ、耐久性に富み、機敏性をもった健康でバランスのとれた体を育てる	
			【目指す教師像】	【15歳の生徒の姿に責任をもつ教師】□ 生徒一人一人を大切にする教師 (声を聴く、対話から導き出す)□ 1時間1時間の授業を大切にする教師 (声を聴く、授業の質を向上する)□ 生徒・家庭・地域から信頼される教師 (声を聴く、自らの育中で範を示す)□ 「恥」を重んじ、チームのために自己の力を発揮できる教師 (声を聴く、意思を統合する)□ 清泉中を愛する教師 (清泉アワゲ！)	

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
確かな学力	基礎的・基本的な知識や技能の習得 思考力・判断力・表現力等を育成し、主体的に学ぶ態度の育成と学習意欲の向上を図る。	基礎的・基本的な知識・技能の習得に向けた授業改善を図る。	明確な課題提示と家庭での学習状況を把握し授業に生かす。	4 個々の生徒の学習状況を把握し、指導の個別化・個性化を図っている。 3 個々の生徒の学習状況を把握し、指導の個別化を図っている。 2 個々の生徒の学習状況を把握し、授業や家庭学習の課題に生かしている。 1 個々の生徒の学習状況が十分に把握されない。	2	4 授業が分かりやすいことへの肯定的評価85%以上 3 授業が分かりやすいことへの肯定的評価70%以上 2 授業が分かりやすいことへの肯定的評価50%以上 1 授業が分かりやすいことへの肯定的評価50%未満	3	授業が分かりやすさについて肯定的な意見は82.5%であった。	B	●生徒自身が「何のために学ぶのか」「何ができるようになるのか」など理解して学びに向かえるよう、明確な視点を示す。	
		既習事項等を活用しながら思考力・判断力・表現力等を醸成するための授業改善を図る。	教材研究、授業分析、指導方法等について工夫・改善し、わかる授業を実現する。	4 既習事項を生徒が自ら活用し、自ら課題を設定し、考えをまとめ表現する授業を行っている。 3 既習事項を生徒が自ら活用し、課題に対して自ら考えをまとめ表現する授業を行っている。 2 既習事項を活用し、課題に対して考えをまとめ表現する授業を行っている。 1 生徒がどのように課題解決していくか理解できない授業となっている。	3	4 他者との話し合いや意見を発表することへの肯定的評価85%以上 3 他者との話し合いや意見を発表することへの肯定的評価70%以上 2 他者との話し合いや意見を発表することへの肯定的評価50%以上 1 他者との話し合いや意見を発表することへの肯定的評価50%未満	3	授業での話し合いや発表について肯定的な意見は84.2%であった。	B	●各教科専門の講師を招聘した研究授業を行い、今求められている生徒主体の授業に向けて改善を図る。	
		自己の学習を調整する力などを育むための授業改善を図る。	学習の目標と流れ及び課題解決の方法がわかる授業を実施する。	4 生徒が学習のねらいを理解し、試行錯誤しながら課題解決する授業となっている。 3 生徒が学習のねらいを理解し、課題解決を行う授業となっている。 2 生徒が学習のねらいを理解し、学習に取り組む授業となっている。 1 生徒が学習のねらいを十分に理解していない授業となっている。	3	4 意欲的に学習できるよう授業を工夫していることへの肯定的評価85%以上 3 意欲的に学習できるよう授業を工夫していることへの肯定的評価70%以上 2 意欲的に学習できるよう授業を工夫していることへの肯定的評価50%以上 1 意欲的に学習できるよう授業を工夫していることへの肯定的評価50%未満	2	生徒はタブレットの使用に関して84.2%が肯定的だが保護者は41.1%だった。また、保護者は学校の授業の工夫授業について55.0%しか肯定的ではない。	B	●生徒の学びの状況を学校HP等で発信していく。	
豊かな心	落ち着いた学校生活の実現を図るとともに、自尊感情や自己肯定感を高め、豊かな心の育成を図る。	いじめ、不登校等、諸問題に対して組織的に対応し、見逃し「0」、未対応「0」とする。	学校いじめ対策委員会を毎週実施し、組織的に状況分析と対応方針を決定する。	4 全教職員が些細な生徒の変化を意識し、綿密な情報共有、組織的な対応が行えた。 3 教職員同士が連携し、情報共有および対応を図った。 2 担任等の担当者からの情報を基に、対応した。 1 不十分な対応があった。	4	4 学校はいじめの対応を行っていることへの肯定的な意見90%以上 3 学校はいじめの対応を行っていることへの肯定的な意見80%以上 2 学校はいじめの対応を行っていることへの肯定的な意見70%以上 1 学校はいじめの対応を行っていることへの肯定的な意見70%未満	4	楽しく学校生活を過ごしていると肯定的な意見は91.6%であった。	B	・毎週、学校いじめ問題対策委員会を実施。 ・いじめアンケート毎月実施。担任による聴き取り対応状況を学校として確認。	
		全教育活動を通じて、規範意識の上に、自己有用感を醸成する。	地域や外部機関等と目的を共有、連携した学習活動を推進する。	4 社会や人との関わりの中で規範意識を育み、自己有用感を醸成している。 3 社会や人との関わりの中で、他者の気持ちも考えながら自己有用感を醸成している。 2 人との関わりの中で自己有用感を醸成している。 1 人と関わる学習活動が十分に実施できていない。	3	4 自己有用感に関わる評価で肯定的な意見85%以上 3 自己有用感に関わる評価で肯定的な意見70%以上 2 自己有用感に関わる評価で肯定的な意見50%以上 1 自己有用感に関わる評価で肯定的な意見50%未満	4	自己肯定感に関する肯定的な意見は88.2%だった。	B	・職場体験や職業に関わる学習は教員と地域、保護者と連携しながら生徒の自己肯定感を高める取組を大切にしたい。	
		道徳的価値と実践力の育成のための授業を推進する。	新聞等を活用しSDGs等の内容も含め「考える・議論する・体験する道徳」の推進する。	4 教科書とともに新聞等の情報も活用しながら他者の意見も踏まえ自らの考えを構築し行動化する場面がある。 3 教科書とともに新聞等の情報も活用しながら他者の意見も踏まえ自らの考えを構築する場合がある。 2 他者の意見も踏まえ自らの考えを構築する場合がある。 1 他者との関わりの中で自らの考えを構築していく場面が十分ではない。	2	4 よりよいあり方を考え「自分もクラスに貢献したい」と考えることへの肯定的評価85%以上 3 よりよいあり方を考え「自分もクラスに貢献したい」と考えることへの肯定的評価70%以上 2 よりよいあり方を考え「自分もクラスに貢献したい」と考えることへの肯定的評価50%以上 1 よりよいあり方を考え「自分もクラスに貢献したい」と考えることへの肯定的評価50%未満	4	安心して生活しているかについての肯定的な意見は87.8%であった。	B	・生徒たちが落ち着いた学習に向かっている。また、生徒たちが明るく挨拶してくれる様子もよい。	
健やかな体	心身ともにたくましく、健やかな生徒の育成を図る。	体力向上と生涯にわたるスポーツに親しむ態度の育成	体育の授業、体育的行事や運動部活動を通してスポーツに親しむ。	4 体力向上について計画的に指導を行い成果をあげている。 3 体力向上について計画的に指導を行っている。 2 あまり行っていない。 1 行っていない。	2	4 生徒の体力向上への肯定的評価85%以上 3 生徒の体力向上への肯定的評価70%以上 2 生徒の体力向上への肯定的評価50%以上 1 生徒の体力向上への肯定的評価50%未満	2	体力向上に関して肯定的な意見は66.4%であった。	C	・体育委員会を新設し、生徒が自由に楽しみながら体を動かす機会を増やす。	
		保健・健康の増進	食育を推進し、自らの心身の健康について考える機会を充実する。	4 各種年間指導計画に基づき十分な指導を行い成果をあげている。 3 各種年間指導計画に基づき指導を行っている。 2 各教科等で実施している。 1 十分な指導が実施できていない。	2	4 食事や栄養についての知識を生活で生かしている85%以上 3 食事や栄養についての知識を生活で生かしている70%以上 2 食事や栄養についての知識を生活で生かしている50%以上 1 食事や栄養についての知識を生活で生かしている50%未満	2	食事や栄養についての知識を生かしていることに肯定的な意見は70.5%であった。	C	・栄養士と連携しながら家庭科で学んだ栄養等について考え、献立コンテストを実施する。 ・お弁当の日の意義を家庭と共有していく。	
		個に応じた支援の充実	校内委員会(相談部会)を中心に、個の意実態把握と支援方法を構築する。	4 個別の支援計画の作成と評価、次の手立ての流れが検討している。 3 個別の指導・支援計画の実施と評価ができている。 2 個別の指導計画を作成し指導場面で活用している。 1 個別の指導計画を十分に活用していない。	4	4 学校の相談体制について肯定的な意見85%以上 3 学校の相談体制について肯定的な意見70%以上 2 学校の相談体制について肯定的な意見50%以上 1 学校の相談体制について肯定的な意見50%未満	3	相談に関する質問項目において生徒は87.1%が肯定的であったが保護者は39.3%の方は学校への相談に対して否定的であった。	B	・学校の考えを学校HPや学年便り等で発信する。 ・生徒が教職員の誰にでも相談できる体制を整える。	
輝く未来	生徒一人ひとりの夢と希望を育むために、3年間の見通しに立った進路指導の実現を図る。	人権教育に踏まえたキャリア教育の推進	生徒一人ひとりに寄り添い、生徒の可能性を引き出し、伸ばす教育を推進する。	4 人権の課題に触れながら自己理解が進み、自己の可能性も見出す学習活動がある。 3 人権教育とキャリア教育を推進している。 2 自己のよさや特性を考えキャリアプランを考える場面がある。 1 自己のよさや特性を十分に考える場面が設定されていない。	3	4 自らの個性・特性への理解の肯定的評価85%以上 3 自らの個性・特性への理解の肯定的評価70%以上 2 自らの個性・特性への理解の肯定的評価50%以上 1 自らの個性・特性への理解の肯定的評価50%未満	4	自らの個性や特性へ理解に関する肯定的な意見は88.2%であった。	A	・全教育活動を通じて、自分自身を肯定的に見つめる機会を充実する。 ・教職員の言葉かけの質の向上を図る。	
		自己決定力の醸成	年間指導計画に基づき、活用資料等を工夫した進路指導を推進する。	4 年間指導計画に沿って計画的に進路指導により成果をあげている。 3 年間指導計画に沿って進路指導は実施している。 2 年間指導計画に沿っての進路指導を行っている。 1 年間指導計画に沿った進路指導が実施できていない。	3	4 将来について考えることへの肯定的評価85%以上 3 将来について考えることへの肯定的評価70%以上 2 将来について考えることへの肯定的評価50%以上 1 将来について考えることへの肯定的評価50%未満	3	将来について考えることに肯定的な意見は83.6%である。	B	・教員のキャリアパスポートへの理解を深める。 ・学校の取組を保護者に発信し、連携できるようにする。	
		働くことの意義の理解と喜びを知る教育の推進	生徒の自治的活動を推進するとともに、体験活動を充実させる。	4 学校生活における課題を自ら見つけ他者と関わりながら自己の役割を見出す取組を設定している。 3 自らの役割を意識し、その責任を果たす取組を設定している。 2 自己の役割を果たす取組にとどまっている。 1 十分に自己の役割を果たす意識を醸成できていない。	3	4 自己の役割を果たそうとする評価で肯定的な意見85%以上 3 自己の役割を果たそうとする評価で肯定的な意見70%以上 2 自己の役割を果たそうとする評価で肯定的な意見50%以上 1 自己の役割を果たそうとする評価で肯定的な意見50%未満	4	生活をよりよくしていこうとする肯定的な意見は91.6%であり、日ごろからも主体的に活動する場面が見受けられた。	A	・現在行っている生徒会本部を中心とした生徒による改革を推進していく。	

令和5年度		昭島市立拝島中学校		学校経営重点計画(教育推進計画)年度末評価【総括表】	
学校教育目標	勉学 敬愛 至誠 健康	よく考え正しく判断できる人 人を敬愛し愛と慈しみのある人 誠実で責任感の強い人 健康で心身ともにたくましい人	ビジョン	【目指す学校像】	(1)安心して楽しく活動できる学校 (2)生きる力を育む学校 (3)家庭・地域とのつながりを大切にする学校
				【目指す児童・生徒像】	(1)主体的に学習する生徒 (2)相手のことを考えながら行動できる生徒 (3)共に心身を鍛える生徒
				【目指す教師像】	(1)生徒と正面から向かい合える教師 (2)豊かな人間性を備えた教師 (3)学び続ける教師

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
確かな学力	基礎・基本の定着	授業規律の確立	落ち着いた一日のスタートを切るための主体的な朝読書の取組	4	生徒が8:20分には朝読書をするように指導した95%以上達成	4	朝読書で毎日、8:20には集中して取り組んだ90%以上	3	80%以上取り組んだと回答した生徒の割合は72.3%であった。取組指標においては、生徒が8:20には朝読書をするように指導した90%以上と回答した割合が79.2%にとどまっている。8:20前に静かで落ち着いた環境をつくり、生徒の朝読書への取組を習慣化させる必要がある。	B	前年度よりも朝のスタートが早く、静かになっている。朝読書に対する3年生の取組が後輩にもよいながれになっていて良い。朝読書の取組自体が良い。
				3	生徒が8:20分には朝読書をするように指導した80%以上達成	3	朝読書で毎日、8:20には集中して取り組んだ80%以上				
				2	生徒が8:25分には朝読書をするように指導した95%以上達成	2	朝読書で毎日、8:20には集中して取り組んだ70%以上				
				1	生徒が8:25分には朝読書をするように指導した95%未満達成	1	朝読書で毎日、8:20には集中して取り組んだ70%未満				
		教員が授業始まりに教室でチャイムを聞く実践95%以上		4	チャイム終了時に授業開始の号令実施90%以上	4	着席チャイムが、学期を通して守ることができた90%以上	4	80%以上守ることができたと回答した生徒の割合は91%であった。授業の開始の時間を意識して準備をすることができている。取組指標、成果指標ともに90%以上と回答する割合が9割を超えるよう、徹底していく。	A	授業と休み時間のけじめがきちんとつけられている。チャイム前に教員が入り、生徒の様子を見守っているのが良い。授業規律はおおむね守られている。
				3	チャイム終了時に授業開始の号令実施80%以上	3	着席チャイムが、学期を通して守ることができた80%以上				
				2	チャイム終了時に授業開始の号令実施70%以上	2	着席チャイムが、学期を通して守ることができた70%以上				
				1	チャイム終了時に授業開始の号令実施70%未満	1	着席チャイムが、学期を通して守ることができた70%未満				
		わかる授業、達成感・満足感のある授業の実践	生徒が見通しを持ち、授業で学んだことが分かる授業の実践	4	授業の目標・流れを示し、振り返り実施90%以上	4	授業の目標、一時間の流れを示し、振り返りをしてきている。90%以上	3	目標・流れの提示していると回答した生徒の割合が83%、まとめ・振り返りをしてきていると解答した生徒の割合が75%であった。取組指標では、85%以上実践と回答した割合が69.6%、80%実践と回答した割合が81.6%であったため、評価2とした。85%実践の100%を達成し、分かる授業の実践をしていく必要がある。	B	見通しをつけることで、予習、復習に役立てて良い。授業の内容についていく生徒、そうでない生徒の差を埋めるのは難しい。授業理解に向けたさらなる努力が必要である。
				3	授業の目標・流れを示し、振り返り実施85%以上	3	授業の目標、一時間の流れを示し、振り返りをしてきている。80%以上				
				2	授業の目標・流れを示し、振り返り実施80%以上	2	授業の目標、一時間の流れを示し、振り返りをしてきている。70%以上				
				1	授業の目標・流れを示し、振り返り実施80%未満	1	授業の目標、一時間の流れを示し、振り返りをしてきている。70%未満				
			一単位時間の学び量が豊富な授業の実践	4	週案に授業の目標提示、授業の振り返りを実践90%以上	4	達成感・満足感がある。80%以上	3	達成感・満足感があると回答した生徒の割合が81.3%、教科の楽しさを感じると回答した生徒の割合が79.7%であった。取組指標においては、授業の目標の設定や授業の振り返りの実施はしているものの、週案への記載が十分ではない現状がある。年間指導計画をもとに翌週の計画を確実に記載し、計画的に授業を行っていく必要がある。	B	次の週の目標を立てることにより達成感が得られていて良い。授業の内容についていく生徒、そうでない生徒の差を埋めるのは難しい。授業の充実について工夫が必要。
				3	週案に授業の目標提示、授業の振り返りを実践80%以上	3	達成感・満足感がある。70%以上				
				2	週案に授業の目標提示、授業の振り返りを実践70%以上	2	達成感・満足感がある。60%以上				
				1	週案に授業の目標提示、授業の振り返りを実践70%未満	1	達成感・満足感がある。60%未満				
豊かな心	豊かな情操の育成	主体的に規律を守れる生徒の育成	教員・生徒ともに挨拶を主体的に実践及び生徒会活動の活性化	4	生徒が主体的に挨拶できるよう毎日指導を行った。100%	4	自分から進んでほぼ毎日できている	2	挨拶をしていると回答した生徒の割合は92.4%であった。取組指標において、2学期末の時点で90%以上と回答した割合が69.7%から82.6%へと増加した。挨拶の習慣は概ね身に付いていると言えるが、自分から進んで挨拶できるよう指導の充実を図る必要がある。	A	校内、廊下ですれ違うとき、元氣よく挨拶ができる生徒が多い。職場体験中の生徒からも気持ちよいあいさつがあった。挨拶は概ねできている。
				3	生徒が主体的に挨拶できるよう毎日指導を行った。90%	3	挨拶をされたときはほぼ挨拶をしている				
				2	生徒が主体的に挨拶できるよう毎日指導を行った。80%	2	挨拶ができなかったことが多かった				
				1	生徒が主体的に挨拶できるよう毎日指導を行った。80%未満	1	挨拶はほとんどできなかった				
		主体的な清掃活動を充実させるために委員会活動の活性化		4	積極的に行った	4	清掃活動を、自ら進んできちんと行った90%以上	3	80%以上きちんと行ったと回答した生徒の割合は72.8%であった。概ね主体的に清掃活動に取り組むことができているが、掃除場所が多岐にわたり、人数も多く、清掃時間時間が短いこともあり、煩雑になっているところもある。生徒による清掃活動の振り返りと、教員の確認、指導を充実させる必要がある。	B	清掃活動を進んでできることはすばらしい。基準を高く設定し、清掃しているのきれいな環境を維持できている。清掃活動は概ね良い。
				3	どちらといえば積極的に取り組んだ	3	清掃活動を、自ら進んできちんと行った80%以上				
				2	どちらかといえば消極的になってしまった	2	清掃活動を、自ら進んできちんと行った70%以上				
				1	消極的になってしまった	1	清掃活動を、自ら進んできちんと行った70%未満				
		主体的に行動できる生徒の育成	行事・委員会・係活動において、主体的に考え行動できるような指導・支援の推進	4	積極的に行った	4	行事・委員会・係活動に、自ら進んで積極的に参加できた。90%以上	4	取り組みたと回答した生徒の割合は88.7%であった。自分の仕事に対し、責任をもち主体的に取り組むことはできている。学校をよりよくするために何ができるかを考え、提案し、主体的に行動できるよう指導、支援を推進していく。	A	行事・諸活動は概ねよくできている。合唱コンクールなどにも、それぞれ新しい取り組みを考えていて、画期的である。いろいろな活動に積極的になれない生徒への支援の充実が必要である。
				3	どちらといえば積極的に取り組んだ	3	行事・委員会・係活動に、自ら進んで積極的に参加できた。80%以上				
				2	どちらかといえば消極的になってしまった	2	行事・委員会・係活動に、自ら進んで積極的に参加できた。70%以上				
				1	消極的になってしまった	1	行事・委員会・係活動に、自ら進んで積極的に参加できた。70%未満				
健やかな体	心と体の健康維持	主体的に健康管理のできる生徒の育成	主体的な健康管理を推進するための生徒会活動の活性化	4	積極的に行った	4	自ら進んで日々の健康管理に努めた90%以上	3	80%以上できたと回答した生徒の割合は90.8%であった。給食前の手洗いや朝の健康管理などしっかりと行えている。保健委員を中心とした健康管理への啓発活動をより一層活性化させる。	B	先生と生徒、家庭で協力し、健康の保持・増進に取り組む必要がある。インフルエンザ等感染症にかかりにくい健康管理をする呼びかけを増やしていくとよい。
				3	どちらといえば積極的に取り組んだ	3	自ら進んで日々の健康管理に努めた80%以上				
				2	どちらかといえば消極的になってしまった	2	自ら進んで日々の健康管理に努めた70%以上				
				1	消極的になってしまった	1	自ら進んで日々の健康管理に努めた70%未満				
		防災意識の高い生徒の育成	毎回の避難訓練において、防災意識を高める実践	4	積極的に行った	4	避難訓練の始まりから終わりまで真剣に行えた90%以上	4	80%以上真剣に行ったと回答した生徒の割合は94.7%であった。無言行動を徹底し、規律のある避難訓練を実施することができている。様々な場面、状況を想定した避難訓練を実施していく。	A	規律ある避難訓練ができている。無言行動の徹底により、安全面でも集中できて良い。防災訓練、セーフティ教室など積極的に取り組んでいる。訓練実施を見学できる機会があるとよい。
				3	どちらといえば積極的に取り組んだ	3	避難訓練の始まりから終わりまで真剣に行えた80%以上				
				2	どちらかといえば消極的になってしまった	2	避難訓練の始まりから終わりまで真剣に行えた70%以上				
				1	消極的になってしまった	1	避難訓練の始まりから終わりまで真剣に行えた70%未満				
輝く未来	自立できる生徒の育成	他者理解を心がけ、人間関係における課題を見つけ、解決していく生徒の育成	行事や学級活動を通して、円滑な人間関係の創造	4	積極的に取り組んだ	4	行事・学級活動を通して、思いやりのある行動が取れた	4	取り組みたと回答した生徒の割合は90.6%であった。行事や学級活動において、人間関係の課題に向き合い、協働的に活動する様子が見られた。全教育活動を通じて自分自身を見つめる機会を意図的・計画的に設定していく。	A	合唱コンクール等の機会でもクラスのために力を発揮しようという様子が見られた。学校を卒業してからも規律を守れる、しっかりした人間を目指していくとよい。
				3	どちらといえば積極的に取り組んだ	3	行事・学級活動を通して、どちらかといえば思いやりのある行動が取れた				
				2	どちらかといえば消極的になってしまった	2	行事・学級活動を通して、どちらかといえば思いやりのある行動が取れなかった				
				1	消極的になってしまった	1	行事・学級活動を通して、思いやりのある行動が取れなかった				
		将来の生き方を考える生徒の育成	キャリアパスポート、職業調べ、職場体験、上級学校調べ、高校の先生の話聞く会等キャリア教育の充実	4	生徒が主体的に取り組めるよう積極的に指導した	4	将来の生き方について自ら進んで考えた90%以上	2	自ら進んで考えた80%以上と回答した生徒の割合が67%であった。キャリアパスポートや職場体験、進路学習など行っているが、将来の生き方と関連付けて考えることに課題がある。3年間を見通し、計画的に実施していく必要がある。	A	社会に出てからも人の役に立てる人になってほしい。社会が変化する中、将来のことを考えるのは難しいが、学校として情報提供に力をいれている。職場体験はキャリア育成には有効である。
				3	生徒が主体的に取り組めるようどちらかといえば積極的に指導した	3	将来の生き方について自ら進んで考えた80%以上				
				2	生徒が主体的に取り組むための指導がどちらかといえば消極的だった	2	将来の生き方について自ら進んで考えた70%以上				
				1	生徒が主体的に取り組むための指導が消極的だった	1	将来の生き方について自ら進んで考えた70%未満				

令和5年度		昭島市立多摩辺中学校		学校経営重点計画(教育推進計画)年度末評価【総括表】		
学校教育目標	進んで勉強しよう 思いやりのある人になろう 進んで心身をきたえよう	ビジョン	【目指す学校像】	1 安心して楽しく活動できる学校	2 生きる力を育む学校	3 家庭・地域との繋がりを大切にする学校
			【目指す児童・生徒像】	1 深く考え、主体的に学習する生徒	2 思いやりのある生徒	3 共に心身を鍛える生徒
			【目指す教師像】	1 生徒と正面から向き合える教師	2 豊かな人間性を世帯えた教師	3 学び続ける教師

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標		評価	成果指標		評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
確かな学力	基礎・基本の定着	授業規律の確立	教室で始業のチャイムを聞く実践	4	チャイム終了までに授業開始した95%以上	4	4	2分前着席が、学期を通して守ることができた80%以上	4	全校的に時間を意識して生活できているが、特に朝の登校時は、学年によって取組の徹底に差があった。	習慣として5分前行動の育成をした方が良い	A	全教員が足並みを揃えた指導を行えるようにチームとして取り組んでいく。
				3	チャイム終了までに授業開始した90%以上		3	2分前着席が、学期を通して守ることができた70%以上					
				2	チャイム終了までに授業開始した80%以上		2	2分前着席が、学期を通して守ることができた65%以上					
				1	チャイム終了までに授業開始した80%未満		1	2分前着席が、学期を通して守ることができた65%未満					
		わかる授業、達成感・満足感のある授業	生徒が見通しをもち、授業で学んだことが分かる指導の実践	4	授業の目標・流れを示し振り返りを行った90%以上	4	4	授業の目標、1時間の流れを伝えてくれている80%以上	4	授業構成や指導方法を工夫する教員が増えているが、学力の定着は課題となっている。	良い	A	生徒の実態把握・アンケートの分析に努め、指導方法の改善を図る。
				3	授業の目標・流れを示し振り返りを行った85%以上		3	授業の目標、1時間の流れを伝えてくれている75%以上					
				2	授業の目標・流れを示し振り返りを行った80%以上		2	授業の目標、1時間の流れを伝えてくれている70%以上					
				1	授業の目標・流れを示し振り返りを行った80%未満		1	授業の目標、1時間の流れを伝えてくれている70%以上未満					
			教育のユニバーサルデザインを探索した授業の実践	4	生徒が分かった、できたという達成感満足感もてるよう授業を工夫した80%以上	4	4	分かった、できたという達成感、満足感がある80%以上	4	肯定的回答は9割を超えているが、「はい」のみの回答は6割で、教員によって差が大きい。	寝ている生徒、意欲のない生徒への声掛けや支援を増やし他方が良い。	A	授業力向上アドバイザー事業の取組を通じて、改善を図っていく。
				3	生徒が分かった、できたという達成感満足感もてるよう授業を工夫した75%以上		3	分かった、できたという達成感、満足感がある70%以上					
				2	生徒が分かった、できたという達成感満足感もてるよう授業を工夫した70%以上		2	分かった、できたという達成感、満足感がある60%以上					
				1	生徒が分かった、できたという達成感満足感もてるよう授業を工夫した70%未満		1	分かった、できたという達成感、満足感がある60%未満					
豊かな心	豊かな情操の育成	自尊感情・自己有用感ののもてる生徒の育成	学校生活全般における褒める指導の実践	4	積極的に生徒の良さを見付け、褒める指導を実践した90%以上	4	4	生徒の考え・活動・頑張りを認めてくれる75%以上	4	些細なことでも頑張ったことを具体的に褒めることを実践していたが、生徒にその実感がない現状もあった。	良い	A	取組を継続し、自尊感情・自己有用感の醸成に努めていく。
				3	積極的に生徒の良さを見付け、褒める指導を実践した80%以上		3	生徒の考え・活動・頑張りを認めてくれる70%以上					
				2	積極的に生徒の良さを見付け、褒める指導を実践した70%以上		2	生徒の考え・活動・頑張りを認めてくれる65%以上					
				1	積極的に生徒の良さを見付け、褒める指導を実践した70%未満		1	生徒の考え・活動・頑張りを認めてくれる65%未満					
			勇気づけ言葉の実践	4	勇気づけ言葉を意識した指導を行った90%以上	4	4	挨拶を自ら進んで毎日行った90%以上	3	生徒間でも認め合う雰囲気が出てきた。自ら進んで挨拶することが課題である。	ある程度自分から挨拶する生徒を見るが、一部できていない生徒もいる。	A	挨拶運動を継続し、温かな人間関係の構築に努めていく。
				3	勇気づけ言葉を意識した指導を行った80%以上		3	挨拶を自ら進んで毎日行った80%以上					
				2	勇気づけ言葉を意識した指導を行った70%以上		2	挨拶を自ら進んで毎日行った70%以上					
				1	勇気づけ言葉を意識した指導を行った70%未満		1	挨拶を自ら進んで毎日行った70%未満					
		他者理解を心掛け人間関係における課題を見つけ解決していく生徒の育成	学級活動・行事・生徒会活動・部活動等における円滑な人間関係の構築	4	生徒の主体性を育む活動をした90%以上	3	4	行事、学級活動を通して思いやりのある行動がとれた60%以上	4	思いやりのあるリーダーが育つ一方、人間関係が構築できない生徒も増えているのが、課題である。	良い	A	生徒主体の活動と人間関係の構築を図る取組を継続する。
				3	生徒の主体性を育む活動をした85%以上		3	行事、学級活動を通して思いやりのある行動がとれた55%以上					
				2	生徒の主体性を育む活動をした80%以上		2	行事、学級活動を通して思いやりのある行動がとれた50%以上					
				1	生徒の主体性を育む活動をした80%未満		1	行事、学級活動を通して思いやりのある行動がとれた50%未満					
健やかな体	心と体の健康維持	自ら健康管理のできる生徒の育成	主体的な健康管理を推進する生徒会活動の活性化	4	生徒が主体的に健康管理できるよう日々取り組んだ100%	1	4	自ら進んで日々の健康管理に努めた65%以上	4	委員からの呼びかけ等、感染予防の取組は継続していたが、コロナ禍に比べると徹底はしていなかった。	良い	A	生徒主体で健康管理・感染症予防ができるように委員会活動を充実させる。
				3	生徒が主体的に健康管理できるよう日々取り組んだ95%以上		3	自ら進んで日々の健康管理に努めた60%以上					
				2	生徒が主体的に健康管理できるよう日々取り組んだ90%以上		2	自ら進んで日々の健康管理に努めた55%以上					
				1	生徒が主体的に健康管理できるよう日々取り組んだ90%未満		1	自ら進んで日々の健康管理に努めた55%未満					
		防災意識の高い生徒の育成	毎月の避難訓練における意識の向上と命を守る指導の徹底	4	防災意識を高める指導を積極的に行った95%以上	4	4	避難訓練の始めから終わりまで真剣に行えた95%以上	4	様々な場面を想定して行った結果、教員も生徒も自ら判断して動く意識が高まった。	必要なことなので、今後ぜひ進めてほしい。	A	更に防災意識を高め、命を守る指導を徹底していく。
				3	防災意識を高める指導を積極的に行った90%以上		3	避難訓練の始めから終わりまで真剣に行えた85%以上					
				2	防災意識を高める指導を積極的に行った85%以上		2	避難訓練の始めから終わりまで真剣に行えた75%以上					
				1	防災意識を高める指導を積極的に行った85%未満		1	避難訓練の始めから終わりまで真剣に行えた75%未満					
		自らの体調を自己管理できる生徒の育成	朝学活時の生徒の健康観察の実践	4	生徒の顔色や表情の変化を見逃さず、声を掛けた90%以上	4	4	朝食を毎日食べている75%以上	4	生徒の姿勢や表情を観察し、気になることがあれば、声を掛けることを徹底していた。	家庭とも連携して進めてほしい。	A	引き続き、学校全体で感染症予防に取り組んでいく。
				3	生徒の顔色や表情の変化を見逃さず、声を掛けた80%以上		3	朝食を毎日食べている65%以上					
				2	生徒の顔色や表情の変化を見逃さず、声を掛けた70%以上		2	朝食を毎日食べている60%以上					
				1	生徒の顔色や表情の変化を見逃さず、声を掛けた70%未満		1	朝食を毎日食べている60%未満					
輝く未来	自主自律	自ら課題を見つけ解決していく生徒の育成	自主自律を促す生徒による行事の運営の推進	4	生徒主導で動ける体制づくりを指導できた90%以上	4	4	行事・委員会係活動等に自ら進んで積極的に参加できた80%以上	4	リーダー育成の視点を持ち、生徒主体となる取組となるよう、運営できた。生徒の達成感も高かった。	良い。特に道徳授業が良かった。	A	引き続き、生徒主体の活動ができるように充実と活性化を図っていく。
				3	生徒主導で動ける体制づくりを指導できた80%以上		3	行事・委員会係活動等に自ら進んで積極的に参加できた75%以上					
				2	生徒主導で動ける体制づくりを指導できた70%以上		2	行事・委員会係活動等に自ら進んで積極的に参加できた70%以上					
				1	生徒主導で動ける体制づくりを指導できた70%未満		1	行事・委員会係活動等に自ら進んで積極的に参加できた70%未満					
		学校と家庭が連携した生活習慣の確立	家庭学習の定着を図る取組	4	家庭学習への指導を毎週行った90%以上	1	4	家庭学習の時間が平均2～3時間が30%以上	2	教科担当の意識が低く、考査前以外に呼びかけや指導は殆どなかった。	少し取り組みが進んでいないと感じる。中間報告での方向性を進めてほしい。	B	学習eポータルを活用し、家庭学習の状況を把握し、具体的な取組を進める。
				3	家庭学習への指導を毎週行った80%以上		3	家庭学習の時間が平均2～3時間が20%以上					
				2	家庭学習への指導を毎週行った70%以上		2	家庭学習の時間が平均2～3時間が10%以上					
				1	家庭学習への指導を毎週行った70%未満		1	家庭学習の時間が平均2～3時間が10%未満					
		将来の生き方を考えられる生徒の育成	キャリアパスポート、職業調べ、職場体験、上級学校調べ等キャリア教育の充実	4	生徒が主体的に取り組めるよう指導した95%以上	1	4	将来の生き方について自ら進んで考えた80%以上	4	生徒が自己の進路学習に前向きに取り組んでいたが、若干、主体性に欠けた指導であった。	良い	A	キャリア教育全般を通して、自ら考え、判断していく場面を増やしていく。
				3	生徒が主体的に取り組めるよう指導した90%以上		3	将来の生き方について自ら進んで考えた75%以上					
				2	生徒が主体的に取り組めるよう指導した85%以上		2	将来の生き方について自ら進んで考えた70%以上					
				1	生徒が主体的に取り組めるよう指導した85%未満		1	将来の生き方について自ら進んで考えた70%未満					